



年報 (2023年度)



独立行政法人国立病院機構

栃木医療センター

国立病院機構栃木医療センター
院長 田村 明彦

2023 年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症については、5 月に 2 類から警戒レベルの低い 5 類となりました。補助金収入は激減しましたが、周期的な流行があったため、隔離解除後の入院が患者数確保には有用でした。

超高齢化社会の最初の節目とされる 2025 年に向け、遅れていた医療体制の整備が本格的に再開となりました。

10 月には当院主管で第 22 回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会が開催され、テーマは「少子高齢化社会を支える地域医療」となりました。特別講演は、「～少子高齢化時代のとちぎづくりに向けて～」栃木県保健福祉部地域医療担当の早川貴裕先生に今後の地域医療の方向性についてお話をいただきました。病院挙げて取り組んだ結果、多数の演題と共に、200 名近い方に参加いただきました。地域医療にとっても大変有意義な集会になったと思います。

2024 年 4 月より医師の働き方改革が始まるため、地域医療や業務に支障がないように行政との頻回の会議、説明会、調整が行われ、大きな問題なく対応できると思われま

す。診療体制の面では救急科医師が 2 名体制となり対応患者は増加、コロナ対応で増床してきた救急外来が有効活用となりました。

前年度常勤となった小児外科診療も順調で、大学病院を除くと専門医がいる施設は少なく、地の利も良いので今後の発展が期待されるところです。

社会がコロナから回復し日常生活と共に通常業務が戻ってきたうえ、少子高齢化と人口減少対策、働き方改革、診療報酬改定、など多くの課題がありました。経営面では相変わらず厳しい状況ですが、病院全体としてみると充実した 1 年でした。

目 次

I 病院概況	
所在地等	1
病院の理念・看護部理念	2
患者さんの権利と責務	3
医療法病床数の推移・収容可能病床数病棟別内訳	4
指定・認定医療機関等	5
法律に基づく指定医療機関等	
指定・認定医療機関等	
施設基準承認及び届出等の状況	6～7
組織図	8
職種別職員数	9
高額医療機器保有状況	10～11
土地建物状況・建物別面積内訳	12～13
II 収支状況	
年度別経常収支比率	14
経常収益・経常費用・経常・医業収支率	
III 医事統計	
年度別月別外来患者数推移	15
年度別月別入院患者数推移	15
年度別診療科別外来患者数推移	16
年度別診療科別入院患者数推移	16
年度別病床利用率・平均在院日数等・紹介患者件数	17
年度別診療科別退院数・死亡数・剖検数	18
IV 診療状況	
年度別診療科別手術件数	19
年度別麻酔種別麻酔件数	19
年度別内視鏡検査件数	20
年度別分娩・救急患者取扱件数	21
年度別薬剤件数	22
院内処方せん枚数	
院外処方箋発行率・薬剤管理指導料件数等	
年度別放射線件数	23
撮影件数	
地域医療連携による県内医院からの検査依頼件数（C@Rna実績）	
年度別臨床検査件数	24
検体検査・生理機能検査・外部委託検査件数	
年度別栄養件数	25
入院時食事療養数・栄養食事指導人数	
年度別治験件数	25
治験件数・市販後調査実績	
V 各診療科及び各部署活動状況	26～83
VI 看護学校	
年度別看護学校統計	84～87
地域別入学者数・卒業生の進路・国家試験合格率	
VII 業 績	88～111
VIII 退職・異動等職種別職員推移の状況	112
年度別退職・異動等職種別職員推移の状況	

I

病 院 概 況

所在地等

名 称 独立行政法人国立病院機構 栃木医療センター

所 在 地 〒320-8580 栃木県宇都宮市中戸祭1丁目10番37号

電話 028-622-5241 fax 028-625-2718

ホームページ <https://tochigi.hosp.go.jp/>

メールアドレス web-info@tochigi-mc.jp

交通機関 JR線ご利用の場合

JR東北新幹線 東京駅から宇都宮駅 約50分

仙台駅から宇都宮駅 約1時間20分

JR宇都宮線「宇都宮駅」下車

・タクシー：約15分

・バス：駅西口駅前ターミナル1番乗車口にて清住町経由「清住・戸祭」行きにて「栃木医療センター前」下車
約20分

東武線ご利用の場合

東武宇都宮線「宇都宮駅」下車

・タクシー：約10分

・バス：大通りバス停留所「東武駅前」まで徒歩2分
「清住・戸祭」行きにて「栃木医療センター前」下車
約20分

車ご利用の場合

東北自動車道「鹿沼IC」から約20分（約10Km）

「宇都宮IC」から約15分（約7Km）

開 設 者 独立行政法人国立病院機構

理事長 楠岡 英雄

管 理 者 院 長 田村 明彦

開 設 日 2004年4月1日

標榜診療科 内科、精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、アレルギー科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、消化器外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、小児歯科、歯科口腔外科及び麻酔科、救急科、臨床検査科、病理診断科

計28診療科



《NHO栃木医療センターの理念》

信 頼

貢 献

協 働

実践する医療

- ◇ 医療倫理に沿った、安全で質の高い医療
- ◇ 患者の価値観を尊重する、納得に基づいた医療

基本方針

- ◇ 地域医療機関と連携して、急性期疾患を診療します
- ◇ 感染症指定医療機関や災害拠点病院として、公共の保健施策に協力します
- ◇ 政策医療ネットワークの一翼を担い、公益に寄与します
- ◇ 科学的根拠を求めて臨床研究を行い、医療の進歩に貢献します
- ◇ 医療従事者並びに学生に対する教育・研修を通じ、研鑽する医療人を育成します
- ◇ 健全経営に努め、時代に即した医療環境を整えます

患者さんの権利と責務

『患者さんの権利』

当院は次のような患者さんの権利を尊重します

- 最善の医療を受ける権利
- 人格および価値観が嚴重され、威厳をもって医療を受ける権利
- 自身の心身の状態に関して適切な説明を受ける権利
症状、検査結果、診断、治療方法とその選択肢、予想される経過について、
わかりやすい説明を受ける権利
- 他の医療者の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
- 診療録の開示を求める権利
- 十分な情報を得た上で、自由な意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する
権利
転院のため他の医療機関への紹介状作成を求める権利
- プライバシーが保たれる権利
- 医療費および公的援助制度などについて説明を受ける権利

『患者さんの責務』

当院で診療を受ける方は、次のような点に気をつけてください

- 心身の健康に向けて、積極的な気持ちで取り組んでください
- 適切な診療を受けるため、ご自身の状態に対する正確な情報を伝えてください
- 診療を円滑に受けるため、医療従事者の指示に従ってください
- ご自身の意志で決定した、診療を受けないことや中断することから生じる諸問題は、ご自身の責任となります
- 病院内では法律および病院の規則をお守りください
- 病院を利用する他の方々への迷惑となる行為や、医療業務に支障を与える行為は行わないでください
- 迅速な会計処理にご協力ください

医療法病床数の推移

(単位：床)

年 月 日	医 療 法 病 床 数			備 考
	一 般	感 染	計	
2000.8.1	604	6	610	
2003.4.1	548	6	554	
2004.4.1	456	6	462	
2010.9.14	437	6	462	
2011.4.1	423	6	429	
2014.9.1	344	6	350	

収容可能病床数病棟別内訳

(単位：床)

病 棟 名	病 床 数	病 棟 名	病 床 数
1階 整	52 (52)	6階 歯・眼・皮・整	52 (52)
2階 脳・外	50 (50)	7階 小・児外	46 (46)
3階 内	48 (48)		
4階 内	52 (52)		
5階 泌・耳・外	50 (50)		
1階～5階病棟合計	252 (252)	6階及び7階病棟合計	98 (98)
合 計			350 (350)

※運営管理上、診療科系統で区分しているが、運用は階病棟を除き混合化

※ () 内の数字は医療法上の病床数を表す

指定・認定医療機関等

法律に基づく指定医療機関等

- (1) 母子保健法
- (2) 身体障害者福祉法及び戦傷病者特別援護法
- (3) 児童福祉法
- (4) 原子爆弾被爆者の医療等に関する法律
- (5) 精神保護法
- (6) 覚醒剤取締法
- (7) 感染症の予防及び感染症の患者の医療に関する法律
- (8) 労働者災害補償保険法

指定・認定医療機関等

- (1) 救急告示病院
- (2) エイズ治療拠点病院
- (3) 災害医療地方拠点施設（栃木県）
- (4) 第二種感染症指定医療機関
- (5) 二次救急病院群輪番制病院
- (6) 小児救急指定病院（宇都宮市）
- (7) 地域医療支援病院
- (8) 紹介受診重点医療機関
- (9) 臨床研修指定病院（医科・協力型）
- (10) 栃木県DMA T 指定病院
- (11) (社)日本内科学会教育関連病院
- (12) (社)日本外科学会専門医制度修練施設
- (13) (社)日本整形外科学会専門医制度研修施設
- (14) (社)日本整形外科学会認定医制度研修施設
- (15) (社)日本泌尿器科学会専門医教育施設
- (16) (社)日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- (17) (社)日本歯科麻酔学会認定医研修機関
- (18) 特定非営利活動法人 日本気管食道科学会専門医研修施設
- (19) 日本麻酔科学会認定研修施設
- (20) (社)日本がん治療認定医機構研修施設
- (21) (社)日本救急医学会専門医指定施設
- (22) 日本食道学会全国登録認定施設
- (23) 特定非営利活動法人 マンモグラフィ 検診精度管理認定施設
- (24) 日本乳癌学会関連認定施設
- (25) (社)日本感染症学会研修施設
- (26) (社)日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設
- (27) (社)日本障害者歯科学会臨床研修施設
- (28) (財)日本消化器病学会認定関連施設
- (29) 日本臨床細胞学会認定施設
- (30) (社)日本消化器外科学会専門医修練施設
- (31) (社)日本病理学会研修登録施設
- (32) (社)日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- (33) (財)日本眼科学会専門医制度研修施設
- (34) (社)日本口腔外科学会専門医制度研修機関
- (35) (社)日本消化器内視鏡学会認定指導施設
- (36) 病院機能評価認定病院（3rdG：Ver1.1）
- (37) 栃木県アレルギー疾患医療中核病院
- (38) 栃木県脳卒中地域拠点医療機関
- (39) (社)日本脳卒中学会一次脳卒中センター

施設基準承認及び届出等の状況

(2024年3月31日現在)

区分	施設基準承認及び届出内容	承認等年月					備考			
		2019年度以前	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度				
初・再診	オンライン診療料 歯科診療特別対応連携加算 歯科外来診療環境体制加算 地域歯科診療支援病院歯科初診料		2020年4月							
入院基本料	急性期一般病棟入院基本料1					2023年7月	2016.8より全病棟			
入院基本料等加算	地域医療支援病院 医療安全対策加算 医療安全対策地域連携加算 診療録管理体制加算 医師事務作業補助体制加算 救急医療管理加算 超急性期脳卒中加算 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 ハイリスク妊婦管理加算 妊産婦救急搬送入院加算 病棟薬剤業務実施加算 急性期看護補助体制加算 夜間急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算 看護職員夜間配置加算 入退院支援加算 地域連携診療計画加算 入院時支援加算 患者サポート体制充実加算 感染防止対策加算 感染防止対策地域連携加算 感染対策向上加算 指導強化加算 抗菌薬適正使用支援加算 データ提出加算 重症者等療養環境特別加算 療養環境加算	2019年7月	2021年1月 2020年4月	2021年4月	2022年4月		2023年7月	1 1 1 事務2 20対1—事務2 25対1 ※届出不要 ※届出不要 1 25対1（看護補助者5割以上） 100対1 16対1 1 1 2		
	せん妄ハイリスク患者ケア加算 認知症ケア加算 総合入院体制加算 後発医薬品使用体制加算 看護職員処遇改善評価料 地域医療体制確保加算 精神疾患診療体制加算 緩和ケア診療加算	2019年8月	2020年12月 2021年1月 2021年1月 2020年12月	2020年10月		2022年4月 2022年10月	2023年7月 2023年4月	1 3 1 46 加算1、加算2		
	特定入院料	小児入院医療管理料4 地域包括ケア病棟入院料2 看護職員配置加算 看護職員夜間配置加算 ハイケアユニット入院医療管理料1				2022年7月 2022年7月 2022年7月		52床 12床		
	医学管理	高度難症指導管理料 婦人科特定疾患治療管理料 薬剤管理指導料 開放型病院共同指導料（Ⅱ） がん治療連携計画策定料 肝炎インターフェロン治療計画料 医療機器安全管理料1 医療機器安全管理料2 医療機器安全管理料（歯科） がん性疼痛緩和指導管理料 がん患者指導管理料（イ） がん患者指導管理料（ロ） がん患者指導管理料（ハ） 外来腫瘍化学療法診療料 連携充実加算（外来腫瘍化学療法診療料） 二次性骨折予防継続管理料 二次性骨折予防継続管理料 夜間休日救急搬送医学管理料 救急搬送看護補助体制加算 外来放射線照射診療料 ニコチン依存症管理料 歯科治療総合医療管理料（Ⅰ）（Ⅱ）	2019年7月 2019年7月	2020年4月		2022年4月	2022年4月 2022年4月 2022年4月 2022年5月 2022年5月		1 1 3 ※届出不要 1	
		在宅	在宅療養後方支援病院 在宅腫瘍治療電療療法指導管理料 持続血糖測定器加算 在宅患者歯科治療総合医療管理料 歯科訪問診療料	2019年9月	2020年8月					
		検査	先天性代謝異常症検査 HPV核酸同定検査（簡易タイプ） 検体検査管理加算 センナホルリンパ節生検 血管内視鏡検査加算 時間内歩行試験 皮下連続式グルコース測定 ヘッドアップティルト試験 神経学的検査 小児食物アレルギー負荷検査 内服・点滴誘発試験 精密触覚機能検査 ロービジョン検査判断料 補聴器適合検査 BRCA 1/2遺伝子検査	2019年4月	2020年4月				Ⅱ	
			画像診断	C T撮影 64列以上 C T撮影 16列以上64列未満 冠動脈C T撮影加算 大腸C T撮影加算 MRI撮影 心臓MRI撮影加算 乳房MRI撮影加算 小児鎖静下MRI撮影加算 画像診断管理加算2					2023年4月	※届出不要 2023.4より再届出
			処方	抗悪性腫瘍剤処方管理加算 無菌製剤処理料						
			注射	外来化学療法加算1 連携充実加算		2020年2月				
		リハビリテーション	脳血管疾患等リハビリテーション料 運動器リハビリテーション料 心大疾患リハビリテーション料 呼吸器リハビリテーション料 がん患者リハビリテーション料 歯科口腔リハビリテーション料	2019年7月					1 1 1 1 1 2	

施設基準承認及び届出等の状況

(2024年3月31日現在)

区分	施設基準承認及び届出内容	承認等年月					備考
		2019年度以前	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
処置	エタノールの局所注入（甲状腺） エタノールの局所注入（副甲状腺） 硬膜外自家血注入療法						
歯科 （歯冠修復・補綴） （矯正）	CAD/CAM冠 歯科技工加算1・2 クラウン・ブリッジ維持管理料 顎口腔機能診断料						
手術	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 体外衝撃波胆石破碎術 体外衝撃波膀胱石破碎術 腎臓刺激装置植込術・腎臓刺激装置交換術 ペースメーカー移植術・交換術 大動脈バルーンパンピング法（IABP法） バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 広範囲頭骨指示装置埋込手術 乳がんセンチネルリンパ節加算 乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存） 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算 腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固） 人工尿道括約筋植込・置換術 人工肛門・人工膀胱増設術前処理加算 経皮的冠動脈形成術 経皮的冠動脈ステント留置術 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） 胃瘻造設術 胃瘻造設時嚥下機能評価加算 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型 食道縫合術、胃瘻閉鎖術等 <small>骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）</small> 腹腔鏡下肝切除術（部分切除・外側切除） 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの） 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（片側） 腹腔鏡下脾腫瘍摘出術及び及び腹腔鏡下脾体尾部切除術 上顎骨形成術・下顎骨形成術（骨移動を伴う） 膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外） 埋没縫合手術及び強靱水鏡手術（尿道部切開によるもの） 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術 内視鏡的小腸ポリープ切除術 緊急修復固定加算及び緊急挿入加算 輸血適正使用加算	2019年11月	2020年8月		2022年7月 2022年7月	2024年1月 2023年5月 2023年5月 2023年6月 2023年6月 2023年8月 2023年11月 2023年4月	※届出不要 ※届出不要 2023.4より再届出
麻酔	麻酔管理料Ⅰ 歯科麻酔管理料		2020年4月				
放射線治療	高エネルギー放射線治療 外来放射線治療加算 放射線治療専任加算 1回線量増加加算 画像誘導放射線治療（IGRT） 定位放射線治療						
病理	病理診断管理加算Ⅰ 悪性腫瘍病理組織標本加算 口腔病理診断管理加算Ⅰ	2019年5月					
入院時食事療養費	入院時食事療養費（Ⅰ） 食費加算						

職種別職員数（2023年4月1日現在）

単位：人

職種	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度			2023年度		
	常勤	期間職員	非常勤	常勤	期間職員	非常勤	常勤	期間職員	非常勤	常勤	期間職員	非常勤	常勤	期間職員	非常勤
医師	69		3.26	66	2.00	4.69	70	1.00	4.69	65	0.90	3.86	65	1.8	3.86
薬剤師	16			15		0.83	16		0.83	18		0.83	15		0.83
診療放射線技師	16			16			16			16			16		
臨床検査技師	16	1	0.83	15	1.00	0.83	16		3.32	13	2.00	3.32	15	4	2.49
管理栄養士	4			4			4			5			5		
理学療法士	11			11			11			11			11		
作業療法士	8			8			7			7			8		
言語聴覚士	3			2			3			1			3		
歯科技工士	1			1					0.83			0.83			0.83
歯科衛生士	3		1.60	3		0.83	3			4		0.81	3		0.83
視能訓練士	1			1			1		0.80	1		0.80	1		0.80
臨床工学技士	3			3			3			3			3		
看護師	243		19.92	237		20.13	255		17.43	250		18.26	268		19.09
助産師	6		3.11	7		3.94	7		2.49	6					
准看護師	3			3			4			3		0.83	3		0.83
教員	9		0.77	9		0.77	9		0.77	9		0.77	10		0.77
医療社会事業専門員	4			5		0.83	5		0.83	5			5		
事務員	29		52.17	25		51.40	30		53.86	29		55.40	29		48.82
看護助手			18.26			19.09			16.60			15.77			13.28
薬剤助手															
臨床検査助手															
電話交換手															
調理師	2			2			2			2			2		
自動車運転手	1			1			1			1			1		
電気士				0											
ボイラー技士	2			2			1		0.83			1.66			0.83
業務技術員	2			2			1		0.83			1.66			0.83
合計	452	1.00	99.92	438	3.00	103.34	465	1.00	104.11	449	2.90	104.80	463	5.80	94.09

職種別職員数

単位：人（4月1日現在）

職種	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度			2023年度		
	常勤	期間職員	非常勤	常勤	期間職員	非常勤	常勤	期間職員	非常勤	常勤	期間職員	非常勤	常勤	期間職員	非常勤
院長	1			1			1			1			1		
医療職（一）	68		3.26	65	2.00	4.69	69	1.00	4.69	64	0.90	3.86	64	1.8	3.86
医療職（二）	82	1	2.43	79	1.00	2.49	80		5.78	79	2.00	6.59	80	4	5.78
医療職（三）	252		23.03	247		24.07	266		19.92	259		19.09	271		19.92
教育職	9		0.77	9		0.77	9		0.77	9		0.77	10		0.77
福祉職	4			5		0.83	5		0.83	5			5		
事務職	29		52.17	25		51.4	30		53.86	29		55.4	29		48.82
技能職	5		18.26	5		19.09	4		17.43	3		19.09	3		14.94
合計	450	1	99.92	436	3.00	103.34	464	1.00	103.28	449	2.90	104.8	463	5.8	94.09

※非常勤職員数は、常勤換算数で計上

高額医療機器保有状況

(独法移行時承継資産価格1,000万円以上)

医療機器名称	構造規格	取得年月
多軌道断層撮影装置	hlg100	1990年03月15日
リニアック	m216740	1997年12月09日
泌尿器科用X線装置	ハド ライ オEM7° ヲ	2000年03月30日
X線テレビ装置 (DR)	東芝KXO-80G	1999年03月30日
超音波診断装置	SSD-5500	2000年08月31日
心臓超音波診断装置	SONOS 5500	2001年08月31日
内視鏡外科手術器械システム	ガ° ノ東芝ESシテム	2002年07月12日
マルチスライスCT	LightSpeedPlusβ	2003年03月15日
手術室モニタシステム	日本光電CNS9701	2003年11月01日
磁気共鳴断層撮影装置	Signa Echospeed Plus	2004年04月30日
体外衝撃波結石破砕器	リトリフター-D	2005年03月15日
外科用X線装置	OECシ-ズ 9800GSP	2006年05月10日
生化学自動分析装置	ARCHITECT C8000/I2000SR	2006年07月31日
アンギオ	フィリップスAlluraXpeFD20	2007年07月31日
CT16列マルチスライス	東芝メテイルAquilion/M16	2007年09月11日
超音波白内障手術装置	ソフィニティ	2008年04月01日
眼科手術用顕微鏡	OPMI VISU210	2008年04月01日
マルチカラーレーザー光凝固装置	ルミナローバ スガリア	2008年04月01日
低温プラズマ滅菌器	ステラット 100SPS II	2009年04月01日
手術用顕微鏡	OME7012 SET	2009年04月01日
超音波診断装置	prosound a7	2010年04月01日
医用画像保管通信システム (PACS)	Plissimo PACS	2011年06月01日
自動血液計数装置	HSTRANSポ-テ-ヨウシステム	2011年09月01日
全自動錠剤分包機	Xana-2040EU	2012年04月01日
X線透視撮影装置 (ZEXIRA)	DREX-ZX80/P2	2012年10月01日
心臓カテーテル検査パッケージ式	Allura Xper FD20 アップグレード	2013年03月26日
脳神経外科手術用ナビゲーションユニット	CUREVE	2013年05月14日
全自動輸血検査装置	AUTO VUE Innova (一式)	2013年05月14日
外科用X線テレビシステム	OEC9900	2013年06月14日
超音波診断装置 (心エコー)	iE33	2013年06月14日
血管造影X線診断装置アップグレード	Allura Xper FD20	2013年09月15日
マルチスライスCT	Aquilion PRIME	2013年09月15日
IABP (大動脈バルーンポンプ)	CARDIOSAVE Hybrid	2013年09月15日
全自動細菌検査システム	VITEK II プルシステム・BacTALERT3D	2013年11月15日
泌尿器科用内視鏡下レーザー手術システム	Versapulse 「Power Suite」	2013年12月15日
手術用顕微鏡	OPMI PENTERO 900	2014年01月16日
手術室情報パネル	DP-2、MT-1102、RD-2 他	2014年03月17日
厨房機器 (加熱機及びソック類)		2014年03月17日
厨房機器 (冷蔵庫及び移動器機類)		2014年03月17日
解剖機器		2014年03月17日
手術用患者監視装置 一式		2014年03月17日
洗浄・滅菌装置		2014年03月17日

高額医療機器保有状況

(独法移行時承継資産価格1,000万円以上)

医療機器名称	構造規格	取得年月
手術室設置機器(無影灯等)	テネ LED7000他	2014年03月17日
手術室設置機器(VC保管庫)		2014年03月17日
HCU ウォールユニット 一式		2014年08月17日
手術台	YONO	2014年08月17日
電話交換機		2014年11月30日
検診台	ET-8500	2015年03月01日
PACS(医用画像管理システム)	Plissimoサーバ	2015年08月01日
網膜厚解析装置	シラHD-OCT 7plus5000	2015年11月01日
FCRシステム	FCR Speedia CS Plus	2016年03月01日
コンステレーションビジョンシステム	alcon0001	2016年03月02日
リニアック	synergy/p330	2016年05月01日
超音波診断装置	Aplio500 Platinum	2016年09月29日
キャビン型紫外線照射装置	UV7002K-TL01	2016年10月18日
関節鏡下手術システム		2016年10月18日
移動式X線撮影装置(移動用回診車)	tiara airy(江カ)	2020年03月31日
移動式X線撮影装置	CALNEO AQRO	2021年03月22日
セントラルモニタ	DS-8700シラム	2021年03月24日
X線一般撮影装置	MRAD-A50S/BS	2021年03月26日
全身用X線CT装置	TSX-303B/6W AQUILION PRIME SP/(80列)	2021年03月26日
病院情報システム(ハードウェア)		2021年08月01日
超音波手術器	ソノバットiQ	2022年01月25日
体外式衝撃波結石破碎装置	ドルニエ DeltaIII	2022年03月25日
内視鏡ビデオシステム	カールストルツ IMAGE1 S コネクトII	2022年05月26日
磁気共鳴断層撮影装置(3.0T)	フィリップス Ingenia 3.0T	2022年06月01日
内視鏡システム	オリンパス VISERA ELITE II	2023年01月22日
PACS(医用画像管理システム)	NOBORI(クラウド型)	2023年01月30日
広角眼底撮影装置	ニデック Mirante FA/ICG/OCT	2023年02月03日
血管造影X線診断装置	キヤノン Alphenix Biplane	2023年05月08日
循環器用超音波診断装置	フィリップス EPIQ Elite	2024年03月21日

土地建物状況

(単位：㎡)

区 分	敷地面積	延床面積	備 考
庁 舎	71,777	36,347	看護学校及び学生宿舎 3,715
			地域医療研修センター 360
看護師宿舎	3,400	846	
計	75,177	37,193	

建物別面積内訳

(単位：㎡)

建 物 名 称	建物概要			完成年月	建築面積	延床面積
	構造	地上	地下			
中央廊下（外来～手術室）	RC	2		1963年12月	102.57	193.48
外来診療棟	RC	2		1968年03月	1,672.81	2,765.41
RARI棟	RC	2		1969年03月	189.92	209.92
放射線棟	RC	1		1972年03月	451.63	451.63
手術検査棟	RC	2		1968年03月	702.88	1,377.77
東翼病棟	RC	2	1	1965年11月	23.05	684.73
渡り廊下（手術検査棟～病棟サービス棟）	RC	2		1965年11月	171.33	375.69
倉庫①（旧看護学校）	RC	2		1969年03月	377.22	735.72
学生宿舎	RC	2		1969年03月	890.30	1,761.35
倉庫②（旧霊安解剖室）	RC	1		1970年01月	80.00	80.00
渡り廊下（旧学校～学生宿舎）	S	1		1970年01月	28.50	28.50
管理棟	RC	2		1973年03月	864.00	1,728.00
渡り廊下（管理棟～外来診療棟）	RC	2		1973年03月	67.06	134.13
看護師更衣棟	RC	1		1974年03月	288.00	288.00
教育研修棟	RC	2		1976年11月	643.10	1,132.20
リニアック棟	RC	1		1976年11月	345.75	345.75
渡り廊下（リニアック棟～RARI棟）	S	1		1976年11月	43.80	43.80
消火栓ポンプ室	CB	1		1978年08月	10.17	10.17
救急棟	RC	2		1980年06月	81.76	156.76
渡り廊下（外来診療棟～救急棟）	RC	1		1980年06月	11.00	11.00
看護師更衣棟	RC	1		1983年03月	165.00	165.00
厚生棟	S	1		1983年12月	224.97	224.97
新外来診療棟	RC	1		1983年12月	924.63	924.63
渡り廊下（リニアック棟～新外来診療棟）	S	1		1985年03月	22.00	22.00

建物別面積内訳

(単位：㎡)

建 物 名 称	建物概要			完成年月	建築面積	延床面積
	構造	地上	地下			
地域医療研修センター	RC	1		1985年03月	360.25	360.25
渡り廊下（外来診療棟～教育研修棟）	S	1		1979年06月	60.00	60.00
受電棟	RC	1		1988年08月	164.25	164.25
新放射線棟	RC	1		1988年08月	457.80	457.80
渡り廊下（中央廊下～新放射線棟）	S	1		1990年07月	57.67	57.67
揚水ポンプ室	CB	1		1990年07月	16.64	16.64
エネルギーセンター	RC	2		1991年03月	1,005.43	1,625.34
MR I 棟	S	1		1992年03月	126.00	126.00
体育館	S	1		1996年11月	631.53	631.53
看護学校	RC	3		2007年05月	762.51	1,953.68
看護師宿舎B棟	RC	3		1996年09月	311.92	846.18
電気室	CB	1		1996年09月	11.41	11.41
プロパン庫	CB	1		1996年09月	7.98	7.98
受水槽ポンプ室	S	1		2013年07月	22.69	22.69
病棟	RC	8		2014年07月	1,750.02	11,839.14
附属棟	RC	2		2014年07月	1,896.56	3,556.14
渡り廊下	S	2		2014年07月	207.32	357.55
マニフォールド室	CB	1		2014年07月	16.97	16.97
新保育所	S	1		2014年04月	293.87	293.87
MRI室2	RC	1		2022年03月	73.46	73.46
合 計					16,615.73	36,329.16

Ⅱ

収 支 状 況

年度別経常収支比率
経常収益

(単位：%) (単位：%)

勘定科目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
経常収益	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
診療業務収益	97.58	97.38	97.87	97.58	97.47
医業収益	96.05	74.14	70.32	89.91	93.17
入院診療	73.80	57.51	55.68	70.99	71.77
外来診療	19.29	14.74	13.14	16.98	19.34
その他医業	2.96	1.89	1.50	1.94	4.30
その他	1.53	23.24	27.55	7.67	0.40
医業外収益	2.42	2.62	2.13	2.42	2.53

経常費用

(単位：%) (単位：%)

勘定科目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
経常費用	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
診療業務費	96.05	96.03	96.24	96.57	96.61
給与費	54.87	56.32	54.58	52.69	51.73
材料費	19.45	17.97	18.49	19.34	20.46
医薬品	7.92	7.28	6.88	6.88	8.92
診療材料	10.24	9.56	10.56	11.38	10.49
医療用消耗器具備品	0.33	0.33	0.20	0.19	0.14
給食材料	0.96	0.80	0.85	0.89	0.91
委託費	6.33	7.29	7.73	7.18	7.63
設備関係費	10.39	9.48	10.15	10.88	11.36
減価償却費	5.19	4.51	5.45	5.69	5.97
その他	5.20	4.97	4.70	5.19	5.39
研究研修費	0.02	0.03	0.01	0.00	0.02
経費	4.99	4.94	5.28	6.48	5.41
診療業務外費用	3.95	3.97	3.76	3.43	3.39

経常・医業収支率

(単位：%) (単位：%)

項目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
経常収支率	97.88	111.78	128.29	98.61	95.58
医業収支率	97.88	86.28	93.74	91.80	92.18

Ⅲ

医 事 統 計

年度別月別外来患者数推移

(単位：人)

年度 診療月	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	4月	11,467	(573.4)	7,786	(370.8)	9,843	(468.7)	9,240	(462.0)	9,194
5月	11,454	(602.8)	6,014	(334.1)	8,512	(472.9)	9,144	(481.3)	8,886	(444.3)
6月	11,336	(566.8)	8,448	(384.0)	10,284	(467.5)	10,384	(472.0)	9,840	(447.3)
7月	12,635	(574.3)	10,041	(478.1)	10,181	(509.1)	9,480	(474.0)	9,751	(487.6)
8月	11,766	(560.3)	8,327	(416.4)	8,424	(401.1)	9,423	(428.3)	9,630	(437.7)
9月	11,330	(596.3)	9,510	(475.5)	8,568	(428.4)	9,348	(467.4)	9,363	(468.2)
10月	12,032	(573.0)	10,613	(482.4)	9,739	(463.8)	9,346	(467.3)	9,963	(474.4)
11月	11,766	(588.3)	9,902	(521.2)	9,853	(492.7)	9,275	(463.8)	9,446	(472.3)
12月	11,902	(595.1)	9,707	(485.4)	9,788	(489.4)	9,186	(459.3)	9,519	(476.0)
1月	11,305	(595.0)	7,952	(418.5)	9,071	(477.4)	8,488	(446.7)	8,926	(469.8)
2月	10,543	(585.7)	7,616	(423.1)	7,955	(441.9)	8,856	(466.1)	8,947	(470.9)
3月	11,817	(562.7)	10,471	(455.3)	10,413	(473.3)	10,330	(469.5)	9,531	(476.6)
合計	139,353	---	106,387	---	112,631	---	112,500	---	112,996	---
平均	11,613	(580.6)	8,866	(437.8)	9,386	(465.4)	9,375	(463.0)	9,416	(465.0)

※ () 内の数字は1日平均患者数を表す

年度別月別入院患者数推移

(単位：人)

年度 診療月	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	4月	8,464	(282.1)	6,209	(207.0)	7,339	(244.6)	8,105	(270.2)	7,850
5月	7,981	(257.5)	5,183	(167.2)	7,955	(256.6)	8,303	(267.8)	7,662	(247.2)
6月	7,743	(258.1)	5,295	(176.5)	7,808	(260.3)	7,791	(259.7)	7,338	(244.5)
7月	8,013	(258.5)	5,861	(189.1)	8,038	(259.3)	7,652	(246.8)	7,610	(245.5)
8月	8,182	(263.9)	5,639	(181.9)	8,457	(272.8)	7,954	(256.6)	8,309	(268.0)
9月	7,213	(240.4)	5,530	(184.3)	6,991	(233.0)	7,867	(262.2)	7,802	(260.1)
10月	8,193	(264.3)	6,962	(224.6)	6,868	(221.5)	7,680	(247.7)	7,726	(249.2)
11月	8,708	(290.3)	7,229	(241.0)	7,340	(244.7)	8,413	(280.4)	7,797	(259.8)
12月	8,781	(283.3)	8,390	(270.6)	7,480	(241.3)	8,682	(280.1)	7,795	(251.6)
1月	8,773	(283.0)	8,277	(267.0)	8,719	(281.3)	8,806	(284.1)	8,376	(270.2)
2月	8,763	(302.2)	6,878	(245.6)	7,135	(254.8)	8,023	(286.5)	8,075	(278.4)
3月	8,639	(278.7)	7,557	(243.8)	8,241	(265.8)	8,437	(272.2)	7,391	(238.5)
合計	99,453	---	79,010	---	92,371	---	97,713	---	93,731	---
平均	8,288	(271.7)	6,584	(216.5)	7,698	(253.1)	8,143	(267.7)	7,811	(256.1)

※ () 内の数字は1日平均患者数を表す

年度別診療科別外来患者数推移

(単位：人)

年度 診療科	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
内科	29,541	(116.5)	23,427	(96.4)	23,895	(98.7)	23,887	(98.3)	22,072	(90.8)
精神科	506	(2.7)	414	(1.7)	350	(1.4)	930	(3.8)	1,285	(5.3)
小児科	8,834	(38.2)	5,845	(24.1)	6,128	(25.3)	6,042	(24.9)	5,899	(24.3)
外科	10,866	(43.5)	9,283	(38.2)	9,113	(37.7)	8,657	(35.6)	9,047	(37.2)
整形外科	12,656	(56.8)	9,211	(37.9)	10,861	(44.9)	12,891	(53.0)	12,453	(51.2)
脳神経外科	5,877	(25.0)	4,290	(17.7)	4,070	(16.8)	3,885	(16.0)	3,227	(13.3)
小児外科	831	(5.5)	822	(3.4)	576	(2.4)	421	(1.7)	838	(3.4)
皮膚科	7,857	(27.6)	6,484	(26.7)	7,468	(30.9)	7,253	(29.8)	6,907	(28.4)
泌尿器科	16,006	(61.0)	13,443	(55.3)	13,512	(55.8)	13,386	(55.1)	12,551	(51.7)
産婦人科	2,473	(8.7)	2,102	(8.7)	1,275	(5.3)	902	(3.7)	88	(.4)
眼科	7,421	(33.9)	4,139	(17.0)	5,541	(22.9)	5,033	(20.7)	5,123	(21.1)
耳鼻咽喉科	8,611	(38.5)	4,665	(19.2)	5,507	(22.8)	5,449	(22.4)	5,488	(22.6)
放射線科	4,814	(18.8)	4,122	(17.0)	4,199	(17.4)	3,947	(16.2)	4,391	(18.1)
麻酔科	450	(1.4)	339	(1.4)	310	(1.3)	300	(1.2)	297	(1.2)
歯科口腔外科	22,610	(84.7)	14,975	(61.6)	17,289	(71.4)	16,584	(68.2)	20,035	(82.4)
救急科			2,826	(12.0)	2,537	(11.0)	2,933	(12.0)	3,295	(13.6)
合 計	139,353	(562.8)	106,387	(438.3)	112,631	(466.0)	112,500	(462.6)	112,996	(465.0)

※ () 内の数字は1日平均患者数を表す

年度別診療科別入院患者数推移

(単位：人)

年度 診療科	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
内科	38,856	(86.4)	35,159	(96.3)	41,853	(114.7)	35,519	(97.3)	30,739	(84.0)
精神科										
小児科	2,469	(9.1)	731	(2.0)	1,184	(3.2)	1,113	(3.0)	1,470	(4.0)
外科	13,294	(44.3)	11,558	(31.7)	12,306	(33.7)	10,670	(29.2)	11,962	(32.7)
整形外科	17,211	(53.9)	12,025	(32.9)	15,924	(43.6)	17,241	(47.2)	14,693	(40.1)
脳神経外科	12,624	(31.0)	9,147	(25.1)	10,295	(28.2)	10,998	(30.1)	9,363	(25.6)
小児外科	114	(1.0)	89	(.2)	96	(.3)	81	(.2)	325	(.9)
皮膚科	1,072	(3.4)	988	(2.7)	393	(1.1)	986	(2.7)	1,026	(2.8)
泌尿器科	5,494	(14.0)	4,191	(11.5)	4,752	(13.0)	4,425	(12.1)	3,506	(9.6)
救急科									1,508	(4.1)
産婦人科	1,663	(4.1)	1,478	(4.0)	917	(2.5)	315	(.9)		
眼科	840	(1.9)	521	(1.4)	769	(2.1)	409	(1.1)	313	(.9)
耳鼻咽喉科	2,039	(5.7)	514	(1.4)	501	(1.4)	581	(1.6)	538	(1.5)
放射線科										
歯科口腔外科	3,777	(10.6)	2,609	(7.1)	3,381	(9.3)	3,744	(10.3)	3,128	(8.5)
地域包括科							11,631	(31.9)	15,160	(41.4)
合 計	99,453	(265.4)	79,010	(216.3)	92,371	(253.1)	97,713	(267.7)	93,731	(256.1)

※ () 内の数字は1日平均患者数を表す

年度別病床利用率・平均在院日数等

項目	年度				
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
病床利用率 (%)	77.6	61.9	72.3	76.5	73.2
平均在院日数 (日)	12.0	12.0	12.1	13.7	12.9
病床回転数 (回)	30.5	30.4	30.2	26.5	28.4
外来通院回数 (回)	6.9	8.2	7.7	7.8	7.6
新患率 (%)	14.5	12.2	13.0	12.8	13.2

年度別紹介患者件数

(単位：件)

診療科	年度				
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
内科	3,903	3,267	3,204	3,496	2,368
精神科	3	1	1	88	30
小児科	667	335	443	363	386
外科	786	690	696	656	438
整形外科	1,191	1,003	1,111	1,206	812
脳神経外科	497	386	394	392	258
小児外科	81	87	83	85	191
皮膚科	555	519	505	597	512
泌尿器科	753	555	485	524	308
産婦人科	276	237	198	131	10
眼科	571	339	493	450	333
耳鼻咽喉科	907	476	460	463	350
放射線科	2,095	1,189	1,730	1,780	1,567
麻酔科	4	0	0	3	2
歯科口腔外科	2,817	2,106	2,283	2,361	2,264
救急科					254
合計	15,106	11,190	12,086	12,595	10,083
紹介率 (%)	74.7	78.4	71.5	78.2	80.6

年度別診療科別退院数・死亡数・剖検数

退院数

(単位：人)

診療科	内	小	外	整	脳	小	皮	泌	産	眼	耳	歯	地	合
年度	科	児	科	形	神	児	膚	尿	婦	科	鼻	科	域	計
	科	科	科	外	経	外	科	器	人	科	咽	口	包	
				科	外	科		科	科		喉	腔	括	
					科						科	外	科	
2019年度	2,504	950	1,028	870	523	58	84	610	194	292	416	744		8,273
2020年度	2,497	514	822	732	452	46	63	457	176	171	139	525		6,594
2021年度	3,162	672	896	875	461	50	42	409	114	246	104	605		7,636
2022年度	2,125	747	863	856	477	32	64	512	41	135	93	569	642	7,156
2023年度	1,724	832	985	867	362	111	71	442	149	82	78	631	971	7,305

※内科は、内科・呼吸器科・消化器科の合計を表す

死亡数

(単位：人・%)

診療科	内	小	外	整	脳	小	皮	泌	産	眼	耳	歯	地	合	死
年度	科	児	科	形	神	児	膚	尿	婦	科	鼻	科	域	計	亡
	科	科	科	外	経	外	科	器	人	科	咽	口	包		率
				科	外	科		科	科		喉	腔	括		(%)
					科						科	外	科		
2019年度	203	1	35	5	34			8				3		289	3.5
2020年度	153		31	4	26			5			1	4		224	3.4
2021年度	174		28	3	18			8						231	3.0
2022年度	200		20	3	36		2	16			1	6	36	320	4.5
2023年度	150		35	5	37		3	8	9			1	64	312	4.3

※死亡率：年度別退院数に対して死亡数の割合

剖検数

※内科は、内科・呼吸器科・消化器科の合計を表す

(単位：人・%)

診療科	内	小	外	整	脳	小	皮	泌	産	眼	耳	歯	地	合	剖
年度	科	児	科	形	神	児	膚	尿	婦	科	鼻	科	域	計	検
	科	科	科	外	経	外	科	器	人	科	咽	口	包		率
				科	外	科		科	科		喉	腔	括		(%)
					科						科	外	科		
2019年度	7		2											9	3.1
2020年度	2													2	.9
2021年度	3													3	1.3
2022年度	3													3	.9
2023年度	2													2	.6

※剖検率：年度別死亡数に対して剖検数の割合

※内科は、内科・呼吸器科・消化器科の合計を表す

IV

診 療 状 況

年度別診療科別手術件数

(手術室で実施された件数のみ掲載)

(単位：件)

診療科 \ 年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外科	766 (544)	644 (473)	660 (540)	626 (490)	662 (497)
整形外科	983 (686)	842 (560)	938 (637)	1,261 (789)	1,197 (783)
脳神経外科	295 (148)	245 (96)	273 (119)	306 (93)	270 (75)
小児外科	66 (60)	42 (42)	48 (48)	28 (28)	107 (106)
泌尿器科	277 (195)	233 (127)	229 (110)	215 (116)	220 (129)
産婦人科	113 (87)	107 (82)	60 (50)	42 (37)	0 (0)
耳鼻咽喉科	171 (154)	21 (14)	53 (44)	39 (18)	41 (23)
皮膚科	127 (18)	110 (12)	83 (3)	106 (5)	95 (1)
眼科	691 (0)	453 (0)	674 (2)	557 (2)	626 (0)
歯科口腔外科	740 (558)	491 (400)	561 (478)	625 (557)	746 (702)
その他	2 (2)	5 (5)	7 (7)	9 (8)	10 (9)
麻酔科					
合 計	4,231 (2,452)	3,193 (1,811)	3,586 (2,038)	3,814 (2,143)	3,974 (2,325)

※ () 内の数字は全身麻酔(再掲)を表す

年度別麻酔種別麻酔件数

(単位：件)

麻酔種別 \ 年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
全身麻酔	2,451	1,816	2,034	2,147	2,326
全身・硬膜外 (全身・硬膜・腰部 硬膜外)	235	263	272	320	259
全身・腰部硬膜外	0	0	0	0	0
硬膜外	0	0	0	0	0
腰部硬膜外	0	0	0	0	0
硬膜外・腰部硬膜外	0	0	0	0	0
静脈麻酔	160	92	89	74	36
伝達麻酔	21	7	7	23	27
局所麻酔	1,242	929	1,115	1,138	1,219
なし	1	2	1	1	0
合 計	4,110	3,109	3,518	3,703	3,867

※手術件数と麻酔件数の差異は併科手術による

年度別内視鏡検査件数

(単位：件)

項 目	年 度				
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
内視鏡検査総件数	3,269	2,889	3,126	3,396	3,276
上部総合件数	1,877	1,493	1,558	1,800	1,724
下部総合件数	1,170	1,148	1,307	1,305	1,282
ERCP総合件数	220	245	259	291	270
BF総合件数	2	3	2	0	0

年度別分娩件数

(単位：件)

項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	正常分娩		65	54	35	0
帝王切開		19	24	9	0	0

年度別救急患者取扱件数

(単位：件)

診療科	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	内科		4,000	4,371	4,348	4,235
精神科		3	0	0	0	1
小児科		1,016	833	1,355	1,352	1,381
外科		322	319	316	280	241
整形外科		1,217	748	797	831	658
脳神経外科		774	524	500	640	446
小児外科		4	1	1	0	25
皮膚科		73	24	35	57	48
泌尿器科		188	149	148	162	114
産婦人科		112	100	54	11	1
眼科		943	12	4	0	2
耳鼻咽喉科		187	48	156	95	52
放射線科		2	1	0	0	0
歯科口腔外科		266	145	148	163	158
救急科 (2020/01より)		85	474	459	775	1,894
合計		9,107	7,749	8,321	8,601	8,171
救急車数		4,180	3,349	3,375	3,988	4,480
入院者数(人)		3,068	2,653	3,242	3,021	3,057

年度別薬剤件数

院内処方せん枚数

年 度 項 目		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		外	患者数 (人)	139,353	106,991	112,631
来	投薬枚数 (枚)	8,348	6,660	7,211	7,506	7,459
	注射枚数 (枚)	14,061	12,611	14,998	15,250	16,323
入 院	患者数 (人)	107,056	85,604	100,007	97,713	93,731
	投薬枚数 (枚)	49,703	41,108	49,548	51,565	50,001
	注射枚数 (枚)	73,499	60,991	70,435	68,597	74,950

院外処方箋発行率・薬剤管理指導料件数等

年 度 項 目		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		院外処方箋				
	発行枚数 (枚)	58,074	45,886	49,465	50,518	50,005
	発行率 (%)	87.4	87.3	87.3	87.1	87.0
薬剤管理指導料						
	請求患者数 (人)	6,290	5,249	6,626	5,956	5,726
	請求件数 (件)	8,502	7,396	9,046	8,285	6,860
	(麻薬加算件数) (件)	180	157	149	107	94
	(退院時服薬指導加算件数) (件)	793	628	434	291	240
	薬剤師1人当り請求件数 (件)	65.9	68.5	75.4	74.6	51.2
薬剤情報提供料						
	提供件数 (件)	293	456	6,550	6,999	6,991
無菌製剤処理加算						
	実施件数 (件)	1,188	1,140	1,407	1,383	1,401
外来化学療法加算					外来腫瘍化学療法診療料！	外来腫瘍化学療法診療料！
	請求件数 (件)	611	652	641	927	1,003
病棟薬剤業務 2016.10～						
	件数 (件)	19,001	15,743	19,350	20,309	19,741

年度別放射線件数

撮影件数

(単位：件)

項目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
撮影総数	103,962	81,414	94,736	102,258	99,026
単純撮影	82,852	64,587	75,556	81,742	78,140
X線TV	1,328	1,005	1,209	1,251	1,061
マンモグラフィ	381	319	328	325	321
外科用イメージ	483	383	425	586	532
血管連続撮影	659	544	651	566	484
CTスキャン	13,225	10,748	11,967	13,028	13,816
MRスキャン	5,034	3,828	4,600	4,760	4,672
RI	(休止)	(休止)	(休止)	(休止)	(休止)
リニアック	3,046	2,667	2,273	1,815	2,297
結石破砕	82	57	11	73	86

地域医療連携による県内医院からの検査依頼件数 (C@Rna実績)

(単位：件)

年月	項目	CT	MRI	内 視 鏡				骨密度 (DEXA)	合 計
				口	鼻	下部	計		
2021年	4月	51	72	5	7	12	27	162	
	5月	51	65	4	7	11	16	143	
	6月	44	84	0	6	6	12	146	
	7月	53	65	3	8	11	17	146	
	8月	47	62	2	6	8	15	132	
	9月	50	77	6	5	11	18	156	
	10月	63	100	3	6	9	14	186	
	11月	66	84	5	5	10	16	176	
	12月	56	71	2	4	6	9	142	
	2022年	1月	61	72	3	5	8	9	150
		2月	50	53	2	4	6	7	116
		3月	51	65	4	7	11	16	143
2021年度計		643	870	39	70	109	176	1,798	
2022年	4月	57	82	3	5	8	16	163	
	5月	62	74	4	3	7	28	171	
	6月	69	86	4	5	9	18	182	
	7月	48	53	2	4	6	16	123	
	8月	63	84	1	5	6	19	172	
	9月	58	61	5	6	11	18	148	
	10月	59	78	5	1	6	18	161	
	11月	55	67	2	5	7	20	149	
	12月	45	52	3	5	8	16	121	
	2023年	1月	54	53	3	3	6	13	126
		2月	60	71	5	7	12	13	156
		3月	63	76	5	7	12	17	168
2022年度計		693	837	42	56	98	212	1,840	
2023年	4月	73	66	2	7	9	26	174	
	5月	65	77	1	4	5	24	171	
	6月	69	84	3	7	10	28	191	
	7月	74	86	2	5	7	29	196	
	8月	61	61	4	2	6	15	143	
	9月	55	71	4	2	6	15	147	
	10月	74	81	7	6	13	16	184	
	11月	57	75	4	8	12	16	160	
	12月	52	69	4	6	10	18	149	
	2024年	1月	57	73	2	3	5	12	147
		2月	60	58	6	8	14	17	149
		3月	62	83	2	6	8	25	178
2023年度計		759	884	41	64	105	241	1,989	

年度別臨床検査件数

検体検査件数

(単位：件)

項目	年度				
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
尿検査	147,464	126,779	122,776	119,630	124,742
糞便検査	521	272	356	358	400
穿刺液・採取液検査	425	274	280	276	280
血液学的検査	295,087	252,082	285,048	300,842	316,233
生化学的検査	727,629	645,302	687,325	729,576	801,849
免疫学的検査	80,081	62,955	75,358	84,561	85,589
微生物学的検査	23,285	19,172	18,837	17,735	23,965
病理学的検査	5,340	4,630	5,174	5,058	4,513
細胞学的検査	3,820	3,086	2,719	2,810	2,341
合計	1,283,652	1,114,552	1,197,873	1,260,846	1,359,912

生理機能検査件数

(単位：件)

項目	年度				
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
心電図検査	10,529	8,468	9,622	10,186	9,824
筋電図検査	136	180	80	110	90
脳波検査	559	297	220	188	187
呼吸機能検査	2,466	1,017	351	401	1,159
超音波検査	6,859	5,616	5,996	5,886	6,683
脈波等検査	482	406	470	399	353
聴力検査	1,705	1,049	1,001	1,130	1,060
その他の生理機能検査	64,453	66,019	90,401	88,775	90,787
合計	87,189	83,052	108,141	107,075	110,143

外部委託検査件数

(単位：件)

項目	年度				
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外部委託検査	20,805	17,000	20,762	21,538	20,859
未保険検査（再掲）	61	91	80	94	89

年度別栄養件数

入院時食事療養数

(単位：人・食・%)

年度別 項目	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	1日当り 給食人 数	比 率								
一般食	114.68	44.60	94.10	45.90	106.69	44.89	100.00	42.55	100.58	44.31
特別食	142.36	55.40	110.87	54.10	130.96	55.11	135.00	57.45	126.41	55.69
総 数	257.04	100.00	204.97	100.00	237.65	100.00	235.00	100.00	226.99	100.00
1日当り給食数	698		559		648		695		625	
1ヶ月当り給食数	20,951		16,769		19,424		20,878		18,743	

栄養食事指導人数

(単位：人)

年度別 項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
算定個人栄養食事指導人数	1,162	1,302	669	1,117	1,117	556
算定後期高齢者退院時栄養 食時指導人数	—	—	—	—	—	—
算定地域連携栄養食事指導及 び診療情報提供書発行人数	27	15	11	2	2	17
算定集団栄養食事指導人数	58	33	6	0	0	4
総 数	1,247	1,350	686	1,119	1,119	577
非算定個人栄養食事指導人数	42	96	99	386	386	93
非算定集団栄養食事指導人数	125	72	0	5	5	8
総 数	167	168	99	391	391	101
管理栄養士1人当り指導人数	471	380	196	336	336	136

年度別治験件数

治験件数・市販後調査実績

(単位：件・円)

年度 診療科 項目	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	治 験 件 数	市販後 調 査								
内科	8	32	23	0	19	5		4	4	7
脳神経外科										
小児科										
小児外科										
外科						1				
整形外科		44						48		6
泌尿器科										
産婦人科										
耳鼻科										
歯科口腔外科										57
麻酔科										
皮膚科										
放射線										
合 計	8	76	23	0	19	6	0	52	4	70
金 額	8,366,553		3,996,000		2,864,160		1,054,000		19,470,847	
EBM推進研究費	225,000		210,000		0		0		0	
厚生労働科学研究費補助					0		0		0	

V

各 診 療 科
及 び
各 部 署 活 動 状 況

内 科（2023 年度）

内科部長 上原慶太

現在の栃木医療センター内科は、総合内科医を中心に消化器内科、循環器内科などの各専門医が連携し外来・入院診療を行っています。そのため、臓器別に偏らない内科全般に渡る総合的な診療を展開しているというところでは、医療を提供する上で、総合内科医も専門医もお互いに必要です。総合内科は「ジェネラリスト」として多彩な愁訴・疾患の診療に従事しており、複数の臓器に渡るトラブルを抱えた高齢患者さんの診療や、病院受診時には診断がついていない様な患者さんの診療を得意としています。もちろん、消化器疾患、循環器疾患も常勤専門医が総合内科医と共に柔軟に対応していきますので幅広く質の高い医療を多くの患者様に提供できるようになりました。中規模病院ならではの連携の良さを活かして、患者さんにより良い医療を提供し、地域医療に貢献していくことが私達の目標です。

常勤スタッフ（2023.10 現在）

臨床研究部長	加藤 徹	循環器内科
内科部長	上原 慶太	消化器内科
循環器内科医長	足立 太一	循環器内科
消化器内科医長	小池 健郎	消化器内科
消化器内科医長	吉竹 直人	消化器内科
内科副部長・医長	矢吹 拓	総合内科・家庭医療
循環器内科医長	諏訪 秀明	循環器内科
内科医師	平岩 卓	総合内科
消化器内科医師	内藤 恵理	消化器内科
消化器内科医師	内藤 裕史	消化器内科
内科医師	杉山 嘉宏	総合内科
内科医師	小澤 芳	総合内科・家庭医療
内科医師	三戸 勉	総合内科・家庭医療
内科医師	佐藤 友佳子	総合内科
内科医師	伊豆倉 遥	総合内科・家庭医療
内科医師	田中 奈央	総合内科
内科医師	大野 彰久	総合内科
消化器内科医師	林田 翔	消化器内科
後期研修医	大澤 悠	
後期研修医	瀬山 裕英	出向中
後期研修医	松本 航平	出向中
後期研修医	吉原 さつき	出向中
後期研修医	山口 高史	
後期研修医	松山 拓	

後期研修医	北川 万梨子	
後期研修医	菊野 珠生	
後期研修医	瀬堂川 拓	
後期研修医	三田 隼太郎	
後期研修医	笠原 悠佑	出向中
後期研修医	山本 栞里	出向中
後期研修医	大垣 宣敬	
後期研修医	松村 薫	
後期研修医	榎本 薫	循環器内科

当科では消化器疾患全般の診療を行っているが、特に内視鏡を用いた診断と治療を得意としている。また、総合内科医と診療およびカンファレンスをともに行っており、全身性疾患における消化器診療にも力を入れている。この数年は内視鏡センター化により今まで以上に外科との協力体制が築けており診療が向上している。

当科の特色:

- 消化管の診療では、通常の内視鏡検査にも画像強調観察や拡大内視鏡観察を積極的に用いて確実かつ迅速な診断に努めている。大腸内視鏡検査では、治療必要な『ポリープ』などの病変を見つけその場で日帰り手術(内視鏡治療)を行っている。内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)も導入しており、食道や胃に加え最も高度な技術が必要な大腸の『早期がん』に対する ESD も多数行っている。
- 胆膵の診療では、総胆管結石や胆膵の悪性疾患に伴う悪性胆道閉塞など胆膵の内視鏡検査や治療は外科と合同で施行しリアルタイムに画像を検討している。その診断を基に、最善の結果が得られるよう病態に合わせた適切な治療を行っている。コンベックス型超音波内視鏡を導入し膵腫瘍に対して超音波内視鏡下針生検(EUS-FNA)も行っている。これらの検査は更なる診断精度の向上に寄与するものと考えている。また、高齢化社会に伴い抗血栓薬を内服している方や基礎疾患を有する方が増加しており、急性胆嚢炎に対する緊急手術が行えない患者さんも増えている。そのため、当院では経皮経肝胆嚢ドレナージ術よりも技術は要するが生理的で非侵襲的な内視鏡的胆嚢ドレナージ術を積極的に行っている。また近年では胆嚢炎等に対し EUS 機器を用いてドレナージを行う Interventional EUS も外科と協働し行っている。
- 高齢化に伴い何らかの全身性疾患を抱えた患者さんが増えている。消化器内科は内科の一診療科として総合内科や循環器科の医師と密に連携し、全身性疾患における消化器診療にも力を入れている。
- 外科や総合内科の若手医師の希望者においては、科の垣根を越え内視鏡トレーニングを行える環境を積極的に提供している。

当科の現況:

- 上原慶太統括診療部長、小池健郎医長、吉竹直人医長、内藤裕史医長、内藤恵理医師、松本裕大医師、林田翔医師を合わせた常勤医師 7 名体制で診療している。5名が日本内科学会総合内科専門医、1名が日本内科学会内科専門医、6名が消化器病学会専門医、・内視鏡学会専門医かつ肝臓病学会専門医であり、そのうち3名は内科学会指導医、消化器病学会指導医、内視鏡学会指導医となっている。
- 本年度は 9 月に内視鏡機器の更新が行われ最新機種となっている。
消化器内視鏡総件数 3370 件(上部内視鏡 1724 件、下部内視鏡 1282 件、ERCP 270 件、超音波内視鏡 93 件)、内視鏡治療件数 1103 件であった。前年度よりも若干の件数減少はあるものの高水準を維持できているものとする。
- 日本内科学会教育関連病院、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設になっている。

1.スタッフ紹介

山口 禎夫、石井 とも、金光 将史の常勤医3名、石井 徹の非常勤<週3回>1名体制です。山口 禎夫は感染・免疫・アレルギー全般、石井 とも、金光 将史は食物アレルギー児の食物負荷試験を入院・外来ともに数多くの業績をあげており、全員専門医を取得し、科を挙げてアナフィラキシーの救急対応、舌下免疫療法(SLIT)の導入、難治性喘息・アトピー性皮膚炎児への生物学製剤導入によるコントロールなど対応しております。非常勤医師は、心臓(井原正博医師)月1回、神経(上石 晶子医師・山口 勝之医師)月3回、内分泌(長谷川 行洋医師・石井 徹医師)月1回、アレルギー(北原 望医師)月1回の専門外来を行っています。

2.特色

2023年度は、感染症指定病院として感染児の入院要請を積極的に受け入れ、週1回の月曜日、月1～2回日曜日の輪番制による二次及び救急診療も行いました。食物アレルギーは、近隣医療機関や県外からの新規紹介患児の診療体制にて原則週2名受け入れ、希望から1～2ヶ月以内の受診となっております。午後は神経外来、心臓外来、内分泌・代謝外来、アレルギー外来、予防接種外来、乳児健診、ヘルシーダイエット外来などの専門外来を予約制で行い、アレルギー性疾患、気管支喘息、発達遅滞、免疫異常など慢性疾患のフォローや救急患者の診療依頼にも対応しています。また、アレルギー外来は、小児アレルギーエデュケーター(PAE)によるフォローも充実しており、スキンケア、吸入手技の確認やアドレナリン注射手技の確認も含め、栄養士による栄養指導にも対応もしています。土日祭日は、全日、入院要請に対しては、輪番日以外の時間外も含めて可能な限りで対応しております。

3.データ

2023年度の小児科入院患者数は864名で、前年度と比較し20%程度増えております。外来においては、概算で月600名、救急(時間外)患者数は、平均月160名でした。救急車の患者数は年250名で、うち25%が入院となっております。食物アレルギー負荷試験は、年間入院300名、外来500名となっております。アレルギー診療の成績は、アトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎は、各150～200名が通院しています。

1. スタッフ 感染アレルギー科・臨床研究部・小児科部長兼任 1名

2. 特色 感染症、アレルギーは、小児科外来において最も popular にて診療する機会が多い疾患でございますが、その関係は表裏一体で、感染症によってアレルギーの病態は悪化し、アレルギー素因のある方は、感染症の重症化のリスクであります。長期的にみれば、感染を繰り返すことによって、将来のアレルギー疾患の発症を抑えることもわかっております。当方は、日本小児科学会指導医、日本感染症学会感染症専門医・指導医、抗菌化学療法（抗生物質）指導医、感染制御専門医（ICD）であり、感染症の診療・臨床研究を行っております。日本アレルギー学会認定アレルギー専門医は当方含め 4 名<1 名非常勤>、うち暫定指導医 2 名の体制で、小児科の入院、外来の食物負荷試験に対応し、安全性を重視した診療の選択肢を御案内するとともに、スギ花粉・ダニの舌下免疫療法（減感作）療法、少量段階的解除による食物経口免疫療法、生物学製剤導入による難治性アトピー性皮膚炎、喘息についても対応しております。

近年、経皮感作により食物アレルギーの発症、アトピー性皮膚炎の悪化、のちの気管支喘息やアレルギー性鼻炎といったアレルギーマーチの誘因になることが明らかにされつつあり、生後早期からのスキンケアの重要性を説いており、小児アレルギーエデュケーター（PAE）3 名体制で実績にもつなげております。また、幼稚園・保育園・学校にアドレナリン注射薬であるエピペンの講習にも出向しております。

感染症の分野では、院内の感染制御の他、招請講演にも対応し、日本感染症学会、日本化学療法学会、日本小児感染症学会、日本環境感染学会、日本臨床微生物学会の代議員・評議員として、学術方面でも有用な情報提供をできるように、感染防止対策、抗菌薬適正使用に関するサーベイランスにも注力して参りたいと存じます。

外科

外科部長 鈴木 慶一

2023 年度の外科スタッフは田村明彦病院長を筆頭に、鈴木慶一（肝胆膵）外科部長を中心として臨床に携わっております。構成医師として橋本健夫医長（肝胆膵）、尾曲健司医長（上部消化管）、門野政義医員（下部消化管）、岡田純一（後期研修医）の4名が在籍し、常勤医6名体制で診療にあたっております。セミオープンシステムにより、竹林クリニックの植松繁人医師や小林外科クリニックの小林英之医師から多くの患者様の紹介をいただき、多大なる支援を賜りました。

定期活動として毎週火曜日に術前カンファレンスを、木曜日にコメディカルにも参加していただき病棟カンファレンスを行い診療方針につき多職種間で検討しております。さらに隔週で内科外科合同カンファレンスを行い科横断的な治療方針決定に務めています。当科ではほぼ全ての手術のビデオ撮影を行っており、隔週でカンファを開き外科医全員で手技・手順等の確認、工夫点や改善点などをディスカッションし、科全体で手術精度の向上に努めております。また月1回の抄読会を行い皆で最新医学の知見を勉強しております。その他、緩和ケア、感染、褥瘡対策、栄養サポートなどのチームにも積極的に参加しております。学会活動も可能な限り参加しており、2023年度は全国学会6件、地方会4件の発表を行いました。論文執筆は、英文1編と和文1編の掲載があり、和文1篇が査読中です。

手術件数はコロナ渦の影響から徐々に抜け出しつつあり、2022年度に比べ全体的に増加傾向でした。2023年度の手術実績は、総手術数は662件と前年度比で約1割の増加です。主な内訳は胃癌19例（4例）、大腸66例（60例）、乳腺85例、胆嚢良性121例（114例）、肝切除15例、膵切除20例、虫垂炎39例（39例）、ヘルニア110例（67例）、末梢血管23例でした（鏡視下手術）。緊急手術は68例ありました。

整形外科

整形外科部長 吉田宏樹

スタッフ

吉田 宏樹（整形外科部長）
整形外科専門医
脊椎脊髄病医
慶應義塾大学医学部整形外科 非常勤講師
手外科（手・肘関節）、脊椎外科、
内田 勲（リハビリテーション科医長）
整形外科専門医
股関節外科 外傷外科
安東 悟司 整形外科専門医
股関節外科 外傷外科
今西 佑 整形外科一般 外傷外科
山本 雅貴 整形外科一般 外傷外科
室谷 直樹 整形外科一般 外傷外科

常勤医師

岡村 保成（整形外科専門医、岡村整形外科医院院長）
専門分野 小児・股関節外科
上地 富 （整形外科専門医、南が丘整形外科ペインクリニック院長）

特色

脊椎疾患は、頸髄症、腰部脊柱管狭窄症などの慢性疾患をはじめとし、椎体の破裂骨折の外傷後の四肢麻痺にも対応しております。また、ほぼすべての症例に対して顕微鏡を用い、安全に手術を行うように心がけています。

変形性股関節症や変形性膝関節症に対しても、人工関節センターを開設し、手術成績も良好です。人工股関節、人工膝関節の手術件数は年々増加しています。

上肢に関しては、骨折、腱損傷、神経損傷などの外傷はもちろん、手根管症候群、肘部管症候群、デュプイトレン拘縮などの慢性疾患や、先天奇形などにも対応しております。

その他、小児から高齢者まで、直接来院された患者様はもちろんですが、他病院や医院、施設からの紹介に関しても積極的に受け入れるように努力をしております。

2023の手術件数は、1197件でした。

2023 年度は石川医師の異動に伴い、4 月より柄澤医師が新任となり、越田医長、畠山医師とともに常勤医 3 名で診療に従事しました。

退職（2023 年 3 月 31 日）

石川 裕己 （東京歯科大学市川病院へ）

新任（2023 年 4 月 1 日）

柄澤 宏至 （慶応義塾大学病院より）

今年度も入院患者さんについては6階病棟を中心に診ています。一昨年にグレードアップして導入した結石治療の ESWL（衝撃波破碎装置）もあり結石治療を積極的に実施しています。また下記のような悪性疾患の手術を要するような患者様を速やかに入院・手術ができるように地域医療連携室との連絡をとりながら、救急対応も含めて対応させていただいております。また前立腺針生検は2階病棟で施行しています。

手術については悪性疾患と、尿路結石などの良性疾患もあわせて 180 件施行されていますが、その大部分が近隣の開業医さんからの紹介患者さんでありますので、手術などの治療が速やかに行なわれるよう、紹介から入院加療までの期間がより短くなるように心がけています。

2023 年度手術件数（主なもの）

腫瘍性疾患		その他の疾患	
尿管部分切除術	1	ESWL	77
膀胱全摘除術・回腸導管	3	経尿道的前立腺切除術	15
根治的前立腺全摘術	6	TUL	35
尿管部分切除術	1	f-TUL	17
高位精巣摘除術	1	経尿道的膀胱結石碎石術	14
TUR-BT	49	陰嚢水腫根治術	3
		包茎手術	4
		尿道狭窄内視鏡手術	3

小児外科 小児泌尿器科

小児外科/小児泌尿器科 医長 小林めぐみ

同 非常勤医師 城崎 浩司 慶応義塾大学（2023年4月より毎週火曜日診療応援）

同 非常勤医師 中村 繁 前自治医科大学小児泌尿器科（2023年4月より専門外来）

同 医師 阿部 陽友 慶応義塾大学（2024年4月より赴任）

關根 沙知 自治医科大学（2024年4月より赴任）

外来：月～木曜日（10：00～12：00, 13：30～16：00）

※第1, 3, 5週の水曜日は小児泌尿器科専門外来 中村 繁医師

※火曜日、木曜日は手術日のため一部外来制限をしています。

※2024年4月から診療日は月～金曜日に変更しております。

手術：火曜日午前、木曜日午前/午後

診療実績	年度	外来件数	再来患者数	入院患者数	手術件数
	2022年度	84名	337名	31名	22名
	2023年度	212名	626名	118名	116名

トピック

2023年1月に小林めぐみが常勤医師として入職し、非常勤医師や小児科医師と協力し、外来および手術数の増加に努めました。

2024年1月から小児泌尿器科を標榜し、小児泌尿器科疾患全般のみならず、夜尿症などの小児泌尿器科疾患の外来も受けつけております。

さらに、2024年4月より常勤医2名が入職したことで外来枠を拡げ、救急の受け入れにも力を入れております。

引き続き地域の需要に応えた、安心できる小児外科診療の体制作りを進めております。

その他

・カンファレンス：月に1度ずつ病棟スタッフ、更に小児科とカンファレンスを行い、小児外科診療や実際の手術・患者について共有し、小児医療のレベルアップに努めております。

・学会活動：小児外科の主要な全国学会、地方会への参加・発表を積極的に行うよう努めております。2023年度は当院の症例も発表した他、宇都宮市の乳児健診委託病院研修会では、講演を行いました。

・論文執筆：小林の英文1編・和文2編が受理されました。引き続き執筆活動を継続し、当院の症例についても報告していきたいと思っております。

2023 年度、耳鼻咽喉科は昨年度と同様、常勤 1 人体制での診療を継続している。常勤一人で診療できる疾患の限界はあるが、できる範囲で入院患者受け入れ、耳科・鼻科・頭頸部腫瘍手術も継続している。頭頸部腫瘍カンファレンスは継続して行っており、口腔外科 山田学医師、外科鈴木慶一外科部長を中心に口腔癌や希少な頭頸部・口腔内腫瘍の診断・治療方針決定に役立っている。

今後も、地域の皆様にとって必要不可欠な医療を提供するため、さらにスキルアップに努めていく。医療の最新情報を常に取り入れ、地域のニーズに合わせた診療体制の充実を目指していきたい。地域の皆様が安心して治療を受けられるよう、これからも全力を尽くしたい。

(診療体制)

常勤 高橋英至、山口ありさ

(外来診療)

外来診療：月～金曜日の午前

専門外来：月～金曜日の午後

月曜日：アレルギー外来

パッチテストやプリックテスト等のアレルギー検査。また、アトピー性皮膚炎の治療を行っている。

火曜日：中央手術室

水、木曜日：手術、検査外来

乾癬には PUVA、全身照射型ナローバンド UVB による光線治療を併用している。また、重症例には生物学的製剤による治療を行っている。

(入院診療)

新規入院患者数 70 名

項目別症例数

感染症	32
腫瘍	16
脱毛症	8
水疱症	7
褥瘡・皮膚潰瘍	7
紅斑症	4
血管炎	2
その他	1

1. スタッフ紹介

2023年度は、歯科口腔外科部長1名、歯科口腔外科医長1名、医員2名、レジデント2名、非常勤医師4名、歯科技工士1名、歯科衛生士5名、看護師2名、外来クラーク1名のスタッフで業務を遂行しました。

2. 特色

初診患者の約半数が紹介患者ということもあり、県央の口腔外科に関する基幹病院としての役割ができればと考えております。主に抜歯などの外来小手術と入院を必要とする全麻手術といった口腔外科中心の診療を行ってきました。疾患としては、口唇口蓋裂をはじめとする先天異常、顎骨内および口腔粘膜に生じた嚢胞や良性腫瘍、下顎前突症などの顎変形症、顎顔面領域の歯性感染症、智歯などの埋伏歯、顎関節症、顎骨骨折や歯牙脱臼そして顔面・口腔内の裂傷などの外傷に至るまで顎口腔領域に関わる疾患を広く取り扱っております。特に、口唇裂・口蓋裂や顎顔面変形症、口腔腫瘍、口腔乾燥症（ドライマウス）などの専門性の高い疾患については専門外来を設け、質の高い治療が提供できるようにしています。

また、外来通院の中では治療困難な障害者や非協力小児、歯科恐怖症、重度の異常絞扼反射（嘔吐反射が強い）などの患者に対しては、全身麻酔や静脈鎮静下で安全かつ確実な歯科治療を行うようにしております。

さらには、近年、口腔衛生状態不良や歯周病などの口腔疾患と全身的な疾患である糖尿病や心血管系疾患、関節リウマチ、誤嚥性肺炎、細菌性心内膜炎、早産・低体重児出産などとの因果関係が注目されるようになり、当院の口腔ケアチームや摂食・嚥下チームの中核メンバーとして、入院患者や手術、がん化学療法などの周術期における患者の口腔ケアや摂食・嚥下機能訓練などの治療に携わっております。

3. 治療成績

2023年度は、外来初診患者数は3,728名、入院患者総数も638名と昨年大幅に外来初診患者数の増加を認めました。初診患者の来院内訳では約60%が院外からの紹介患者でありました。手術室における治療実績は、手術総件数が746件、うち全身麻酔症例は702件、静脈鎮静およびその他症例は44件と、昨年の総手術件数（625件）と比べ、大きく増加しております。全身麻酔下での手術では口唇口蓋裂や顎変形症などの先天異常・顎発育異常症例から、外傷、嚢胞、唾液腺疾患、口腔がんまで多岐にわたる疾患の手術を行っていましたが、中でも悪性腫瘍および顎変形症手術件数が増加してございました。その他の疾患の内訳はほぼ例年通りでありました。

令和5年（2023）の手術室における眼科手術件数は

616件（併施手術は1件として数える）でした。手術の具体的な内訳（併施手術13件も含める）は、以下の通りです。

白内障手術関連 574件

K282-1-イ 水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合（縫着レンズを挿入するもの）
4件

K282-1-ロ 水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合（その他のもの） 570件
（併施手術13件を含む）

網膜硝子体手術関連 17件

K280-1 硝子体茎頭微鏡下離断術（網膜付着組織を含むもの） 13件

K280-2 硝子体茎頭微鏡下離断術（その他のもの） 3件

K279 硝子体切除術 1件

眼房手術関連 1件

K274 前房異物除去術 1件

ぶどう膜・緑内障手術関連 7件

K268-2ロ 緑内障手術 流出路再建術 その他のもの 2件

K268-4 緑内障手術 緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのないもの）
4件

K268-5 緑内障手術 緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）
1件

角結膜手術関連 8件

K224 翼状片手術（弁の移植を要するもの） 4件

K223 結膜嚢形成手術 部分形成 4件

眼瞼手術関連 9件

K217-3 眼瞼内反症手術 眼瞼下制筋前転法 1件

K219-1 眼瞼下垂症手術 眼瞼挙筋前転法 8件

手術室（2023年）

麻酔科（2023年）

手術室は2次救急病院としての役割のほか必要時3次も受け入れ24時間手術体制がとれるようにしております。

当院の特徴として紹介による手術のほか緊急手術が多いことが特徴です。

麻酔科医は医科の常勤麻酔科医3人と歯科の麻酔科医（歯科麻酔専門）常勤1人、非常勤1人の計2人です。

さらに非常勤の麻酔科医にも協力いただき不備のないよう対応しております。

ペインクリニックも水曜日に1日おこなっております。

実績

2023年度も着実に手術数は増えております。

手術総件数は 3,974件（2022年 3,814件）

全身麻酔件数は 2,325件（2022年 2,143件）

スタッフ

医科麻酔科医

手術部長 高橋伸二

医師 菅家裕子

照屋洋武

歯科麻酔科医

医長 縣秀栄

医師（非常勤）雨宮姫香莉（2023/4～2023/9）

國奥有希（2023/10～2024/3）

外来

水曜日午前（第1、3、5週）ペインクリニック全般

水曜日午後 頭頸部ペインクリニック

1. 概要

栄養管理室は管理栄養士5名、調理師2名、委託職員（栄養士、調理師、調理補助員）が協力して1日約650食（1食約215食）を提供している。

また、栄養食事指導や各種栄養管理、チーム医療への参加等を実施している。

2. 2023年度栄養管理室の目標

- 食事提供体制の強化
- 教育体制の標準化
- 給食管理業務及び臨床栄養業務の見直し
- 地域医療連携における栄養食事指導の積極的な介入
- 実習生受け入れによる次世代管理栄養士の育成
- 各種学会への参加及び発表

3. 入院時食事療養数（2023年度）

項 目		食 数 (食)	比 率 (%)
一 般 食		99,142	41.6
特別食	加 算	61,115	25.6
	非加算	78,049	32.8
総 数		238,306	100.0

4. 栄養食事指導件数（2023年度）

項 目		初 回	2回目以降
算 定	個人栄養食事指導	268	288
	地域連携栄養食事指導	12	5
	個人算定小計	280	293
算 定	集団栄養食事指導		4
	算定小計		577
非 算 定	個人栄養食事指導		93
	集団栄養食事指導		8
	非算定小計		101
総 合 計			678

5. 患者サービス

患者個々の病状に合わせた対応が実施できるよう、献立や食事形態の調整に努めた。また、昨年度より特別メニューの回数を週2回から最大週10回へ拡大。2023年度は1,517食の提供を行った。

6. 衛生管理

安心、安全な食事提供のため、各種帳票の内容を見直した。

7. 自己研鑽

関東信越国立病院管理栄養士協議会による学会や研修会、全国国立病院総合医学会へ参加した。第22回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会においてポスター発表を行った。

8. チーム医療

栄養サポートチーム (NST)
摂食嚥下サポートチーム
口腔ケアチーム
褥瘡対策チーム
生活習慣病診療チーム
緩和ケアチーム
せん妄・認知症ケアチーム
骨折リエゾンサービス (FLS) チーム

9. 今後の目標

安心・安全で、おいしい食事提供を行い、治療に貢献できるよう努力し、チーム医療に積極的に参加できるよう業務の効率化をすすめていきたい。

2023 年度診療放射線科年報

診療放射線技師長 藤田克也

【放射線科スタッフ】

●放射線科医師

放射線診断 医長 河合 陽 放射線治療 医長 村上 恵理

放射線診断 医師 宇賀神 敦（2023 年4月1日 着任）

●診療放射線技師 16 名

2023 年4月1日 着任 技師長 藤田克也

技師長 藤田克也	副技師長 都丸好孝	主任 関根了	主任 齊藤公平
主任 小林幸太	主任 清水史紀	主任 佐々木諒	技師 江連美波
技師 藤岡昌昭	技師 水落拓也	技師 根立順功	技師 富田未侑
技師 久田友頼	技師 鈴木敬	技師 上垣俊祐	技師 梶原七海

2023 年 12 月 31 日 退職 技師 富田未侑

2024 年 4 月 1 日 転出 技師 久田友頼 技師 鈴木敬

●2023 年度 放射線科目標

1. 放射線機器のQA、QCを徹底し、被ばく線量低減に努める。
2. 医療連携検査装置の効率的な運用で地域医療に貢献する。
3. 撮影技術の向上と均てん化を図り、質の高い画像の提供に努める。
4. 放射線科内での情報共有と指導体制の強化。

●2023 年度 放射線科総括

4 月、画像診断医 1 名増員により医長の負担軽減

4 月、血管撮影装置更新のため休止（検査件数減少）

5 月、新血管撮影装置(CANON 社製 AlphenixINFX-8000V)運用開始

10 月、国際医療福祉大学の放射線学科より学生実習受け入れ、約 2 か月間 2 名の学生を受け入れた。

2 月 故障装置の廃棄、7 番撮影室のX線 TV 装置、5 番撮影室の多軌道断層装置を、保健所へ廃棄届けを提出。

2 月 地域医療連携システム TONARI 運用開始。クラウド型 PACS の利点を生かし、インターネット経由で連携施設に画像を送信可能になった。

診療放射線技師の免許アップデートとして業務拡大に対する告示研修の受講が求め

られている。この受講を勧めて、2023年4月16%であったが、各自の意識も高まり2024年3月時点で63%の修了率となった。作成したマニュアルやデータが分散している状況であった為 Teams やクラウドを使い、一元管理、常に改定するマニュアルを目指し整理を開始した。2022年集計で放射線治療新患人数が100件を割り込み算定が7割となったが、2023年では115名となり10割の算定が可能となった。2023年5月～コロナ感染症の5類移行となり、放射線検査も行いやすくなり、検査件数の回復も見られ、ほぼ全領域でコロナ前の件数に近似した。中でもCTの回復は医療ニーズと相まって過去最高件数となった。ポータブル件数は年々増加傾向である。地域連携検査は長らく富士フィルム社製C@RNAを使用していたが、PSP社製TONARIに変更した。ネット回線にて画像閲覧可能なため検査後医院の画像確認は迅速に行える環境となった。レポートも同様に参照可能である。連携室、放射線技師、運用システム一丸となって近隣医療機関から利用いただきやすい対応を心がけている。

【設置装置】

一般撮影装置（2管球）	2台	FPD X線 TV 装置	1台
FPD 立、臥位撮影用システム	4台	80列 MDCT	2台
CR システム	2台	1.5TMRI 装置	1台
乳房撮影装置 FPD	1台	3.0TMRI 装置	1台
骨塩定量測定装置	1台	血管撮影装置 FPD	1台
10MV リニアック	1台	シミュレータ装置	1台
外科用イメージ	2台	ポータブル装置（歯科用含む）	6台
結石破碎装置	1台		

【業務実績】

項目	月平均	前年比	合計	特記事項
CT	1151	1.06	13816	1) CT 件数の増加 救急科医師増員による影響
再掲) CT 地域医療	62	1.06	749	
MR I	389	0.98	4672	2) 地域医療検査の増加
再掲) MR I 地域医療	75	1.06	903	
骨塩定量	85	1.07	1019	CT, MRI、骨塩定量 はいずれも前年を上 回っている。
再掲) 骨塩定量地域医療	20	1.13	242	
血管造影 合計	40	0.85	485	
OPE イメージ	44	0.91	532	
X線 TV	88	0.84	1052	
乳房撮影	27	0.99	321	
歯科(1F)	269	1.09	3222	
一般撮影	1569	0.98	18833	
ポータブル病棟	519	1.01	6233	
放射線治療 部位数	191	1.22	2295	

臨床検査科

【概要】

検査科は、臨床検査科長の加藤部長、病理診断科長の西川医長、臨床検査技師 22 名で運営され休日、夜間の救急検査にも対応しています。4 月より副技師長 1 名と主任 1 名を新たに迎え、2023 年 5 月より新型コロナウイルス感染症も 5 類に移行し、以前よりは動きやすい環境とはなりましたが、検査依頼数も徐々に増加し元に戻ってきている状況です。引き続き、感染対策を行いながら、検査科一丸となって質の高い検査を目指してまいります。

【スタッフ】

〈医師〉

臨床検査科長 加藤 徹
病理診断科長 西川眞史

〈臨床検査技師〉

技師長 宮澤 寿幸
副技師長 小川 裕子
主任 寺戸 一昭
主任 小川 佳亮
主任 阿久津 朋子
主任 人見 香奈
主任 高橋 理紗
技師 桑畑 紗己 (2023.9 復帰)
技師 松岡 愛美
技師 阿部 弥生
技師 折原 里美 (育休)
技師 黒岩 ひかり
技師 李 恩恵
技師 佐藤 優美
技師 森本 涼
技師 古谷 能祥
技師 福澤 奏恵 (2023 年 12 月退職)
技師 秋山 樹 (期間職員) (2024 年 3 月期間満了) 2024.3 退職
技師 石坂 瑠那 (期間職員) (2024 年 3 月期間満了) 2024.3 退職
技師 堀口 苑子 (期間職員) (2023 年 11 月期間満了) 2023.11 退職
技師 星 功晴 (非常勤)
技師 渡邊 貞澄 (非常勤)

【2023 年度臨床検査科の目標】

1. 医療及び医療の質の向上
 - ・病院機能評価後の指摘事項の改善
 - ・事故防止対策の強化
 - ・外部精度管理参加と内部精度管理を行い精度の維持向上
2. 経営・業務改善
 - ・業務の効率化の推進
 - ・業務内容適宜見直し(項目、試薬、消耗品等)
 - ・職場環境改善(整理整頓、環境整備)
 - ・働き方改革の推進および管理

3. 教育・研修の充実とスキルアップ
- 各種認定資格取得
 - 学会発表、論文投稿
 - 各種勉強会、研修、学会への参加
 - 人材育成
 - 臨床研究への参加
 - 看護学生教育への参加

【研究発表実績】

2023年5月20日・21日

第72回 日本医学検査学会

「皮膚保護剤が尿沈渣に与える影響」

主任臨床検査技師 高橋理紗

2023年9月2日

第51回 国立病院臨床検査技師協会 関信支部学会

「当院における補聴器適合検査の有用性と今後の課題」

臨床検査技師 李恩恵

「頸部回旋時の頸動脈超音波検査により Bow hunter 症候群が疑われた 1 例」

臨床検査技師 佐藤優美

【病理診断科、臨床検査科実績件数】

2023年臨床病理カンファレンス実施件数は、8回実施されました。臨床検査実績総件数は2022年度1,371,833件、2023年度1,473,614件と7%の増加となりました。

【検査科の取り組み】

検査技師による心臓超音波件数の増加に取り組み、160件/月を目標として件数増加に取り組みましたが、平均192件/月と大きく目標を達成することができました。また、検査技師による心エコー以外のその他超音波件数（腹部・下肢・体表等）で50件/月とし、またあまり件数を増やしていない領域にも対応できるよう徐々に対応し、65件/月、対応することができました。医師の働き方改革に協力できるよう努力してまいります。

PCRの今後の利用として、2023年11月より新型コロナウイルス遺伝子検査ばかりでなく、新規に結核菌遺伝子検査を開始し、PCR機器の効率的利用にとり組んでまいりました。

【精度管理の取り組み】

日本医師会、日本臨床検査技師会精度管理、栃木県臨床検査技師会の精度管理調査に参加しました。日本臨床検査技師会精度管理ではFT4項目のみC判定でしたがサンプル由来と考えられ機器及び日常検体の測定に問題はありませんでした。栃木県臨床検査技師会の精度管理調査は、フォトサーベイでD評価もございましたが、再度見直しを行い判断の確認を行いました。その他項目は高評価を受けておりますので機器測定分野においてはすべての精度管理で機器・手技共に高評価であり精度の保証の裏付けがされました。今後は画像データ判読分野にも力を入れ検査の精度の担保に努めてまいります。

【取得認定試験】

日本臨床検査医学会・日本臨床検査同学院
 日本臨床検査医学会・日本臨床検査同学院
 日本臨床衛生検査技師会
 日本不整脈心電学会
 日本不整脈心電学会
 日本超音波医学会
 日本超音波医学会

緊急臨床検査士資格認定
 緊急臨床検査士資格認定
 認定心電検査技師
 心電図検定2級
 心電図検定2級
 認定超音波検査士（血管）
 認定超音波検査士（循環器）

李 恩恵
 森本 涼
 阿部 弥生
 李 恩恵
 佐藤 優美
 人見 香奈
 松岡 愛美

薬 劑 部

薬劑部長 荻野 万人

<スタッフ>

薬劑部長： 荻野 万人（2023年4月～）
副薬劑部長： 岡野 和成（～2023年6月）
製劑主任： 杉本 達也
医薬品情報管理主任：
塩崎 友治
調劑主任： 高橋 匠
治験主任： 川村 勇太
薬劑師： 高嶋 瑠美子
（2023年6月～育児時短勤務）
神長 美帆
（2023年6月～育児時短勤務）
越田 佐良紗（～2024年3月）
高田 知世
齋藤 真代（育児時短勤務）
加藤 慎也（～2024年3月）
浅見 由衣
高橋 弥希
松岡 美央
宮木 美穂（～2024年1月）
坂内 笑菜（2023年4月～）
神谷 淳子（非常勤）
薬劑助手： 五味 渕 順子

<概 要>

薬劑部は、主に調劑、無菌製劑、一般製劑、医薬品情報管理、薬劑管理指導、病棟薬劑業務、薬務業務等を行っている。

2023年度は、薬劑部目標を以下のように掲げた。

1. 医療機能及び医療の質の向上
 - ①地域包括ケア病棟を含む薬劑管理指導並びに病棟薬劑業務の推進
 - ②チーム医療への積極的な参画
 - ③処方支援・診療支援、プレアポイド報告、副作用報告の推進
 - ④規則・手順を守り、医療過誤・事故を防止する
 - ⑤病院機能評価の中間審査受審

2. 健全な経営基盤の確立
 - ①薬劑管理指導業務の推進
 - ②医薬品購入費の削減を図る
3. 積極的な業務改善
 - ①適正な業務配置とフォロー体制に努める
 - ②休暇を取得しやすい環境作りに努める
 - ③共同薬物療法管理業務(CDTM)によるタスク・シフト/シェアを進める
4. 地域医療連携強化
 - ①退院時薬劑情報管理指導の推進
 - ②連携充実加算の推進
5. 教育・研修の充実
 - ①NHO PAD（国立病院機構薬劑師能力開発プログラム）を参考にした人材育成を進める
 - ②専門薬劑師、認定薬劑師等、専門資格取得のための支援を行う
 - ③部内研修会を定期的開催し、院外研修会への積極的な参加を推奨する
6. 臨床研究の推進
 - ①臨床研究を奨励し、研究発表及び論文投稿の支援を行う

<業務報告>

2023年度の院内処方箋枚数は、前年度と比較して入院3.0%、外来0.6%と共に減少、院外処方箋枚数についても、前年度と比較して1.0%減少した。

一方で、2023年度の注射処方箋枚数は、前年度と比較して入院9.3%、外来7.0%と共に増加した。

（表1）

表1 処方箋枚数

処方箋枚数（枚）	2022年度	2023年度
入院	51,565	50,001
入院注射	68,597	74,950
外来院内	7,506	7,459
外来院外	50,518	50,005
外来注射	15,250	16,323

調剤料は、前年度と比較して入院外来合計で3%減であった。(表2)

表2 調剤料

	2022年度	2023年度
入院調剤料(点)	607,766	585,824
外来調剤料(点)	70,703	72,192
合計請求点数(点)	678,469	658,016
合計請求金額(円)	6,784,690	6,580,160

薬剤管理指導件数は、前年度と比較して、件数は17.2%減、合計請求金額は18.7%減となった。月平均件数は571件であり、17.0%減少した。(表3)

表3 薬剤管理指導料

	2022年度	2023年度
薬剤管理指導件数	8,285	6,860
指導料(点)	2,842,885	2,310,680
麻薬加算件数	107	94
含加算合計(点)	2,848,235	2,315,380
合計請求金額(円)	28,482,350	23,153,800

病棟薬剤業務実施加算件数は、前年度と比較して、2.8%減であった。(表4)

表4 病棟薬剤業務実施加算1

	2022年度	2023年度
実施加算1件数	20,309	19,741
加算点数(点)	2,437,080	2,368,920
合計請求金額(円)	24,370,800	23,689,200

無菌調製件数は前年度から大幅に増加し、月平均288件であった。外来化学療法加算も前年度より大幅に増加となり、合計請求金額も増加した。(表5)

表5 抗がん剤無菌処理料、外来化学療法加算

	2022年度	2023年度
無菌調製件数(件)*	2,981	3,465
無菌製剤処理料(点)	60,350	62,135
外来化学療法(点)	572,250	771,600
合計請求点数(点)	632,600	833,735
合計請求金(円)	6,326,000	8,337,350

*:無菌調製処理料1と2の合計

薬剤部の主な診療報酬点数による収入は、抗がん剤無菌製剤業務が大幅に増加したものの、調剤料、薬剤管理指導料、病棟薬剤業務いずれも減少となり、全体では前年度の5.6%減となった。(表6)

表6 主な診療報酬による収入金額

収入金額(円)	2022年度	2023年度
調剤料	6,784,690	6,580,160
薬剤管理指導料	28,482,350	23,153,800
病棟薬剤業務	24,370,800	23,689,200
抗がん剤無菌製剤等	6,326,000	8,837,350
合計金額(円)	65,963,840	62,260,510

その他として、バイオ後続品を含めた後発医薬品への切替えを引き続き推進し、2023年度後発医薬品数量割合は95.6%であり、後発医薬品使用体制加算1の算定は維持している。

外来腫瘍化学療法における連携充実加算については48件(月平均4件)を算定。

入院サポートセンターへの薬剤師配置により、ほぼ全ての患者に介入し、入院医療の最適化を推進させることができた。

引き続きSARS-CoV-2感染症の影響が続く中、病棟薬剤業務の充実を進め、地域医療連携についてもWebによる勉強会を行うことができた。

来年度も薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務の質の向上を目指し、業務内容を充実させ、安全・安心でできる薬物療法の提供に尽力してまいりたい。

リハビリテーション科

理学療法士長 山岸 正幸

作業療法士長 菅原 寛

人員：定員： PT11名 OT8名 ST3名

現員： PT11名 OT8名 ST2名（病休1名）

2023年度実績

(1) 実施件数、算定単位数、算定点数

		年間実施件数	年間算定単位数	年間算定点数
PT	2022	25,350	35,624	8,769,390
	2023	27,290	40,605	10,181,930
OT	2022	17,474	26,595	6,542,500
	2023	18,699	27,640	7,120,285
ST	2022	3,017	3,835	1,028,150
	2023	4,376	5,735	1,508,725
リハ合計	2022	45,841	66,054	16,340,040
	2023	50,365	73,980	18,810,940

※ 算定点数は、単位数に加え、計画書や早期、初期加算の点数の合算となっている（外来、地域包括ケア病棟も含む）。

2023年度は理学&作業士長が新たに着任し、新たな体制でスタートを切った。

8月には適時調査があり、それに合わせてリハ科のマニュアルの更新&見直しを行った。

診療実績に関しては、PTは16%増、OTは8%増、STは46%増となり、各部門で前年度増の好成績を残すことができた。現状の課題については、臨床業務以外の付帯業務が多いこと（多職種カンファレンス、サマリー記載、各種会議など）、冬場の患者増に対する対応、土曜日のリハビリ体制などシームレスなリハビリ提供体制である。そのため、さまざまなニーズに対応できるように必要に応じて増員要求をかけていく。引き続き全員一丸となって業務改善に取り組んでいく。

(2) 疾患別リハビリテーション毎実施件数

	脳血管	運動器	心大血管	呼吸器	廃用症候群	がん
PT	4,879	10,240	2,070	2,798	6,487	1,299
OT	5,316	2,648	2,022	2,813	5,918	849
ST	2,011	0	0	867	1,315	219
合計	12,206	12,888	4,092	6,478	13,720	2,367

- 最近の傾向として、心大血管や呼吸器に OT が急性期から積極的に関わりリハビリ実績を上げている。
- 内科医師の割合が多いことから、廃用症候群件数の割合が高い。
- 整形外科の手術件数が増えていることから、急性期運動器リハビリの依頼が年々多くなっている。

(3) 研究実績

- 第 77 回国病学会 演題「橋梗塞後、失調性構音障害を呈した症例に対し、呼吸調整訓練を中心に介入した一例」 山越 妃華

(4) 実習生受け入れ

国際医療福祉大学より、評価実習学生(理学療法学科)を 4 週間にわたり一名受け入れた。

看護部の理念

人に寄り添い想いに共感できる

看護部の方針

1. 業務 連携づくり・・・チーム医療・連携推進・仲間
2. 教育 人づくり・・・倫理観に支えられる患者目線に立った看護実践
3. 労務管理 職場づくり・・・ワークライフバランス 働き甲斐のある職場

看護部の目標

- 1) 医療機能および医療の質の向上
 - (1) 病院機能評価の中間評価受審にむけたチーム医療の実践
ケアプロセスの充実
 - (2) 救急医療体制の充実
救急患者受け入れ強化のための効率的な人材活用
効率的なベッドコントロール
 - (3) 安心・安全な看護実践
マニュアルに基づいた看護実践と記録

- 2) 健全な経営基盤の確立
 - (1) HCU・有料個室・重症個室の利用率向上
 - (2) 看護に関連した加算項目の適正取得
 - (3) 適正な消耗品管理・節電

- 3) 積極的な業務改善
 - (1) 業務改革による働き方改革
 - (2) 職員全員が働き甲斐のある職場環境の整備・離職防止
 - (3) 効率的な人材活用
ユニバーサル外来の推進
入退院支援センターの効率的な運用

- 4) 地域医療連携強化
 - (1) 地域施設との研修会等の継続

- 5) 教育・研修の充実
 - (1) ACTyナースに基づいた看護実践およびラダーの維持・向上
 - (2) 看護助手・クラーク・ナースアシスタントのスキルアップと活用
 - (3) 院外研修への参加推進
 - (4) 特定行為研修・認定看護師の支援・育成
 - (5) 看護研究推進

看護部会議・委員会一覧

会議名	招集者	構成員	審議内容	開催日
看護師長会議	看護部長	看護部長 副看護部長 教育主事 看護師長	1.病院の運営方針に関すること 2.指示・命令の伝達 3.看護管理の計画立案 4.看護職員の研修・教育に関すること 5.各委員会の報告 6.看護業務の改善・調整の検討 7.各部署相互間の連絡・調整	毎週火曜日 (第3除く)
副看護師長会議	看護部長	看護部長 副看護部長 副看護師長	1.看護管理の計画立案 2.看護業務の検討・改善 3.各看護単位の問題点の検討	第3水曜日
看護教育部会	副看護部長	副看護部長 看護師長 副看護師長	1.院内教育計画立案 2.教育研修の企画・運営・評価 3.看護研究に関する教育・指導支援	第1金曜日
医療情報 業務検討部会	委員長	看護師長 副看護師長 看護師	1.看護基準・手順の作成・見直し 2.マニュアル整備	第2水曜日
医療情報 記録部会	委員長	看護師長 副看護師長 看護師	1.看護記録の内容の検討 2.看護記録の監査 3.看護記録様式の検討・改善	第4月曜日
感染対策部会	委員長	看護師長 副看護師長 看護師	1.感染対策サーベイランスの実施 2.感染予防に関する啓蒙活動 3.感染予防対策の検討・評価	第1水曜日
実習指導者会議	教育主事	看護部長 教育主事 副看護部長 看護師長 教員 臨床指導者	1.看護学生の臨地実習に関する計画の検討 2.実習における問題点の検討 3.実習指導者の教育	第3木曜日

研究活動・研修参加状況（2023年度）

1. 看護部の教育実施状況

目的 看護職員が専門職としての自覚と組織の目標を理解し役割の遂行ができる

目標 看護職員の「看護の質」向上を図る

	研修名	主な研修内容	方法	時期	受講者数
ラ ダ ー レ ベ ル I	新採用者 オリエン テーション	病院の理念と概要 病院の診療機能 国立病院機構の理念と方針 政策医療 中期計画 個別指導・診療記録 各部門の概要（薬剤部・看護部・放 射線科・検査科・栄養管理室・リハ ビリテーション科・医療相談地域医 療連携室） 防災について 業績評価・コンプライアンス 就業規則・勤怠管理システム 診療報酬 感染管理 医療安全管理 健康管理 医療機器安全管理 災害	講義 Web併用	4月3日(月)	39名
ラ ダ ー レ ベ ル I	新卒看護師 初期研修	社会人としての心構え 健康管理・勤務時間について 看護部の教育制度について	講義	4月4日(火)	39名
		医療安全	講義	4月5日(水)	39名
		感染対策	講義	4月5日(水)	39名
		看護職の倫理綱領 組織の役割と適切な行動 接遇 社会人基礎力について	講義	4月6日(木)	39名

ラ ダ ー レ ベ ル I	新卒看護師 初期研修	基礎看護技術（ケア） 1) 移乗・移送・ポジショニング 2) 食事介助（配膳含） 3) 環境整備、シーツ交換 4) 清潔ケア（清拭・陰部洗浄） 5) 口腔ケア 6) 寝衣交換（麻痺のある患者、 点滴中の更衣）	講義 演習	4月7日(金)	38名
		褥瘡予防 ポジショニング オムツ交換 （皮膚排泄ケア認定看護師）	講義 演習	4月10日(月)	39名
		電子カルテ操作の説明・実践 iPodの使用方法	講義 演習	4月13日(木)	41名
		看護技術研修② バイタルサインの測定と評価 フィジカルアセスメント	講義 演習	4月13日(木)	39名
		看護技術研修③（処置） 1) 経管栄養・吸引 2) 血糖測定・皮下注射 3) 注射ミキシング 4) 導尿・女性の膀胱留置 カテーテル留置	講義 演習	4月17日(月)	39名
		看護技術研修③（処置） 5) 酸素療法・酸素ポンベの取り扱い 6) 意識レベルの評価 心電図モニター装着と管理（12 誘導含） 7) 患者誤認防止・薬剤の確認 8) 輸液ポンプ・シリンジポンプ	講義 演習	4月18日(火)	39名
		相互理解 アンガーマネジメント 上手な叱られ方	講義 グループワーク	4月21日(金)	39名
		メンタルヘルスケア	講義 グループワーク	4月28日(金)	39名

ラ ダ ー レ ベ ル I	新卒看護師 初期研修	看護記録研修 ・情報収集のポイント ・看護記録の目的 ・看護記録の記入方法 ・看護必要度について	講義 演習	4月28日(金)	39名
		看護技術研修④ 採血研修 急変時の看護（救急カート・AED）	講義 演習	5月8日(月)	39名
		集合研修：与薬 輸液管理（滴下調整・患者管理・点 滴ルートを選択） 輸液ポンプ・シリンジポンプの使い 方、管理 取り扱いに注意が必要な薬剤管理、 麻薬・向精神薬・ハイリスク薬	講義 演習	5月15日(月)	38名
		集合研修・業務の振り返り 多重業務 患者情報の取り方 医療安全（確認行為の復習）	講義 演習 グループワーク	5月24日(水)	38名
	リフレッシュ 研修	看護観を深める映画視聴 チームビルディング 部署毎にめざす看護師の表現	講義 演習 グループワーク	6月16日(金)	38名
	看護倫理	病院で働く職員の臨床倫理	講義 グループワーク	7月12日(水)	38名
	災害看護	院内の防災設備・減災設備	講義 演習	7月12日(水)	38名
	周術期看護	フィジカルアセスメント	講義 演習	9月15日(金)	37名
	看護必要度研 修	看護必要度の目的 看護必要度の評価	講義	9月15日(金)	37名
	挿管見学研修	急変時対応	e-ラーニング 講義・演習	11月～12月	36名
静脈注射研修	静脈注射の法的責任・安全管理 注意すべき薬剤について	e-ラーニング 講義・演習	11月17日(金)	36名	
看護研究	文献検索・レポートの作成方法	講義	11月17日(金)	36名	
看護観発表	「私の看護観」	e-ラーニング 講義・演習	2月16日(金)	35名	

リーダーⅡ	フィジカルアセスメント①	看護師向け身体診察（初級編）	e-ラーニング	7月3日(月)	24名
	看護倫理	倫理的課題と意思決定支援	e-ラーニング	7月3日(月)	24名
	急性期の看護	人工呼吸器について 人工呼吸器をつけた患者の看護	講義 演習	11月1日(水)	24名
	災害研修	院内災害マニュアルの理解	講義	11月1日(水)	18名
	メンバーシップ①	組織体制を理解する	講義 演習	7月18日(火)	18名
	メンバーシップ②	チームの一員として自己の役割	講義 演習	10月6日(金)	18名
	フィジカルアセスメント②	急変予測と対応	e-ラーニング	9月～	18名
リーダーⅢ	リーダーシップ研修①	リーダーシップを発揮するために必要なスキル	e-ラーニング 演習	7月21日(金)	19名
	フィジカルアセスメント	看護師向け身体診察（中級編）	e-ラーニング 演習	11月～12月	19名
	意思決定支援研修	患者家族が抱えている身体的、精神的、社会的な問題や苦痛に対して支援する	e-ラーニング 演習	10月17日(火)	19名
	リーダーシップ研修②	災害発生時、リーダーシップを発揮し対応できる	講義 演習	10月17日(火)	4名
	キャリアデザイン	今後の自分らしいキャリアをデザインすることができる 目指すキャリアに向けて自己研鑽ができる	講義 演習	11月21日(火)	4名

エル ダー メン ター	フォロー アップ研修①	悩みを共有し、自己の振り返りを行 う	講義 グループワーク	6月20日(火)	14名
	フォロー アップ研修②	自己のストレスマネジメント	講義 グループワーク	9月19日(火)	10名
	フォロー アップ研修③	指導の評価	講義 グループワーク	12月15日(金)	13名
	次年度指導 担当者研修	新人看護師受け入れの心構え	講義 グループワーク	2月19日(月)	13名
看 護 補 助 者 研 修	看護補助者 研修①	看護補助者業務の理解	講義 グループワーク	6月30日(金)	44名
	看護補助者 研修②	医療安全・感染管理	講義 グループワーク	10月5日(木)	42名
	看護補助者 研修③	急変時の対応	講義 演習	1月10日(水)	43名
	看護補助者 研修④	問題解決	講義 グループワーク	2月28日(水)	44名
	夜間派遣看護 補助者研修	医療制度と病院の機能・組織の理解	講義	11月6日 11月7日 11月9日	20名
	夜間派遣看護 補助者研修	急変時の対応	講義 演習	1月15日 1月16日	21名

2. 研究発表

1) 院内発表

2023年度 開催せず

2) 院外発表

番号	題名	筆頭者 共同演者	学会名	発表年月日
1	骨折リエソナービスチームの活動と地域共生社会に向けた今後の課題	野地 志穂	第22回日本医療マネジメント 栃木支部学術集会	2023年10月14日
2	感染対策向上加算における地域医療連携 ～宇都宮医療圏の合同カンファレンス、訓練～	丸山 沙緒里	第22回日本医療マネジメント 栃木支部学術集会	2023年10月14日
3	病棟看護師に求められる退院支援の役割 ～退院支援プレカンファレンスを通して～	野澤 千浦 佐々木一行上柊奈央子	第22回日本医療マネジメント 栃木支部学術集会	2023年10月14日
4	新型コロナウイルス患者受け入れ病棟看護師のストレス と対処方法	藤田 美樹 鈴木 美帆	第77回国立病院総合医学会	2023年10月21日
5	地域包括ケア病棟開設・運営についての取り組み ～病棟看護師長の立場から～	小野瀬 仁美	第77回国立病院総合医学会	2023年10月20日
6	病棟看護師長に求められる病床管理 ～コロナ禍におけるベッドコントロールを経験して～	上柊 奈央子 渡辺 恵美子	第77回国立病院総合医学会	2023年10月20日
7	身体拘束低減に向けた取り組み ～当院における行動心理症状に対するケアマニュアルの 有用性の検討～	村上 真知子 菅野妃穂子佐藤亨子	第77回国立病院総合医学会	2023年10月20日

3. 雑誌投稿

番号	題名	筆頭著者	雑誌名	発表年月日
1	地域包括ケアと感染対策栃木医療センターの地域で取り 組む感染対策⑩ ～宇都宮医療圏（宇都宮市）で取り組む合同カンファレ ンスの体制作り～	丸山 沙緒里	丸石感染対策NEWS	

4. 研修参加状況

1) 院内参加状況

研修会名	主催	研修期間	参加人員
「インスリンについて」「診療放射線安全利用」「MRと放射線防護」	医療安全管理研修会	6・7月 Web開催	571名
「検体の正しい取り扱い」「車いすの移乗」「患者確認と指差し呼称」	医療安全管理研修会	11・12月 Web開催	537名
「心電図のテクニカルアラーム低減にむけて」	医療安全管理研修会	3月	19名
「抗菌薬使用の指標とその動向」「標準予防策について」	院内感染対策研修会	7月 Web開催	579名
「耐性菌対策と抗菌薬適正使用について」「新興・再興感染症への対応」	院内感染対策研修会	12月 Web開催	526名
「DESIGN-Rをつけて傷の訴えを聴こう」	褥瘡対策委員会	7月 資料配信	262名
「本人の望む場所に退院するための支援—せん妄・認知機能の低下を防ぐための方法—」	せん妄・認知症ケア研修会	3月 資料配信	
BLS研修	心肺蘇生チーム	5月～3月 13回	200名
2023年度「骨粗しょう症の予防と骨折リハビリサービスの取り組み」	骨粗鬆症リハビリサービsteam	3月	294名

2) 院外参加状況

(1) 国立病院機構・国立高度専門医療研究センター・国立看護大学校関係

研修会名	主催	研修期間	参加人員
副看護師長新任研修1回目	関東信越グループ	6月8・9日	2
評価者研修	関東信越グループ	7月 e-ラーニング	2
病院経営研修	国立病院機構本部	7月3日～9月29日 e-ラーニング	1
労務管理（窓口担当者）研修	関東信越グループ	7月10日	1
個人情報保護研修	関東信越グループ	1月22日～2月29日 e-ラーニング	1
看護師等実習指導者講習会	関東信越グループ	7月6日～9月19日 Web・e-ラーニング	2
中間管理職新任研修	関東信越グループ	6月28日～7月12日 e-ラーニング	1
入退院支援に関する実践能力向上研修	関東信越グループ	9月12日～9月26日 e-ラーニング e-ラーニング後2か月以内の実習 12月19日集合研修	1
医療安全対策研修Ⅰ	関東信越グループ	8月21日～9月21日 e-ラーニング 10月10日	1
看護職員インターンシップ研修	関東信越グループ	11月16日	1
メンタルヘルス・ハラスメント研修	関東信越グループ	11月27日	1
認知症ケア研修	関東信越グループ	1月9日～1月23日 e-ラーニング 2月6日	3
院内感染対策研修	関東信越グループ	1月22日 Webex	1
副看護師長新任研修2回目	関東信越グループ	12月7・8日	1
看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	関東信越グループ	①6月6日～6月20日・7月13日 ②10月3日～10月17日・11月9日 ③1月16日～1月30日・2月22日 e-ラーニング・Web	6

(2) 日本看護協会関係

研修会名	主催	研修期間	参加人員
栃木県実習指導者講習会	栃木県看護協会	5/18～8/28	4
認定看護管理者教育課程（ファーストレベル）	栃木県看護協会	9/23～12/8	1
災害支援ナース養成研修	栃木県看護協会	オンデマンド研修4日間 2月6日・7日	2

(3) その他

研修会名	主催	研修期間	参加人員
がんリハビリテーション研修	一般財団法人 ライフ・プランニング・センター	7月3日～9月2日 e-ラーニング 9月9日	1
栃木県院内移植コーディネーター研修会	公益社団法人 栃木県臓器移植推進会	12月1日	1
第14回栃木ストーリーリハビリテーション講習会	栃木ストーリーリハビリ テーション講習会	8月1日～8月31日 e-ラーニング 11月7日	3

看護学生・研修生受け入れ状況

1. 実習受け入れ状況

国立病院機構 栃木センター 附属看護学校	1学年	35名	基礎看護実習Ⅰ
	2学年	41名	基礎看護実習Ⅱ
			成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ
			老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ
			小児看護学実習
	3学年	42名	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
老年看護学実習Ⅱ			
小児看護学実習			
	統合実習		
学校法人衛生学園 東京衛生学園専門学校	看護学科通信課程	1名	基礎看護学
聖徳大学	通信教育部 社会福祉学科	1名	看護（臨床）実習

2. その他研修受け入れ状況

- 1) 認定看護師教育課程（感染管理） 臨地実習（獨協医科大学地域共創看護教育センター）
2023年10月2日～10月30日 2名
- 2) ふれあい看護体験
2023年7月28日 13名
- 3) 社会体験学習「宮っこチャレンジ」
2023年11月6日～7日 1名 宇都宮市立城山中学校
2023年11月16日～17日 2名 宇都宮大学共同教育学部附属中学校
- 4) インターンシップ・病院説明会
2023年7月29日 5名
2023年8月19日 2名
2024年3月16日 9名

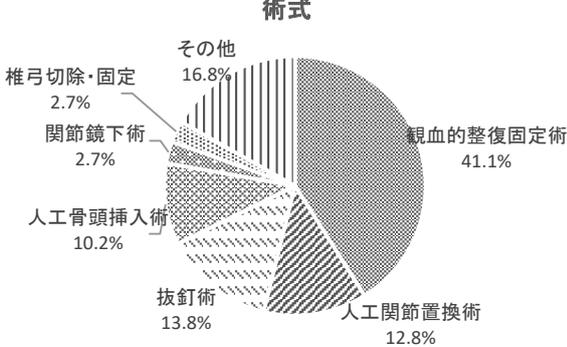
3. 救命隊員病院実習

2024年1月29日～2月6日 20名

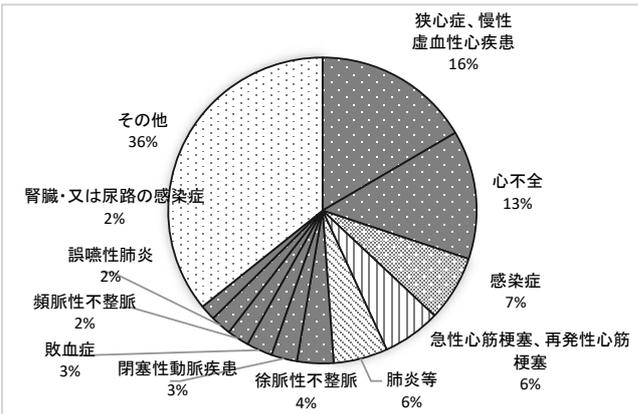
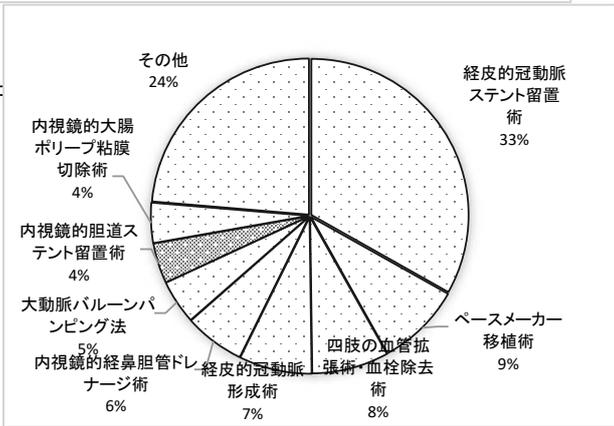
4. 海外研修受け入れ状況

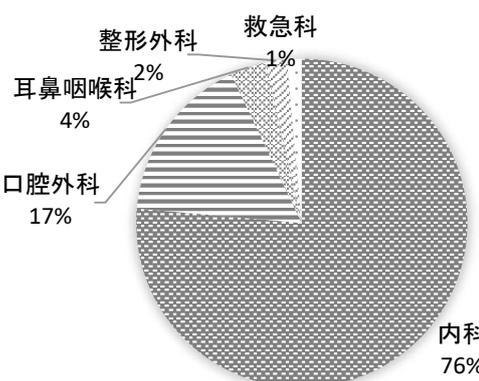
該当なし

看護単位概要

看護単位	看護の概要
1階病棟 整形外科 運用病床数 52床 看護職員 看護師長 1名 副看護師長 1名 看護師 23名 准看護師 1名 業務技術員 2名 病棟クラーク 1名	1 疾患・治療の特徴 1) 主な疾患 整形 793名 (93.9%) 骨折 588名 (74.1%) 変形性疾患 81名 (10.2%) 脊椎疾患 72名 (9.0%) その他整形疾患 58名 (7.3%) 内科 21名 (2.4%) 救急科 18名 (2.1%) その他他科疾患 12名 (1.4%) 2) 主な治療 手術療法 牽引療法 理学療法 3) 主な手術 総手術件数 964件 観血的整復固定術 396件 (41.1%) 人工関節置換術 123件 (12.8%) 抜釘術 133件 (13.8%) 人工骨頭挿入術 98件 (10.2%) 関節鏡下術 26件 (2.7%) 椎弓切除・固定術 26件 (2.7%) その他 162件 (16.8%)  4) 主な検査 脊髓造影 2 患者の動向 1) 新入院患者数 911人 2) 平均在院患者数 39.5人 3) 平均在院日数 16.5日 4) 平均病床利用率 76.0% 5) 平均患者年齢 69.1歳 3 看護の特徴 1) 看護方式：固定チームナーシング 2) 看護の特徴 ・整形外科の単科病棟である。 ・交通外傷や高齢者の転倒などによる受傷が多い。 ・早期離床と術後合併症の予防を重要視し、リハビリ科と連携した看護を行っている。 ・地域連携室、MSWとの情報共有とカンファレンスを行い、入院時から退院調整を行っている。 3) 主なケア ・患者のセルフケア能力が自立できるような援助 ・退院に向けた環境調整と退院調整 ・残存機能が活用できるような生活指導 ・患者教育：リハビリテーション方法の指導

看護単位	看護の概要																												
<p>2階病棟</p> <p>脳神経外科 救急科 外科 泌尿器科</p> <p>運用病床数 50床 病棟 46床 HCU 4床</p> <p>看護職員</p> <p>看護師長 1名 副看護師長 2名 看護師 27名 業務技術員 1名 病棟クラーク 1名 ナースアシスタント1名</p>	<p>1.疾患・治療の特徴</p> <p>1)主な疾患 [病名 %](上位3位まで)</p> <table border="0"> <tr> <td>(1)脳神経外科 336名[44.3%]</td> <td>(3)救急科 18名[2.3%]</td> </tr> <tr> <td>①脳梗塞 92名[27.4%]</td> <td>①てんかん 2名[11.1%]</td> </tr> <tr> <td>②脳出血 90名[26.8%]</td> <td>②肺炎 2名[11.1%]</td> </tr> <tr> <td>③脳動脈瘤 29名[8.6%]</td> <td>③肝硬変 11名[5.6%]</td> </tr> <tr> <td>(2)内科 202名[26.1%]</td> <td>(4)外科 18名[2.3%]</td> </tr> <tr> <td>①脳梗塞 23名[11.4%]</td> <td>(5)泌尿器科 105名[13.6%]</td> </tr> <tr> <td>②憩室性疾患 14名[6.9%]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③心不全 13名[6.4%]</td> <td></td> </tr> </table> <p>2)主な治療</p> <p>手術療法、血管内治療、放射線治療、化学療法、内視鏡下検査・手術</p> <p>(1)年間手術件数 360件</p> <p>①脳神経外科 218件[60.5%] ②内科 70件[19.4%] ③外科 16件[4.4%] ④泌尿器科 15件[4.1%] ⑤その他 41件[11.3%]</p>	(1)脳神経外科 336名[44.3%]	(3)救急科 18名[2.3%]	①脳梗塞 92名[27.4%]	①てんかん 2名[11.1%]	②脳出血 90名[26.8%]	②肺炎 2名[11.1%]	③脳動脈瘤 29名[8.6%]	③肝硬変 11名[5.6%]	(2)内科 202名[26.1%]	(4)外科 18名[2.3%]	①脳梗塞 23名[11.4%]	(5)泌尿器科 105名[13.6%]	②憩室性疾患 14名[6.9%]		③心不全 13名[6.4%]													
(1)脳神経外科 336名[44.3%]	(3)救急科 18名[2.3%]																												
①脳梗塞 92名[27.4%]	①てんかん 2名[11.1%]																												
②脳出血 90名[26.8%]	②肺炎 2名[11.1%]																												
③脳動脈瘤 29名[8.6%]	③肝硬変 11名[5.6%]																												
(2)内科 202名[26.1%]	(4)外科 18名[2.3%]																												
①脳梗塞 23名[11.4%]	(5)泌尿器科 105名[13.6%]																												
②憩室性疾患 14名[6.9%]																													
③心不全 13名[6.4%]																													
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="502 884 949 1220"> <p style="text-align: center;">診療科割合</p> <table border="1"> <caption>診療科割合</caption> <tr><th>診療科</th><th>割合</th></tr> <tr><td>脳神経外科</td><td>43%</td></tr> <tr><td>内科</td><td>26%</td></tr> <tr><td>脳神経外科</td><td>14%</td></tr> <tr><td>救急科</td><td>12%</td></tr> <tr><td>泌尿器科</td><td>3%</td></tr> <tr><td>外科</td><td>2%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>12%</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="981 884 1380 1220"> <p style="text-align: center;">手術件数</p> <table border="1"> <caption>手術件数</caption> <tr><th>診療科</th><th>割合</th></tr> <tr><td>脳神経外科</td><td>60.5%</td></tr> <tr><td>内科</td><td>19.4%</td></tr> <tr><td>外科</td><td>4.4%</td></tr> <tr><td>泌尿器科</td><td>4.1%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>11.3%</td></tr> </table> </div> </div>	診療科	割合	脳神経外科	43%	内科	26%	脳神経外科	14%	救急科	12%	泌尿器科	3%	外科	2%	その他	12%	診療科	割合	脳神経外科	60.5%	内科	19.4%	外科	4.4%	泌尿器科	4.1%	その他	11.3%
診療科	割合																												
脳神経外科	43%																												
内科	26%																												
脳神経外科	14%																												
救急科	12%																												
泌尿器科	3%																												
外科	2%																												
その他	12%																												
診療科	割合																												
脳神経外科	60.5%																												
内科	19.4%																												
外科	4.4%																												
泌尿器科	4.1%																												
その他	11.3%																												
	<p>2. 患者の動向</p> <p>1)新入院患者数 774人 2)一日平均患者数 37,2人</p> <p>3)平均在院日数 18,4日</p> <p>4)平均病床利用率 74,4% (平均HCU利用率 72,6%)</p> <p>3.看護の特徴</p> <p>1)看護提供体制 固定チームナーシング+プライマリー制</p> <p>2)看護の特徴</p> <p>①HCUでは特に脳神経外科・外科の急性期・重症患者・術後患者を受け入れている。特に脳卒中の急性期や肝切除の術後管理など急性期看護とともに特徴を捉えた看護が必要である。</p> <p>②がん患者の看護では、抗がん剤治療に伴う副作用への看護、疼痛コントロールなど、多岐にわたり継続的に看護している。</p> <p>③脳神経疾患患者については、血管造影患者の検査・治療の介助や看護を行っている。また、脳卒中連携パスを使用し、嚥下チーム・リハビリ・MSW・退院調整看護師等の多職種とかかわりながら、入院時より退院支援の介入を行っている。</p> <p>④泌尿器科の前立腺針生検入院では、病棟で生検の介助を行っている。</p>																												

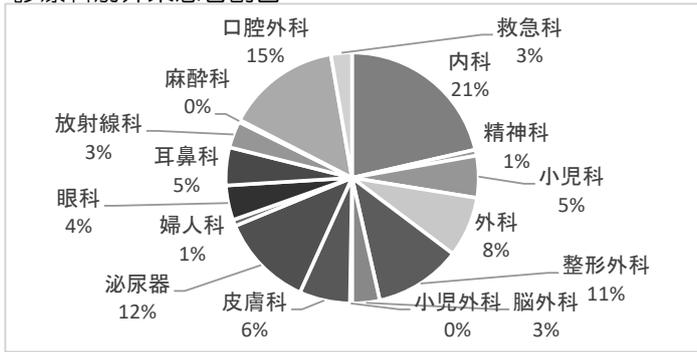
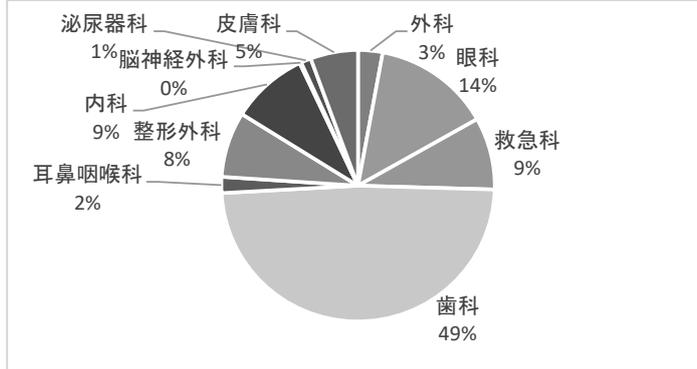
看護単位	看護の概要
<p>3階病棟 循環器内科、総合内科 感染症</p> <p>運用病床数 48床 一般床 38床 HCU 4床 感染症個室 6床</p> <p>看護職員 看護師長 1名 副看護師長 2名 看護師 28名 業務技術員 2名 ナースアシスタント 1名</p>	<p>1.疾患・治療の特徴</p> <p>1)主な疾患</p>  <p>2)主な治療 総数：241件</p>  <p>3) 主な検査 上部・下部内視鏡検査、心臓・腹部超音波など</p> <p>2. 患者の動向</p> <p>1)新入院患者数 867人 2)一日平均患者数 36.1人 3)平均在院日数 16.1日 4)平均年齢 77.4歳 5)平均病床利用率 75.2%</p> <p>3.看護の特徴</p> <p>1)看護提供体制 固定チームナーシング</p> <p>2)看護の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HCU4床を有し、内科の重症患者の受け入れを行っている。 ・主な疾患は、感染症、虚血性心疾患、心不全、消化器疾患などである。 ・毎週火・木曜日に心臓カテーテル検査があり、検査前・中・後の看護を行っている。 ・栃木県より指定を受け、感染症個室6床を有し、2種感染症収容の使命を持っている。令和3年度からはCOVID-19患者も受け入れており、ICTと連携しながら、2次感染を防ぎ、患者の心理面に配慮した看護を提供している。 ・毎週金曜日に医師・看護師・MSW・地域連携室看護師・薬剤師・リハビリなど多職種によるカンファレンスを行い、患者に合わせた退院調整やよりよい医療・看護の提供ができるように日々努力している。 <p>3) 主なケア 急性期ケア、退院支援、感染症への対応</p>

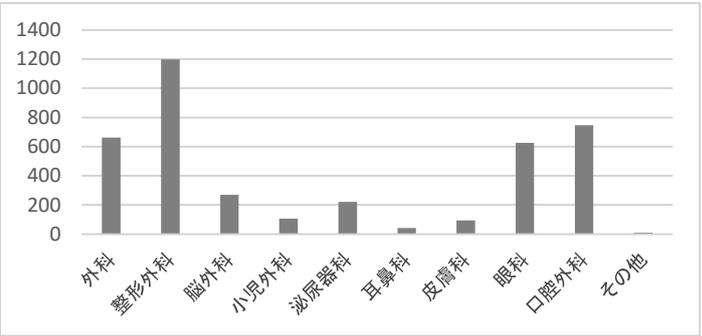
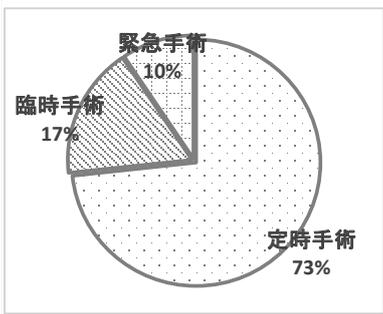
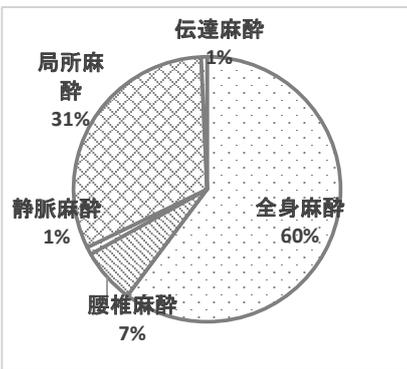
看護単位	看護の概要																																												
<p>4階病棟 地域包括ケア病棟</p> <p>運用病床数 52床</p> <p>看護職員</p> <table border="0"> <tr><td>看護師長</td><td>1名</td></tr> <tr><td>副看護師長</td><td>1名</td></tr> <tr><td>看護師</td><td>23名</td></tr> <tr><td>准看護師</td><td>1名</td></tr> <tr><td>業務技術員</td><td>2名</td></tr> <tr><td>病棟クレーン</td><td>1名</td></tr> <tr><td>ナースアシスタント</td><td>1名</td></tr> </table>	看護師長	1名	副看護師長	1名	看護師	23名	准看護師	1名	業務技術員	2名	病棟クレーン	1名	ナースアシスタント	1名	<p>1 疾患・治療の特徴</p> <p>1) 主な疾患（診療科別）</p>  <table border="0"> <tr><td>救急科</td><td>1%</td></tr> <tr><td>整形外科</td><td>2%</td></tr> <tr><td>耳鼻咽喉科</td><td>4%</td></tr> <tr><td>口腔外科</td><td>17%</td></tr> <tr><td>内科</td><td>76%</td></tr> </table> <p>2) 主な検査・治療 MRI、CT、エコー、終夜睡眠ポリグラフィー 内視鏡的胃、十二指腸、大腸ポリープ・粘膜切除術 抜歯関連</p> <p>3) 地域包括ケア病棟 施設基準</p> <table border="0"> <tr><td>在宅からの入院割合</td><td>47.3%</td></tr> <tr><td>在宅復帰率</td><td>82.0%</td></tr> <tr><td>認知症等の患者割合</td><td>51.0%</td></tr> <tr><td>看護必要度割合</td><td>16.5%</td></tr> <tr><td>リハビリテーション単位</td><td>2.45</td></tr> </table> <p>2 患者の動向</p> <table border="0"> <tr><td>1) 新入院患者数</td><td>464人</td></tr> <tr><td>2) 平均在院患者数</td><td>41.4人</td></tr> <tr><td>3) 平均在院日数</td><td>21.1日</td></tr> <tr><td>4) 平均病床利用率</td><td>79.6%</td></tr> <tr><td>5) 平均患者年齢</td><td>73.2歳</td></tr> </table> <p>3 看護の特徴</p> <p>1) 看護方式：固定チームナーシング継続受け持ち制</p> <p>2) 看護の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケア病棟として急性期治療後の患者や退院支援が必要な患者を受け入れている。 ・ 在宅医療を受けている患者のレスパイト入院の受け入れを行い、地域医療連携室を通して外部との調整を図っている。 ・ 在宅からの入院は、内視鏡治療患者や口腔外科の抜歯目的の患者を主に受け入れている。 <p>3) 主なケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅退院に向けた患者家族指導 ・ 地域と連携し、患者に合わせた退院支援 	救急科	1%	整形外科	2%	耳鼻咽喉科	4%	口腔外科	17%	内科	76%	在宅からの入院割合	47.3%	在宅復帰率	82.0%	認知症等の患者割合	51.0%	看護必要度割合	16.5%	リハビリテーション単位	2.45	1) 新入院患者数	464人	2) 平均在院患者数	41.4人	3) 平均在院日数	21.1日	4) 平均病床利用率	79.6%	5) 平均患者年齢	73.2歳
看護師長	1名																																												
副看護師長	1名																																												
看護師	23名																																												
准看護師	1名																																												
業務技術員	2名																																												
病棟クレーン	1名																																												
ナースアシスタント	1名																																												
救急科	1%																																												
整形外科	2%																																												
耳鼻咽喉科	4%																																												
口腔外科	17%																																												
内科	76%																																												
在宅からの入院割合	47.3%																																												
在宅復帰率	82.0%																																												
認知症等の患者割合	51.0%																																												
看護必要度割合	16.5%																																												
リハビリテーション単位	2.45																																												
1) 新入院患者数	464人																																												
2) 平均在院患者数	41.4人																																												
3) 平均在院日数	21.1日																																												
4) 平均病床利用率	79.6%																																												
5) 平均患者年齢	73.2歳																																												

看護単位	看護の概要																						
<p>5 階病棟 外科・耳鼻科 内科</p> <p>運用病床数 50 床 一般 46 床 HCU 4 床</p> <p>看護職員 看護師長 1 名 副看護師長 2 名 看護師 28 名 業務技術員 3 名 ナースアシスタント 1 名</p>	<p>1 疾患・治療の特徴</p> <p>1) 主な疾患 外科 耳鼻科 内科</p> <p>診療科</p> <table border="1"> <tr><th>診療科</th><th>割合</th></tr> <tr><td>外科</td><td>79%</td></tr> <tr><td>内科</td><td>16%</td></tr> <tr><td>耳鼻科</td><td>2%</td></tr> <tr><td>脳外科</td><td>1%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>2%</td></tr> </table> <p>2) 主な治療 手術療法 内視鏡治療 抗がん剤治療 放射線治療</p> <p>3) 主な手術 手術総件数 693件 外科 胆のう摘出 114件 大腸・直腸手術 78件 兪径ヘルニア 95件 乳房切除 70件</p> <p>4) 主な検査 ERCP EMR ESD PSG</p> <p>2 患者の動向</p> <table border="1"> <tr><td>1) 新入院患者数</td><td>1173 人</td></tr> <tr><td>2) 平均在院患者数</td><td>39.4 人</td></tr> <tr><td>3) 平均在院日数</td><td>12.6 日</td></tr> <tr><td>4) 平均病床利用率</td><td>78.8 %</td></tr> <tr><td>5) 平均患者年齢</td><td>71.1 歳</td></tr> </table> <p>3 看護の特徴</p> <p>1) 看護方式：固定チームナーシング パートナーシップナーシング</p> <p>2) 看護の特徴 急性期ケア、周術期ケア がん化学療法ケアを中心としている。 HCUを有しており全診療科の重症患者やハイリスク手術直後のケアを行っている。</p> <p>3) 主なケア 周術期ケア 急性期ケア がん化学療法看護 緩和ケア ストマケア</p>	診療科	割合	外科	79%	内科	16%	耳鼻科	2%	脳外科	1%	その他	2%	1) 新入院患者数	1173 人	2) 平均在院患者数	39.4 人	3) 平均在院日数	12.6 日	4) 平均病床利用率	78.8 %	5) 平均患者年齢	71.1 歳
診療科	割合																						
外科	79%																						
内科	16%																						
耳鼻科	2%																						
脳外科	1%																						
その他	2%																						
1) 新入院患者数	1173 人																						
2) 平均在院患者数	39.4 人																						
3) 平均在院日数	12.6 日																						
4) 平均病床利用率	78.8 %																						
5) 平均患者年齢	71.1 歳																						

看護単位	看護の概要																										
<p>6階病棟 歯科口腔外科 泌尿器科・眼科 皮膚科・脳神経外科</p> <p>運用病床数 52床</p> <p>看護職員 看護師長 1名 副看護師長 2名 看護師 26名 業務技術員 2名 病棟クラーク 1名 ナースアシスタント1名</p>	<p>1. 疾患・治療の特徴</p> <p>1) 主な疾患</p> <p>(1) 歯科口腔外科 (444名) 埋伏歯 (194名 43.7%) 歯周炎 (38名 8.5%) のう胞 (58名 13.0%) 口腔・歯肉・舌癌 (27名 6.0%) 蜂窩織炎 (22名 5.0%) 顎変形症 (16名 3.6%) その他 (127名 28.6%)</p> <p>(2) 泌尿器科 (334名) 結石症 (119名 35.6%) 膀胱癌 (71名 21.3%) 腎盂腎炎 (21名 6.3%) 前立腺癌 (15名 4.5%) その他 (108名 32.3%)</p> <p>(3) 眼科 (73名) 白内障 (47名 64.4%) 緑内障 (9名 12.3%) 硝子体 (7名 9.6%) 黄斑・後極変性 (6名 8.2%) その他 (4名 3.9%)</p> <p>(4) 皮膚科 (43名) 脱毛症 (8名 18.6%) 帯状疱疹 (4名 9.3%) 悪性腫瘍 (4名 9.3%) 膿皮症 (7名 16.3%) 褥瘡潰瘍 (5名 11.6%) その他 (15名 14.7%)</p> <p>(5) 脳神経外科 (8名) 硬膜下血腫 (4名 50.0%) 脳梗塞 (3名 37.5%) 頭蓋・頭蓋内損傷 (1名 12.5%)</p> <p>(6) その他 内科・耳鼻咽喉科・整形外科・外科等 (423名)</p> <p>2) 主な治療 手術・化学療法・放射線療法・薬物療法・理学療法 年間手術件数：1348件</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="469 1003 916 1368"> <p>診療科別入院患者数内訳</p> <table border="1"> <caption>診療科別入院患者数内訳</caption> <tr><th>診療科</th><th>割合</th></tr> <tr><td>口腔外科</td><td>33.5%</td></tr> <tr><td>泌尿器科</td><td>25.2%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>31.9%</td></tr> <tr><td>脳神経外科</td><td>0.6%</td></tr> <tr><td>皮膚科</td><td>3.2%</td></tr> <tr><td>眼科</td><td>5.5%</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="948 1003 1378 1368"> <p>診療科別手術件数内訳</p> <table border="1"> <caption>診療科別手術件数内訳</caption> <tr><th>診療科</th><th>割合</th></tr> <tr><td>口腔外科</td><td>66%</td></tr> <tr><td>泌尿器科</td><td>19%</td></tr> <tr><td>眼科</td><td>9%</td></tr> <tr><td>皮膚科</td><td>0.8%</td></tr> <tr><td>脳外</td><td>0.6%</td></tr> </table> </div> </div> <p>2. 患者の動向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新入院患者数 1325人 2) 一日平均患者数 39.4人 3) 平均在院日数 10.0日 4) 平均病床利用率 67.1% 5) 平均患者年齢 63.3歳 <p>3. 看護の特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護方式 固定チームナーシング 2) 看護の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予定の短期入院、手術が多いため、クリティカルパスを活用している。 ・ 歯科、口腔外科の癌患者は手術や化学療法、放射線療法により顔の変貌や口腔内のトラブルなどによる身体的・精神的問題をもつことが多いため、口腔ケア・摂食嚥下、緩和チームとも連携し積極的援助を行っている。 ・ 術後患者においては早期にリハビリテーションを行っている。 ・ 入院時より、早期退院に向けた関わりを地域連携室と協力して行っている。病棟の退院支援体制は看護師同士でペアを作り情報を共有して関わることで退院、転院等がスムーズに行われるように体制を作っている。 	診療科	割合	口腔外科	33.5%	泌尿器科	25.2%	その他	31.9%	脳神経外科	0.6%	皮膚科	3.2%	眼科	5.5%	診療科	割合	口腔外科	66%	泌尿器科	19%	眼科	9%	皮膚科	0.8%	脳外	0.6%
診療科	割合																										
口腔外科	33.5%																										
泌尿器科	25.2%																										
その他	31.9%																										
脳神経外科	0.6%																										
皮膚科	3.2%																										
眼科	5.5%																										
診療科	割合																										
口腔外科	66%																										
泌尿器科	19%																										
眼科	9%																										
皮膚科	0.8%																										
脳外	0.6%																										

看護単位	看護の概要																																
<p>7階病棟 小児・内科混合病棟</p> <p>運用病床数 46床</p> <p>看護職員 看護師長 1名 副看護師長 2名 看護師 24名 業務技術員 2名 病棟クレーク 1名 ナースアシスタント 1名</p>	<p>1 疾患・治療の特徴</p> <p>1) 主な疾患</p> <div data-bbox="555 241 922 584"> <p>科別入院患者内訳 n=1769</p> <table border="1"> <tr><th>科</th><th>割合</th></tr> <tr><td>小児科</td><td>47%</td></tr> <tr><td>内科</td><td>26%</td></tr> <tr><td>口腔外科</td><td>11%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>10%</td></tr> <tr><td>児外</td><td>6%</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="555 595 922 938"> <p>小児科疾患内訳 n=832</p> <table border="1"> <tr><th>疾患</th><th>割合</th></tr> <tr><td>食物アレルギー</td><td>48%</td></tr> <tr><td>感染症</td><td>23%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>23%</td></tr> <tr><td>胃腸炎</td><td>6%</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="922 595 1276 938"> <p>小児外科疾患内訳 n=109</p> <table border="1"> <tr><th>疾患</th><th>割合</th></tr> <tr><td>泌尿器疾患</td><td>52%</td></tr> <tr><td>鼠径ヘルニア</td><td>41%</td></tr> <tr><td>停留精巣</td><td>10%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>6%</td></tr> </table> </div> <p>2) 主な治療 食物アレルギー負荷試験 405件 手術・内視鏡的胆道ステント留置術・内視鏡的消化管止血術・輸血</p> <p>3) 主な手術 小児外科、小児泌尿器科、歯科、整形外科</p> <p>4) 主な検査 食物アレルギー負荷試験・脳波・超音波（心・腹）・MRI 胃十二指腸、大腸内視鏡検査</p> <p>2 患者の動向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新入院患者数 1769人 2) 平均在院患者数 27.6人 3) 平均在院日数 5.9日 4) 平均病床稼働率 69.8% 5) 平均患者年齢 平均年齢 29.8歳 <p>3 看護の特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護方式：固定チームナーシング 2) 看護の特徴 <ul style="list-style-type: none"> 【小児病棟】 急性期感染性疾患の緊急入院の受け入れ 感染症患者への感染防御の知識と技術、家族指導の役割を担う 定期的に食物アレルギー負荷試験入院を受け入れ、教育・指導とともに、地域から依頼を受け保育園や学校で講演、指導を行う 小児外科・小児泌尿器科の周手術期看護 【成人内科混合病棟】 個々の疾患に対しての検査および治療の介助を行う 自宅に近い環境を取り入れ患者が安心して療養できるよう援助する 患者、家族の意向に寄り添った援助や退院支援をする 3) 主なケア 小児看護：アレルギー負荷試験と患者指導 急性期感染性疾患 周手術期の看護 成人看護：複数診療科を受け入れ高齢者へ安全な看護実践 清潔援助 排泄援助 食事介助などの生活援助 	科	割合	小児科	47%	内科	26%	口腔外科	11%	その他	10%	児外	6%	疾患	割合	食物アレルギー	48%	感染症	23%	その他	23%	胃腸炎	6%	疾患	割合	泌尿器疾患	52%	鼠径ヘルニア	41%	停留精巣	10%	その他	6%
科	割合																																
小児科	47%																																
内科	26%																																
口腔外科	11%																																
その他	10%																																
児外	6%																																
疾患	割合																																
食物アレルギー	48%																																
感染症	23%																																
その他	23%																																
胃腸炎	6%																																
疾患	割合																																
泌尿器疾患	52%																																
鼠径ヘルニア	41%																																
停留精巣	10%																																
その他	6%																																

看護単位	看護の概要																																																																				
<p>外来</p> <p>看護職員</p> <p>看護師長 1名</p> <p>副看護師長 2名</p> <p>看護師 36名</p> <p>業務技術員 2名</p> <p>外来クラーク 12名</p>	<p>1.疾患・治療の特徴</p> <p>1 主な疾患</p> <p>診療科別外来患者割合</p>  <table border="1"> <caption>診療科別外来患者割合</caption> <tr><th>診療科</th><th>割合</th></tr> <tr><td>救急科</td><td>3%</td></tr> <tr><td>内科</td><td>21%</td></tr> <tr><td>精神科</td><td>1%</td></tr> <tr><td>小児科</td><td>5%</td></tr> <tr><td>外科</td><td>8%</td></tr> <tr><td>整形外科</td><td>11%</td></tr> <tr><td>脳外科</td><td>3%</td></tr> <tr><td>小児外科</td><td>0%</td></tr> <tr><td>皮膚科</td><td>6%</td></tr> <tr><td>泌尿器科</td><td>12%</td></tr> <tr><td>婦人科</td><td>1%</td></tr> <tr><td>眼科</td><td>4%</td></tr> <tr><td>耳鼻科</td><td>5%</td></tr> <tr><td>放射線科</td><td>3%</td></tr> <tr><td>麻酔科</td><td>0%</td></tr> <tr><td>口腔外科</td><td>15%</td></tr> </table> <p>診療科別外来手術割合（月平均）</p>  <table border="1"> <caption>診療科別外来手術割合（月平均）</caption> <tr><th>診療科</th><th>割合</th></tr> <tr><td>救急科</td><td>9%</td></tr> <tr><td>眼科</td><td>14%</td></tr> <tr><td>外科</td><td>3%</td></tr> <tr><td>脳神経外科</td><td>5%</td></tr> <tr><td>皮膚科</td><td>5%</td></tr> <tr><td>歯科</td><td>49%</td></tr> <tr><td>耳鼻咽喉科</td><td>2%</td></tr> <tr><td>整形外科</td><td>8%</td></tr> <tr><td>内科</td><td>9%</td></tr> <tr><td>泌尿器科</td><td>1%</td></tr> <tr><td>脳神経外科</td><td>0%</td></tr> </table> <p>2 患者の動向</p> <table border="1"> <tr><td>1) 平均来院患者数</td><td>465.0人/日</td></tr> <tr><td>2) 救急搬送患者数</td><td>4,480人/年</td></tr> <tr><td>3) 1日平均救急搬送患者数</td><td>12.2人/日</td></tr> <tr><td>4) 救急患者数</td><td>8,171人/年</td></tr> <tr><td>5) 1日平均救急患者数</td><td>22.3人/日</td></tr> </table> <p>3 看護の特徴</p> <p>1) 看護の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援病院からの紹介患者や救急搬送患者を積極的に受け入れるため、救急体制を整えている。 ・内視鏡センターでは、内視鏡技師資格を有した看護師3名を配置し、安全できめ細やかな看護を実践している。 ・発熱や呼吸器症状等のある患者の対応を有症者外来で行い、院内の感染防止に努めている。 ・WOC外来・アピアランス外来等、認定看護師が専門性を活かした外来を行っている。 ・安全に考慮し、各外来の環境整備を行っている。 ・入院、検査などのICに対する患者の理解度や不安などを記録に残し情報共有し対応している。 ・病気療養している患者に寄り添い、精神面のサポートも心掛けた丁寧な対応を行っている。 ・在宅療養支援が必要な場合、患者・家族や院外関係者から情報収集し、地域医療連携室の看護師やMSWに相談している。 ・地域医療連携室と連携を図り、開業医からの紹介患者を積極的に受け入れ、病診連携を推進している。 	診療科	割合	救急科	3%	内科	21%	精神科	1%	小児科	5%	外科	8%	整形外科	11%	脳外科	3%	小児外科	0%	皮膚科	6%	泌尿器科	12%	婦人科	1%	眼科	4%	耳鼻科	5%	放射線科	3%	麻酔科	0%	口腔外科	15%	診療科	割合	救急科	9%	眼科	14%	外科	3%	脳神経外科	5%	皮膚科	5%	歯科	49%	耳鼻咽喉科	2%	整形外科	8%	内科	9%	泌尿器科	1%	脳神経外科	0%	1) 平均来院患者数	465.0人/日	2) 救急搬送患者数	4,480人/年	3) 1日平均救急搬送患者数	12.2人/日	4) 救急患者数	8,171人/年	5) 1日平均救急患者数	22.3人/日
診療科	割合																																																																				
救急科	3%																																																																				
内科	21%																																																																				
精神科	1%																																																																				
小児科	5%																																																																				
外科	8%																																																																				
整形外科	11%																																																																				
脳外科	3%																																																																				
小児外科	0%																																																																				
皮膚科	6%																																																																				
泌尿器科	12%																																																																				
婦人科	1%																																																																				
眼科	4%																																																																				
耳鼻科	5%																																																																				
放射線科	3%																																																																				
麻酔科	0%																																																																				
口腔外科	15%																																																																				
診療科	割合																																																																				
救急科	9%																																																																				
眼科	14%																																																																				
外科	3%																																																																				
脳神経外科	5%																																																																				
皮膚科	5%																																																																				
歯科	49%																																																																				
耳鼻咽喉科	2%																																																																				
整形外科	8%																																																																				
内科	9%																																																																				
泌尿器科	1%																																																																				
脳神経外科	0%																																																																				
1) 平均来院患者数	465.0人/日																																																																				
2) 救急搬送患者数	4,480人/年																																																																				
3) 1日平均救急搬送患者数	12.2人/日																																																																				
4) 救急患者数	8,171人/年																																																																				
5) 1日平均救急患者数	22.3人/日																																																																				

看護単位	看護の概要
<p>手術室</p> <p>手術室数 7室 (BCR1室)</p> <p>看護職員 看護師長 1名 副看護師長 1名 看護師 19名 准看護師 1名 クラーク 1名</p>	<p>1 疾患・治療の特徴</p> <p>1) 診療科別手術件数</p>  <p>2) 予定手術・臨時手術割合</p>  <p>3) 麻酔方法割合</p>  <p>2 患者の動向</p> <p>年間総手術件数 3974件 入院手術 3061件 外来手術 807件</p> <p>3 看護の特徴</p> <p>1) 周手術期を通じた看護の実践</p> <ol style="list-style-type: none"> ①患者の安全を最優先とし、手術が円滑に進むよう役割を担う。 ②術前訪問を行い、患者が安心して手術に臨めるように主に精神面での準備状況を確認できるよう支援している。術後訪問では手術室の環境や医療者の対応等、手術室における看護の評価を行い、看護に活かしている。 ③医師・看護師をはじめ、多職種と術前カンファレンスを行うことで、患者がより安全・安心な手術を受けられるよう情報共有している。 ④各科の介助手順書の作成・見直しや器械セットの整備を行い、効率性や経済性を考慮した手術看護を実践している。 ⑤安全・安楽な手術体位の固定、保持を行っている。 患者誤認防止として、担当医、麻酔科医、病棟看護師、手術室看護師立ち合いでのWHO入室安全チェックリストを実施している。 <p>2) 手術部位感染対策</p> <ol style="list-style-type: none"> ①国内外のガイドラインに準拠した感染対策の実施をしている。 ②各手術室は陽圧を維持し、高性能濾過（HEPA）フィルターにより清浄度管理を行い、日常の環境整備を徹底している。 ③手術器材の滅菌保障と無菌操作の徹底・教育を行っている。

		概要			
中央材料室		1 各種機械の稼働状況			
		名称	台数	月平均	1日平均
		ウォッシャーディスインフェクター	2台	222回	7.3回
		高圧蒸気滅菌器（オートクレーブ）	2台	137回	4.5回
		過酸化水素ガスプラズマ滅菌器	1台	61回	2回
		低圧蒸気ホルムアルデヒドガス滅菌器	1台	8回	週2～3回
看護職員 看護師長 委託業者	1名 14名	2 全滅菌物の総量 総数 : 91411個 月平均 : 7618個 1日平均 : 250個			
		3 看護の特徴			
		1) 「消毒と滅菌のガイドライン」に基づき、機材の品質・衛生管理を徹底し、患者の安全の確保を目的に責任をもって業務を実施している。 医療器具・器材の清潔・安全性の保持、医療従事者が安心して医療・看護ができるよう、器材に応じた処理方法を適切に選択し実践している。			
		2) 洗浄・乾燥・滅菌行程の日常管理・科学的インジケーター判定・記録を行っている。既滅菌物のリコールなどにより、無菌性を保障し、品質の安全性を確保している。			
		3) 手術に使用する器械組みを行い、常時手術室看護師と連携を図り、安全で正確な器械準備を目指している。			

感染防止対策室

感染管理認定看護師 丸山沙緒里・村上広美

【役割】 当院における効果的な感染管理プログラムを立案・実践・評価し、感染対策上の問題解決と改善活動を行い、病院感染の発生を低減するために組織横断的に活動する。

【活動内容】

院内感染症等対策委員会（感染制御チーム） 第4木曜日15:00~16:00	
<p>1. 感染防止組織体制の再構築</p> <p>2. ASTラウンド毎週木曜日 10:00~10:20 抗菌薬のモニタリング、助言、記録 抗菌薬の見直し、中止の提案 ICTミーティング 毎週木曜日 10:20~10:35 院内の感染状況の把握、感染対策の提案等 ICTラウンド 毎週木曜日 10:35~11:00 標準予防策等の感染対策の点検、指導</p> <p>3. 感染対策研修会の実施 【第1回】 7月「抗菌薬使用の指標とその動向」 「標準予防策について」 参加者 579名 参加率 99.3% 【第2回】 12月「耐性菌対策と抗菌薬適正使用について」 「新興・再興感染症への対応」 参加者 526名 参加率 96.3%</p> <p>4. ICTニュースの発行（月刊）</p> <p>5. サーベイランス 1) 中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス 2) 薬剤耐性菌分離件数、抗菌薬使用量 3) SSIサーベイランス（2016年9月~） 4) 尿道カテーテル関連尿路感染サーベイランス</p> <p>6. 感染対策向上加算算定施設合同カンファレンスと訓練（5月9日11月2月） 宇都宮市保健所、宇都宮市医師会、 報徳会宇都宮病院、宇都宮第一病院 外来感染対策向上加算施設 25施設 ・薬剤耐性菌検出状況、抗菌薬の使用状況 感染対策の実施状況、感染症患者の発生状況の共有 連盟合同カンファレンス+訓練 感染対策向上加算1施設（5施設）9月10月3月</p> <p>7. 感染防止対策地域連携加算相互評価の実施 12月 国立病院機構宇都宮病院</p> <p>8. 感染対策マニュアル改訂</p> <p>9. 院内クラスター発生時の状況把握、感染対策検討</p>	<p>看護部感染症対策部会 第1水曜日15:00~16:00</p> <p>1. 標準予防策遵守状況の点検 手指衛生実施状況と感染防護具着用状況の点検 データを活用した看護職員への教育</p> <p>2. 病棟・外来ラウンド（年2回） 手指衛生に関するチェックリストによる点検と指導 リンクナースと共に直接観察 （7月9月11月1月）</p> <p>3. サーベイランス 1) 手指衛生サーベイランス 2) 中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス 3) 手術部位感染サーベイランス</p> <p>4. リンクナースによる勉強会 感染対策に関する勉強会とディスカッション テーマ：標準予防策の実践（9つ） インフルエンザ、胃腸炎、新型コロナウイルス 感染症、コロナ検査部屋の感染対策 薬剤耐性菌について、カテーテル感染 麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎</p> <p>5. 感染対策マニュアルの改訂</p> <p>6. 手洗い教室 11月 宮の原小学校</p>
<p>感染管理認定看護師</p> <p>1. 感染対策マニュアルの追加、改訂</p> <p>2. 各委員会の企画・運営</p> <p>3. 感染対策リンクナースの教育、指導</p> <p>4. 病棟ラウンドの実施と機会教育 環境、 感染対策手順の点検</p> <p>5. コンサルテーション 各職種からの感染対策に関する相談・対応 連携施設から感染対策に関する相談・対応</p> <p>6. 薬剤耐性菌発生時の感染対策指導と点検 ESBL産生菌、クロストリジウムディフィシル等</p> <p>7. サーベイランス 1) 中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス 2) 手指衛生サーベイランス 3) 薬剤耐性菌分離件数サーベイランス 4) 手術部位感染サーベイランス 5) 尿道カテーテル関連尿路感染サーベイランス</p> <p>8. 職業感染対策 1) ハイリスク病棟職員の結核対策 IGRA/ELISPOT 検査の実施 2) B型肝炎ワクチン接種 3) 血液曝露事故対応 4) 結核接触者健診とフォローアップ</p> <p>9. 新型コロナウイルス感染症クラスター対応</p> <p>10. 感染対策に関する職員への情報提供 針刺し事故の発生状況、院内感染状況等</p>	<p>11. 感染管理教育</p> <p>1) 院内職員研修 4月 新規採用者オリエンテーション「院内感染管理」 4月 新規採用者看護部「感染管理の実践」 4月 看護学校「感染管理」 5月 リハビリテーション科 「感染管理について」 6月 歯科衛生士「感染管理について」 6月 薬剤部「感染管理について」 7月 委託職員(中材)「正しい感染対策を身に付けよう」 8月 栄養管理室 「手指衛生の必要性と方法」 8月 臨床検査技師 「感染管理について」 8月 委託職員(リネン)「正しい感染対策を身に付けよう」 9月 放射線技師 「感染管理について」 10月 委託職員(清掃)「正しい感染対策を身に付けよう」 11月 事務(DA) 「正しい感染対策を身に付けよう」 2月 業務技術員・クラーク 「正しい感染予防を身に付けよう！」</p> <p>2) 院外講演 6月 栃木県看護協会 令和5年度 リンクナース研修 「感染管理」 9月 獨協医科大学地域共創看護教育センター 医療関連感染サーベイランス 90分</p> <p>12. 訪問件数 感染対策向上加算3施設 3件 外来感染対策向上加算施設 17件</p> <p>13. 学会発表 10月 第22回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会 感染対策向上加算における地域医療連携 ~宇都宮医療圏の合同カンファレンス、訓練内容の統一~</p>

【役割】

- 1) 認知症者の意思を尊重し、権利を擁護し、認知症者の状態を統合的にアセスメント実施、各期に応じたケアの実践、ケア体制づくり、家族のサポートを担うことができる。
- 2) 認知症の行動心理症状（BPSD）を悪化させる要因・誘因に働きかけ、予防・緩和し認知症者にとって安心かつ安全な生活・療養環境の調整を多職種と相談し担うことができる。
- 3) 認知症看護の実践を通して役割モデルを示し看護職に対する具体的な指導・相談対応を担うことができる

【活動報告】2023年度の活動報告を、実践・指導・相談、地域活動に分けて記載する。

	内容
実践	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体拘束低減に向けた取り組み <ol style="list-style-type: none"> (1)身体拘束外そうカンファレンスの実施 (2)行動心理症状に対応するケアマニュアルの活用、周知（周知率 73.9%） 2. せん妄予防ケアに向けた取り組み <ol style="list-style-type: none"> (1)せん妄ハイリスク患者ケア加算取得 算定数実績：4211件 せん妄ハイリスク患者ケア加算算定点数：421,790点 2023年3月現在 (2)せん妄予防パンフレットの活用 3. リンクナース会の運営、実施 <ol style="list-style-type: none"> (1)リンクナース会を実施：各病棟の取り組みサポート、 (2)勉強会実施（パーソン・センタード・ケア、認知症ケア加算1 せん妄ハイリスク患者ケア加算、身体拘束、行動心理症状に対応するケアマニュアル） (3)記看護記録監査（7月、10月、1月） (4)身体拘束解除に向けた取り組み 事例検討会（各部署 1 事例） 4. チームカンファレンス・ラウンドにて看護介入 <ol style="list-style-type: none"> (1)認知症症状（中核症状・BPSD）、せん妄、半側無視・失語症・注意障害・失行・失認、アパシー、感覚障害、廃用症候群、フレイル、サルコペニア状態に対して、各期の症状に合わせた看護を実施。 5. 認知症ケア加算1取得 依頼患者：延数 857名 介入患者：357名 認知症ケア加算算定点数（算定点数実績）：337,076点 2023年3月末日現在 6. 家族の不安を傾聴し認知症やせん妄症状など説明を行い地域にある社会資源の活用を相談し望む場所へ退院できるよう説明を行った。
指導 (教育)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院全職員研修：「本人の望む場所に退院するための支援 ーせん妄・認知機能の低下を防ぐための方法」（2024年3月21日～4月12日）CoMed i x 配信 2. 院外講師：国立病院機構栃木医療センター附属看護学校での講義
相談	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンサルテーション（相談総件数：367件） <ul style="list-style-type: none"> ・過活動 31件 ・せん妄：27件 ・低活動：47件 転倒転落：89件 予防ケア：92件 認知症対応方法：81件
地域 活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学会出席 <ol style="list-style-type: none"> (1)日本老年看護学会第28回学術集会 2023年6月16～18日 (2)第24回日本認知症学会学術集会 2023年6月3～4日 (3)第77回国立病院総合医学会 2023年10月20～21日 ポスター発表 「身体拘束低減に向けた取り組みー当院における行動心理症状に対応したケアマニュアルの有用性の検討ー」 2. 宇都宮地区支部研修会 2023年11月4日 参加者 54名 「認知症講座」1) せん妄・認知症ケアチームの活動 2) 認知症看護について

地域医療連携室

職員

看護師長 1名
事務員 7名

1.地域医療連携室の目的

地域に根ざした病院を目指し、地域の医療機関や施設等との機能分担と連携を推進し、効果的な医療・看護の提供を図る。

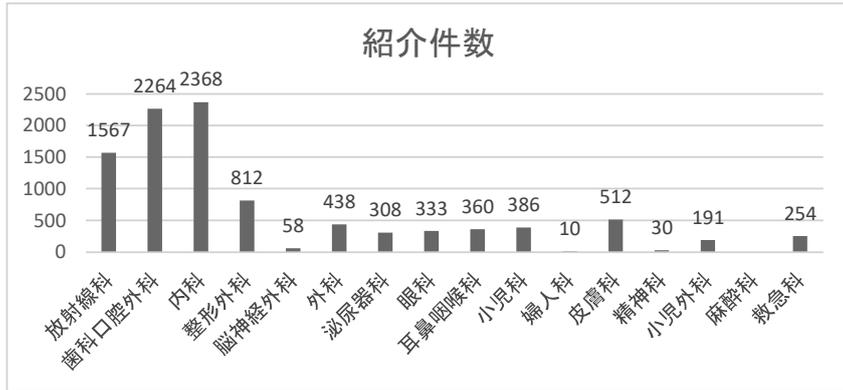
2.地域医療連携室の役割

紹介患者の受診、検査、入院が円滑に行われるように、また患者さん、ご家族が退院後も安心して療養を継続できるように地域医療機関や施設等との連携を担う。

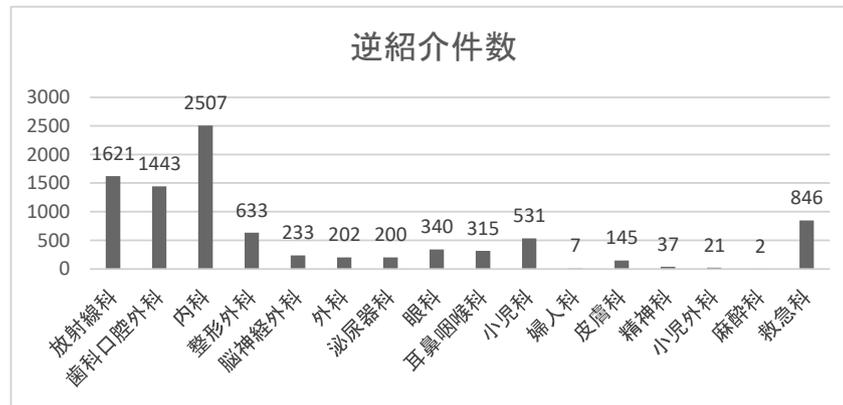
3.実績

1)紹介患者件数、逆紹介患者件数

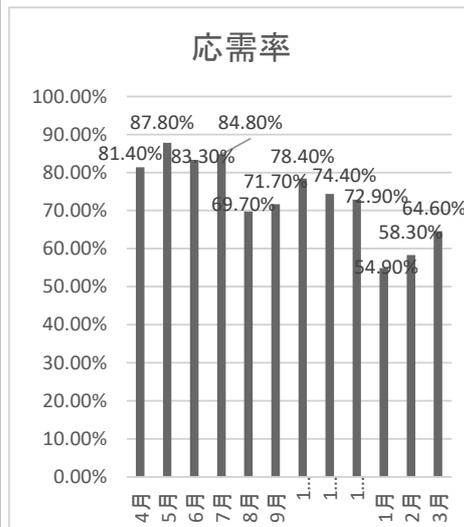
①紹介患者



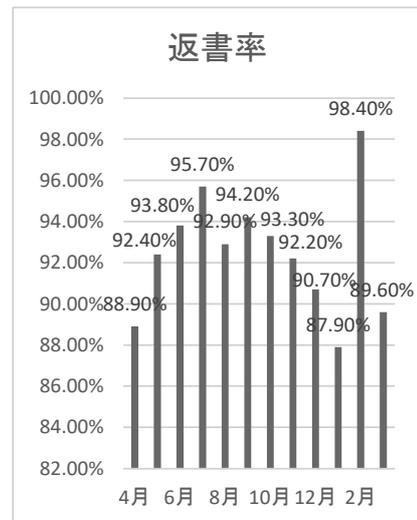
②逆紹介患者



③応需率



④返書率



<p>総合相談室</p> <p>職員 看護師長 1名 看護師 6名 SW 5名</p>	<p>1.総合相談室の役割 当院をご利用される方、またはご利用を考えている方の医療・介護・福祉に関する様々なご相談に対応させていただいております。相談内容に応じて、地域の医療機関・福祉機関・行政等と連携を図り、患者さん・ご家族が安心して治療・療養がうけられるようお手伝いいたします。</p> <p>2.総合相談室の業務 1) 退院・転院のご相談 2) 経済的なご相談 3) 受診・受領に関するご相談 4) その他の心配事</p> <p>3.実績 ①入院サポートセンター患者数・入院時支援加算件数</p> <table border="1"> <caption>サポートセンター患者数・入院時支援加算数</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>入院サポートセンター患者数</th> <th>入院時支援加算数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>290</td><td>110</td></tr> <tr><td>5月</td><td>277</td><td>157</td></tr> <tr><td>6月</td><td>309</td><td>172</td></tr> <tr><td>7月</td><td>307</td><td>165</td></tr> <tr><td>8月</td><td>324</td><td>166</td></tr> <tr><td>9月</td><td>293</td><td>161</td></tr> <tr><td>10月</td><td>313</td><td>163</td></tr> <tr><td>11月</td><td>316</td><td>177</td></tr> <tr><td>12月</td><td>289</td><td>197</td></tr> <tr><td>1月</td><td>292</td><td>150</td></tr> <tr><td>2月</td><td>298</td><td>181</td></tr> <tr><td>3月</td><td>264</td><td>196</td></tr> </tbody> </table> <p>②退院支援部門介入件数</p> <table border="1"> <caption>退院支援部門介入件数</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>転院</th> <th>施設</th> <th>在宅</th> <th>死亡</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>26</td><td>8</td><td>20</td><td>4</td></tr> <tr><td>5月</td><td>23</td><td>19</td><td>27</td><td>2</td></tr> <tr><td>6月</td><td>32</td><td>8</td><td>20</td><td>7</td></tr> <tr><td>7月</td><td>21</td><td>7</td><td>28</td><td>5</td></tr> <tr><td>8月</td><td>26</td><td>10</td><td>28</td><td>5</td></tr> <tr><td>9月</td><td>14</td><td>7</td><td>30</td><td>6</td></tr> <tr><td>10月</td><td>25</td><td>7</td><td>23</td><td>5</td></tr> <tr><td>11月</td><td>29</td><td>6</td><td>27</td><td>3</td></tr> <tr><td>12月</td><td>39</td><td>6</td><td>33</td><td>7</td></tr> <tr><td>1月</td><td>35</td><td>7</td><td>18</td><td>7</td></tr> <tr><td>2月</td><td>30</td><td>11</td><td>34</td><td>0</td></tr> <tr><td>3月</td><td>24</td><td>8</td><td>18</td><td>3</td></tr> </tbody> </table> <p>③援助別相談件数</p> <table border="1"> <caption>援助別相談件数</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>退院援助</th> <th>経済問題</th> <th>受診受療</th> <th>心理・社会的問題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>733</td><td>35</td><td>18</td><td>18</td></tr> <tr><td>5月</td><td>767</td><td>55</td><td>30</td><td>30</td></tr> <tr><td>6月</td><td>789</td><td>83</td><td>32</td><td>32</td></tr> <tr><td>7月</td><td>745</td><td>49</td><td>33</td><td>33</td></tr> <tr><td>8月</td><td>813</td><td>52</td><td>19</td><td>19</td></tr> <tr><td>9月</td><td>787</td><td>61</td><td>26</td><td>26</td></tr> <tr><td>10月</td><td>862</td><td>68</td><td>23</td><td>23</td></tr> <tr><td>11月</td><td>786</td><td>74</td><td>23</td><td>23</td></tr> <tr><td>12月</td><td>888</td><td>77</td><td>26</td><td>26</td></tr> <tr><td>1月</td><td>806</td><td>59</td><td>22</td><td>22</td></tr> <tr><td>2月</td><td>706</td><td>37</td><td>18</td><td>18</td></tr> <tr><td>3月</td><td>718</td><td>59</td><td>20</td><td>20</td></tr> </tbody> </table>	月	入院サポートセンター患者数	入院時支援加算数	4月	290	110	5月	277	157	6月	309	172	7月	307	165	8月	324	166	9月	293	161	10月	313	163	11月	316	177	12月	289	197	1月	292	150	2月	298	181	3月	264	196	月	転院	施設	在宅	死亡	4月	26	8	20	4	5月	23	19	27	2	6月	32	8	20	7	7月	21	7	28	5	8月	26	10	28	5	9月	14	7	30	6	10月	25	7	23	5	11月	29	6	27	3	12月	39	6	33	7	1月	35	7	18	7	2月	30	11	34	0	3月	24	8	18	3	月	退院援助	経済問題	受診受療	心理・社会的問題	4月	733	35	18	18	5月	767	55	30	30	6月	789	83	32	32	7月	745	49	33	33	8月	813	52	19	19	9月	787	61	26	26	10月	862	68	23	23	11月	786	74	23	23	12月	888	77	26	26	1月	806	59	22	22	2月	706	37	18	18	3月	718	59	20	20
月	入院サポートセンター患者数	入院時支援加算数																																																																																																																																																																								
4月	290	110																																																																																																																																																																								
5月	277	157																																																																																																																																																																								
6月	309	172																																																																																																																																																																								
7月	307	165																																																																																																																																																																								
8月	324	166																																																																																																																																																																								
9月	293	161																																																																																																																																																																								
10月	313	163																																																																																																																																																																								
11月	316	177																																																																																																																																																																								
12月	289	197																																																																																																																																																																								
1月	292	150																																																																																																																																																																								
2月	298	181																																																																																																																																																																								
3月	264	196																																																																																																																																																																								
月	転院	施設	在宅	死亡																																																																																																																																																																						
4月	26	8	20	4																																																																																																																																																																						
5月	23	19	27	2																																																																																																																																																																						
6月	32	8	20	7																																																																																																																																																																						
7月	21	7	28	5																																																																																																																																																																						
8月	26	10	28	5																																																																																																																																																																						
9月	14	7	30	6																																																																																																																																																																						
10月	25	7	23	5																																																																																																																																																																						
11月	29	6	27	3																																																																																																																																																																						
12月	39	6	33	7																																																																																																																																																																						
1月	35	7	18	7																																																																																																																																																																						
2月	30	11	34	0																																																																																																																																																																						
3月	24	8	18	3																																																																																																																																																																						
月	退院援助	経済問題	受診受療	心理・社会的問題																																																																																																																																																																						
4月	733	35	18	18																																																																																																																																																																						
5月	767	55	30	30																																																																																																																																																																						
6月	789	83	32	32																																																																																																																																																																						
7月	745	49	33	33																																																																																																																																																																						
8月	813	52	19	19																																																																																																																																																																						
9月	787	61	26	26																																																																																																																																																																						
10月	862	68	23	23																																																																																																																																																																						
11月	786	74	23	23																																																																																																																																																																						
12月	888	77	26	26																																																																																																																																																																						
1月	806	59	22	22																																																																																																																																																																						
2月	706	37	18	18																																																																																																																																																																						
3月	718	59	20	20																																																																																																																																																																						

1. 概要

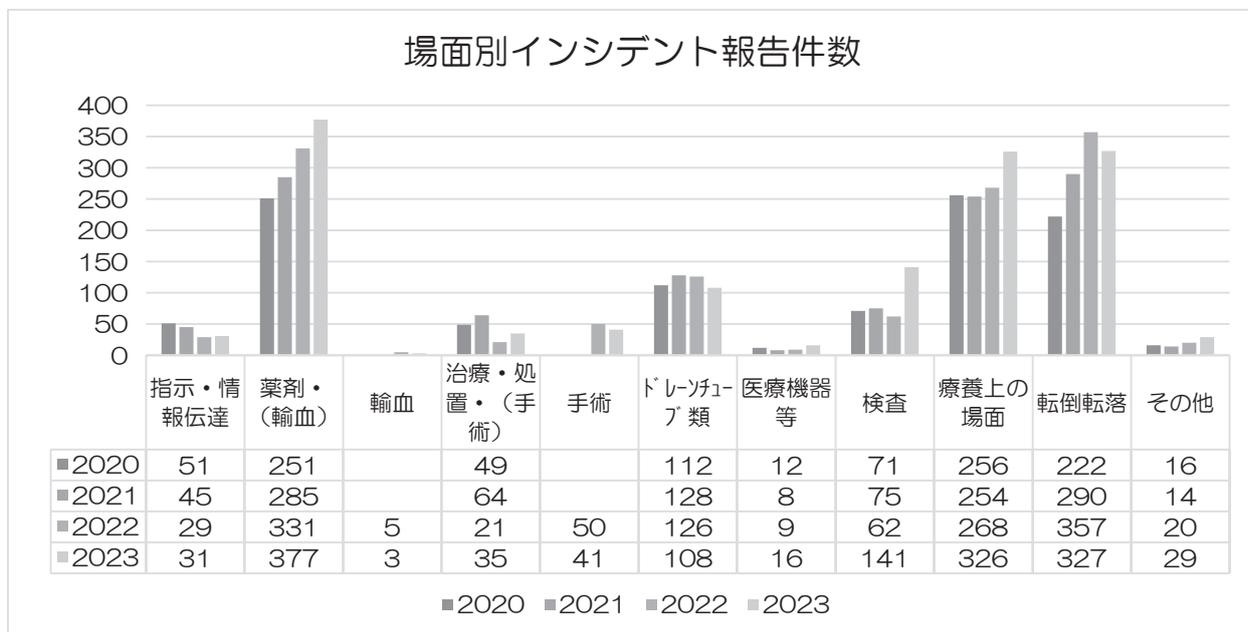
組織横断的な医療安全活動を行い、質の高い医療を提供するために活動する。

主な日常業務

- 1) 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査（定期的な院内巡回・点検、マニュアル遵守状況の点検）
- 2) マニュアルの作成及び点検並びに見直しの提言
- 3) インシデントレポートの収集、分析、分析結果の現場へのフィードバック、具体的な改善策の提案・推進と評価
- 4) 医療安全に関する情報の把握、職員への周知
- 5) 医療安全に関する教育研修の企画・運営
- 6) 医療安全体制確保のための各部門、医療安全管理委員会および他委員会との連携・調整
- 7) 医療事故発生時の記録、報告書、患者対応についての確認と指導

2. 2023 年度インシデント・アクシデント発生状況

1) 2023 年度発生数 1434 件（前年度+156 件）発生率 1.53（前年度+0.22）



○発生場面では薬剤 26%、転倒転落 23%、療養上の場面 23%で大半を占めていた。薬剤インシデントが年々増加している。

○薬剤に関するインシデントは年々増加している。喘息の既往やアレルギー情報がありながらも指示に反映されておらず実施に至った事例がみられた。部署、部会、チーム会で分析しパスの見直しをおこなった。

○転倒・転落インシデントは昨年度より件数が減少している。セーフティーマネージャーチーム、リスク分析部会でベッド周囲の環境ラウンドを継続した。ベッド周囲の環境は整理されつつある、患者に合わせた対策が取られているか、身体拘束・抑制が適切であるか確認するようになった。併せて、環境ラウンドチェック表の見直しを行った。入院前からの転倒・転落予防対策が今後の課題となる。

2) 職種別報告割合

	2021年度	2022年度	2023年度
医師	1.0%	1.1%	1.2%
看護師	89.2%	88.9%	84.1%
薬剤師	2.8%	4.9%	4.4%
栄養士	3.2%	1.2%	2.1%
放射線技師	0.9%	1.1%	5.4%
検査技師	0.7%	1.0%	0.8%
リハビリ部門	1.8%	1.3%	1.5%
ME	0.2%	0.2%	0.3%
事務職	0.3%	0.2%	0.3%
その他	0.1%	0.2%	0.0%

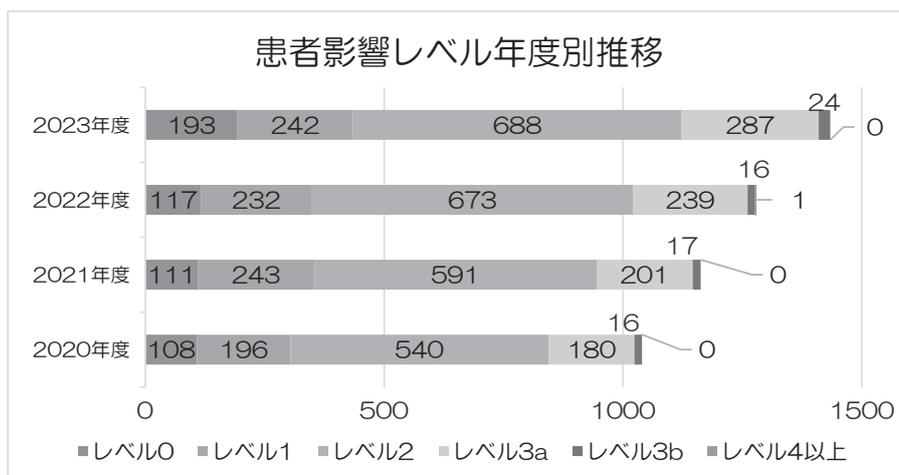
医師： 17件（前年比+ 3件）
 看護師： 1206件（前年比+72件）
 薬剤師： 63件（前年比± 0件）
 放射線技師： 77件（前年比+67件）
 リハビリ部門：21件（前年比+ 4件）

看護師からの報告依然として多く、看護師以外の報告が少ない状況である。今年度は放射線技師による報告が増加し、インシデントを積極的に報告する体制となった。特に医師がインシデント報告に積極的に参加する体制が課題である。

3) 患者影響レベル別報告

レベル0：193件
 （前年度+76件）

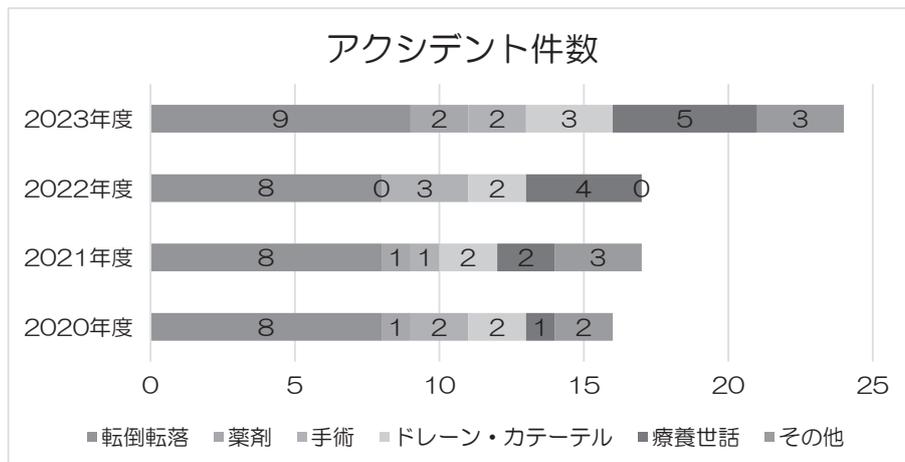
各レベルの増加がみられる中、特に0レベル報告が増加した。撮像画像部位の間違いを放射線技師が発見する報告が多く、インシデント予防の現状が分かった。



4) アクシデント報告 総件数 24 件

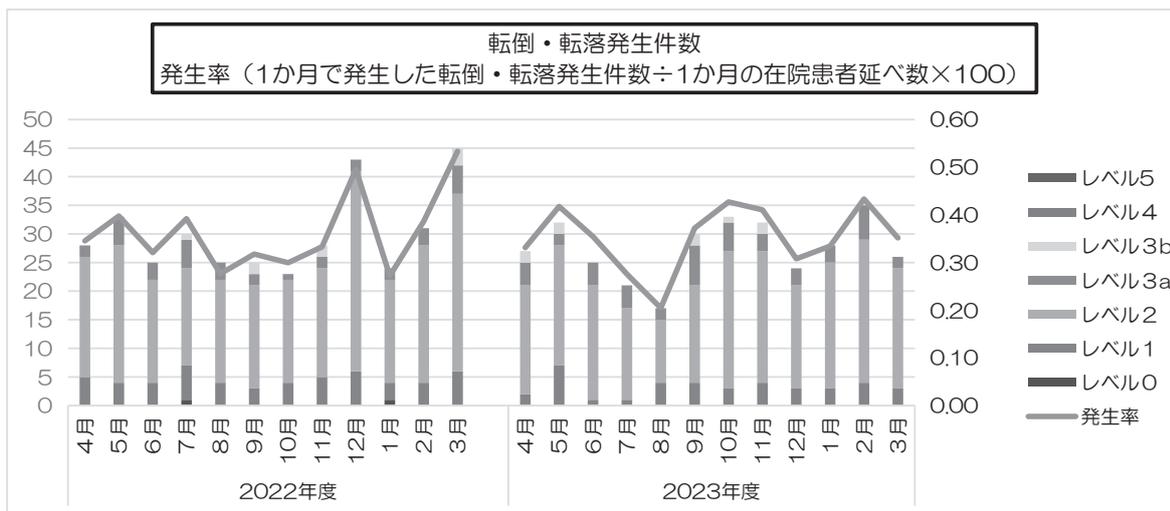
<内訳>

転倒転落 9件
 療養上の世話 5件
 ドレーン類 3件
 薬剤 2件
 手術 2件
 その他 3件



アクシデント報告件数が大きく増加したが今年度はレベル4以上の報告はなかった。転倒・転落による骨折が多くを占めるが経年では横ばいである。発生後にカンファレンスシート、分析シートを活用し再発防止策を検討した。

4) 転倒・転落発生状況



2023 年度

転倒転落発生件数 330 件

(前年-27 件)

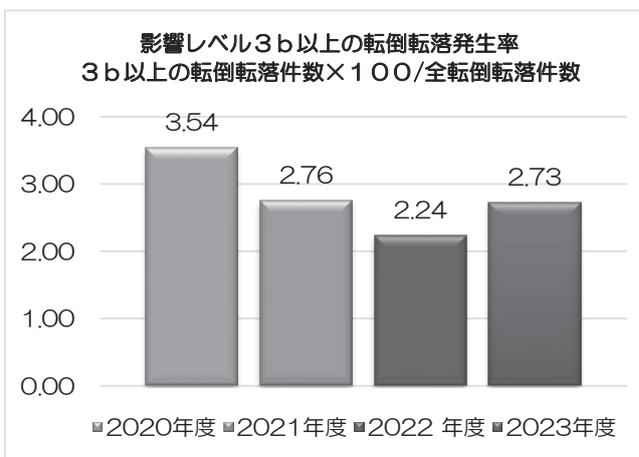
転倒転落発生率 0.35%

(前年+0.02)

転倒転落重大事象発生率

2.73% (前年+0.49)

転倒による 3 b 以上のアクシデント発生件数は 9 件であり、発生率ともに増加している。患者要因が多数であるが介助下でも発生しており、患者の状況をアセスメントした介助が求められる。



3. 2023 年度の主な取り組み事項

- 1) 国立病院機構間で肺血栓症対策、モニターアラーム対応を中心に医療安全相互チェックを行った。肺血栓予防マニュアルの改訂、テクニカルアラームの低減に向けた研修を行った。
- 2) 地域連携加算に伴う病院相互評価を 3 施設で実施し、転倒・転落予防を中心に行った。ベッドサイドで患者情報を共有する方策と、入院前から転倒・転落予防の介入が課題となった。来年度に向けて方策を検討した。
- 3) インシデント報告の推進、0 レベル報告の推進を行い、それぞれの報告数が上昇した。得に放射線科の 0 レベル報告が増加した。
- 4) 医療安全対策推進活動チェックバックの活用、指差し呼称の推進を行った。
- 5) リスク分析部会、セーフティマネージャーチームで多職種による転倒転落予防環境ラウンドを定期的に行い、転倒予防に努めた。
- 6) 医療安全管理研修を年 3 回、企画・運営した。
- 7) 造影剤静脈注射研修において新たに更新研修を企画・運営し、看護師の教育と認定看護師の育成を行った。

4. 医療安全研修会実施状況

開催月	内容	講師	参加者数	参加率
6・7月	医療安全管理研修① 「インスリンについて」 「診療放射線安全利用」 「MRと放射線防護」	薬剤師 放射線技師	571名	98%
11・12月	医療安全管理研修② 「検体の正しい取り扱い」 「車いすの移乗」 「患者確認と指差し呼称」	臨床検査室 リハビリテーション科	537名	96%
3月	医療安全管理研修③ 「心電図のテクニカルアラーム 低減にむけて」	臨床工学技士	19名	
5月～3月	BLS研修 13回	心肺蘇生チーム	200人	
3月	骨折リエゾンサービスの取り組み	骨粗鬆症リエゾン サービスチーム	294人	

5. 医療安全管理関連会議の開催

名称	開催回数	主な審議／活動内容
医療安全管理委員会	12回 (第2火曜)	アクシデント事例分析・検討 各種部会での検討内容の報告、評価 医療安全管理マニュアルの改訂 病院相互評価の実施
リスク分析部会	21回 (第1・3月曜)	院内の医療安全管理の体制・運用に関する事項検討。 インシデント、アクシデント事例の要因分析・改善策 の検討・評価
認知症対策部会	12回 (第2水曜)	認知症ケア加算、認知症相談窓口の算定実績・内容評 価、せん妄・認知症ケアチーム活動情報共有
造影剤静脈注射 ワーキング部会	2回	造影剤静脈注射研修の企画運営 造影剤検査に関するインシデントのモニター
医療機器安全 管理部会	3回	医療機器に関するマニュアル改訂 人工呼吸器・除細動器の更新と管理 医療機器に関する教育・研修
セーフティ マネージャー チーム会議	11回 (第2火曜)	インシデントカンファレンス マニュアル見直し(記録・行動監査) 医療安全行動の確認 院内研修の企画・運営
薬剤リスク分析 チーム会議	11回 (第4水曜)	入院患者の内服薬剤(65歳以上5剤以上内服)の スクリーニング 薬剤に関するインシデント事例検討
心肺蘇生推進 チーム会議	11回 (第2水曜)	院内急変対応方法の見直し・検討 インストラクターによるBLS研修、勉強会実施。 救急カート物品の見直し検討
FLSチーム	毎週1回 木曜	大腿骨近位部骨折患者の2次骨折予防のための 多職種カンファレンス

【役割】

看護部長室に所属し、認定看護師の専門業務に従事している。

主に褥瘡対策専従看護師として院内の褥瘡対策を管理しているが、皮膚・排泄ケア特定認定看護師としてストーマケアほか関連分野における看護の質の向上のために、院内および地域での指導的役割を担っている。

【活動報告】

2023 年度の活動を、褥瘡対策、ストーマケア関連、その他の院内活動、地域での活動に分けて記載する。

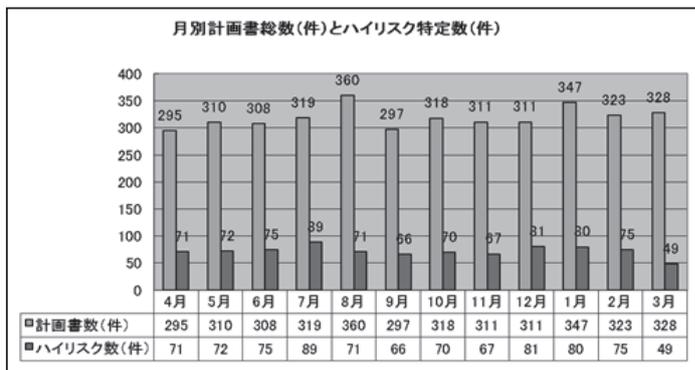
褥瘡対策

- 1、褥瘡回診（月 2 回、年間 24 回、のべ患者数 386 名）
- 2、臨時個別対応 238 件 看護師特定行為（デブリードマン）1 件実施。
- 3、院内研修会
 - 1) 新人看護師研修
 - (1) 4 月 新人オリエンテーション「栃木医療センターの褥瘡対策」（講師）
実技：ポジショニング、ギャジアップ、おむつ交換（実技指導）
 - (2) 9 月 「褥瘡リスクアセスメント+除圧とスキンケア」
 - (3) 11 月 「多職種で取り組む褥瘡対策」（チームの栄養士、薬剤師、理学療法士による講義）
 - (4) 12 月 「褥瘡が発生したら！ -傷の見方と看護の役割-」
(2)(4)は CoMedix への資料提示閲覧後のレポート提出・フィードバックを実施し
2 月に最終アンケートを行い評価した。
 - (5) 9 月 番外編ラダー1「周術期の褥瘡対策」（講師）
 - 2) 全職員対象研修
 - (1) 7 月 創の見方とアセスメント「DESIGN-R をつけて傷の訴えを聴こう」
CoMedix への資料提示（作成：遠藤）閲覧者数 262 名。
- 4、委員会：6 月、9 月、12 月、3 月に開催。
- 5、チーム会議：毎月開催。メンバーが持ち回りで担当しチーム内でミニ勉強会を実施した。
- 6、機能評価準備：解説集に追加された点を満たすよう MDRPU の発生状況を委員会での報告事項に追加して整えた。アピールポイントを再確認し自己評価 A として提出。
- 7、適時調査対応：資料準備、当日対応。加算の要件に指摘事項なくクリアできた。
- 8、マットレス管理：エアーマット 90 台、静止型マット（レンタル）230 枚運用中。患者数が少なくなっており不足は生じていないため今年度は増量の検討はしなかった。

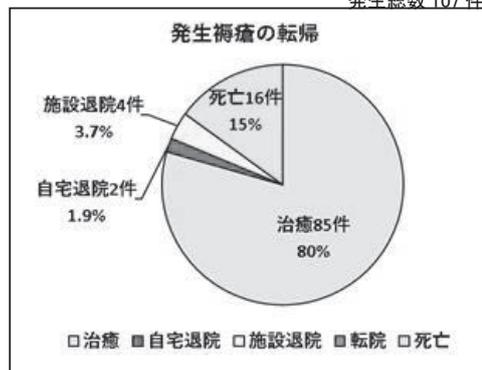
対策の結果

- 1) 院内発生褥瘡総数 107 件 ➡ 転帰 85 件治癒（治癒率 80%）
- 2) 院内発生褥瘡発生率 定点調べの推定発生率 0.86%、総数による発生率 1.04%
※MDRPU を含む推定発生率 1.19%、総数による発生率 1.28%
- 3) ハイリスク加算算定総数 866 件（計画書確認総数は 3827 名分、約 7500 件）
- 4) 持込み褥瘡受け入れ数 245 件 ➡ 転帰 160 件治癒（治癒率 65%）
- 5) 地域に褥瘡を持ち出した件数 54 件（持込み褥瘡 58 件、発生褥瘡 6 件）
※褥瘡発生率：目標（0.9%以下）は推定発生率でのみ辛うじて達成できた。
※ハイリスク算定：850 件以上を目標とし達成できた。
※褥瘡関連の算定額：全患者入院基本料の基準を満たすことに貢献+ハイリスク加算 433 万円

〈表 1〉 月別計画書提出総数とハイリスク特定数



〈表 2〉 発生褥瘡の転帰



ストーマケア関連

- 1、ストーマ外来 のべ受診数 183 件（外科 157 件、泌尿器科 27 件）算定額 約 45 円
- 2、外来での術前ケア 2 件、病棟での直接ケア 57 件（術後確認、合併症、装具選択、など）
- 3、ストーマサイトマーキング関連 4 件（実施、確認、調整、講習会修了者に指導を含む）
- 4、ストーマケアの学習会や物品管理に関する相談 15 件
- 5、11/7（火）13:00-17:00 栃木 SR 講習会院内実習（3 名受講 5 階小松亜希、外来渡邊照美、地連高橋優子）→3 名が全課程を修了しストーマサイトマーキングの加算対象実施者になった。

その他の院内活動

- 1、ストーマケア以外のコンサルテーション 38 件（スキンケア、離開創、褥瘡以外の潰瘍、排便管理、褥瘡リンクナースからの活動の相談など）
- 2、生活習慣病チームの会議に出席、7/20（木）生活習慣病教室で講義担当（13:00-14:00）
- 3、学生指導
 - 1) 附属看護学校での講義 1/22（月）「創傷処置と看護」2 コマ
 - 2) ストーマ外来での実習受け入れ（5 月～2 月、12 回 22 名、附属 3 年生、在宅看護実習）

地域での活動

- 1、地域からの相談対応 24 件
- 2、地域へのケアサマリー作成件数 40 件
- 3、院外講師等
 - 10/9（月）12:00-17:00 第 14 回栃木ストーマリハビリテーション講習会中央実習講師
 - 12/4（月）栃木県立リハビリテーションセンター 院内褥瘡対策研修会講師
「褥瘡予防 基本のテ -スキンケアと除圧の一手-」講義+演習、質疑応答 60 分
- 4、学会・研究会等での役割と出席実績
 - 1) 日本褥瘡学会（会員 No.B11428） 学会 9/1（金）9/2（土）現地出席（神戸）
 - 2) 日本褥瘡学会関東甲信越地方会（会員 No.KK-2110）11/18（土）リモート出席
 - 3) 日本創傷オストミー失禁管理学会（会員 No.374-05）評議員
評議員会オンライン、学会 7/8（土）7/9（日）現地出席（仙台）
 - 4) 日本ストーマ排泄リハビリテーション学会（会員 No.4017）都合で学会は出席せず
 - 5) 皮膚褥瘡外用薬学会（会員） 学会 7/23（日）リモート出席
 - 6) 栃木県ストーマ研究会（幹事）研究会 6/17（土）、特別企画 9/30（土）いずれも現地出席
 - 7) 日本ストーマ排泄リハビリテーション学会認定栃木 SR 講習会（実行委員）
- 5、学会発表、寄稿なし

備考

皮膚・排泄ケア認定看護師取得希望である 5 階黒尾看護師をケア指導や学習会の相談等でフォロー中。6 月のストーマ研究会、7 月の WOC 学会、9 月の研究会特別企画と一緒に参加した。

【役割】緩和ケアおよび終末期ケアにおける医療の質の向上を図る

【活動内容】

1. 院内の緩和ケアおよび終末期ケアの実践・指導・相談に取り組む

1) 院内のがん患者に対する緩和ケアスクリーニングの推進

緩和ケアスクリーニング方法を見直し、2月から全患者対象の入院時必須テンプレートへ変更、周知徹底

2) 緩和ケアチームラウンドの充実を図る

緩和ケアチーム介入基準の見直しと周知徹底

緩和ケアチーム依頼対象者に加え、薬剤師と協力し、麻薬使用者・化学療法治療施行の患者・放射線療法施行の患者などチーム介入該当者を選定し、麻薬ラウンド・多職種カンファレンスをチーム介入にて開催

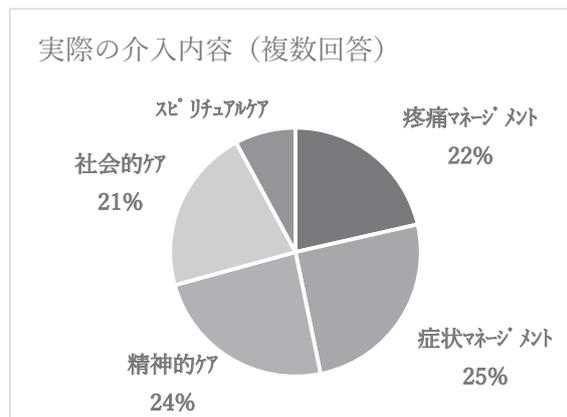
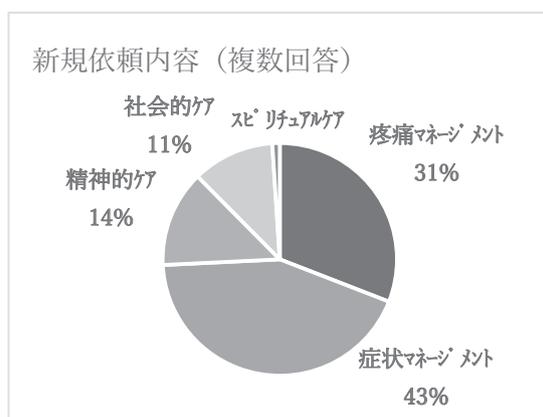
緩和ケアチームラウンド依頼件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	2	4	2	3	2	1	3	4	1	10	10	7	49
延べ	5	11	8	14	13	8	3	7	4	19	36	29	157

麻薬ラウンドのみの結果 新規 24 件 延べ 77 件 多職種カンファレンス 6 件

*すべてのカンファレンス・ラウンドの延べ件数 238 件

認定看護師へコンサルテーション 4 件



がん関連加算の算定に取り組み、緩和ケア診療加算 124 件、がん性疼痛指導管理料 24 件、がん患者指導料 39 件取得

加算要件である麻薬導入前後での疼痛評価について指導し、周知徹底図った

カンファレンス記録の工夫：多職種ごとの専門職性を活かした協議内容・提案事項の記載分け、記載内容に補足資料の添付

3) 緩和ケアチーム各種マニュアル改訂、周知

4) 勉強会開催 4 階病棟(6 月)「せん妄にある患者・家族へのケア」

5) 院内がんボード参加 症例検討への発言、がん関連加算算定への取り組みと周知

6) 学生指導

終末期実習での学生指導(病棟実習+緩和ケアチームラウンド同行)

老年看護学 健康障害のある高齢者の看護(全 6 回) 講義：5 月 11 日-7 月 10 日

7) ACP 関連の講習会開催、講師参加

ラダーⅢACP 研修 受講者対象(10 月)、院内 ACP 研修会 多職種対象(12 月)

8) そのほか

栃木地域の緩和ケアにかかわる実務者アンケートへの協力

適時調査への参加 病院機能評価期中確認への参加

2023 年度がん放射線療法看護認定看護師活動報告書

がん放射線療法看護認定看護師 岡本 夏織

【役割】

1. 実践：がん放射線療法看護分野において、個人・家族及び集団に対して熟練した看護技術を用いて、水準の高い看護を実践する。
2. 指導：がん放射線療法看護分野において、看護実践を通して看護師および患者・家族、医療従事者に対して教育・指導を行う。
3. 相談：がん放射線療法の看護分野において、看護師および医療従事者に対して専門知識に基づいた助言を行う。

【活動内容】2023 年度の活動報告を、実践・指導・相談、地域活動に分けて記載する。

	内容
実践	<p>1. 活動基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019.10～がん患者指導管理料（イ）（ロ）取得 ・放射線治療看護業務マニュアルの見直し、修正 電子カルテ定型文、テンプレートの見直し、修正 2020.1～リンパ浮腫指導管理料取得 ・アピアランスケアセンター看護業務マニュアル見直し、修正 電子カルテ定型文、テンプレートの見直し、修正 ・放射線治療看護業務トレーニング実施（業務遂行可能看護師 計 12 名） <p>2. チームカンファレンス・ラウンドにて看護介入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線治療多職種ミーティング、カンファレンス開催：144回（2024.3月末日時点） <p>【開催内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線治療中患者の注意点を喚起 ・放射線治療終了後経過フォロー患者の注意点を喚起 ・医師、放射線技師と情報共有 <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアチームラウンド参加：5回（2024.3月末日時点） （毎週水曜 14：00～） <p>【開催内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院中の緩和ケア依頼患者のコンサルタント ・緩和ケア認定看護師と分担し看護記録記載、ラウンド進行
指導 (教育)	<p>1. 各病棟学習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学生臨地実習：5月7名.6月4名.7月4名.9月4名.10月11名.2月1名 <p>【指導内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線治療中患者の看護 ・放射線治療終了後経過フォロー患者の看護 ・アピアランスケア患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・外来勉強会（2023.4月～2024.3月末日時点） <p>【指導内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線治療看護業務 ・放射線治療の有害事象 ・多職種連携について

相談	<p>1. コンサルテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> • 放射線治療：新規 123 件 （2024.3 月末日時点） • リンパ浮腫：新規 72 件、継続 94 件 （2024.3 月末日時点） • アピアランスケア：新規 72 件、継続 94 件 （2024.3 月末日時点）
地域活動	<p>1. 学会出席</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2023.11/30～12/2 日本放射線腫瘍学会 第 36 回学術大会参加（発表無し） • 2024.2/24～2/25 日本がん看護学会 第 38 回学術集会参加（発表無し） <p>2.TROC（栃木県放射線腫瘍研究会）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2023.9/12 • 2024.2/22 <p>3.栃木アピアランスケア研究会参加</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2023.12/15 栃木アピアランスケア研究会

治験管理室

治験管理室は、新GCP（医薬品の臨床試験の実施の基準）を順守し、倫理的かつ化学的に質の高い治験（新薬や新医療機器を開発するために実施される臨床試験）を実施することを目的に設置された部署です。

治験を実施する医師や参加する患者様をサポートし、治験の倫理性・科学性を保証し、被験者の安全性・人権を守るための治験コーディネーター（CRC）業務と治験の申請等の各種手続き、受託研究審査委員会（IRB）の運営、各種書類の作成・管理・保管等の治験事務局・IRB事務局業務を行っています。

また、治験以外の臨床研究についても、本部主導のEBM研究・ネットワーク研究を中心にサポートを行っています。

治験の受託件数は、少ない状況ですが、質については、FDA（アメリカ食品医薬品局）基準を目指しており、外資系企業からも高い評価を得ています。

1. スタッフ

治験管理室長	加藤 徹（臨床研究部長）
治験主任	川村 勇太
CRC看護師	吉澤 美佐子（日本臨床薬理学会認定CRC）
研究補助員	久保田 美和子（臨床研究部兼任）

2. 2023年度実施治験

- ・ OPC-131461 の心性浮腫（うっ血性心不全）に対する、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間、多施設共同、用量探索試験（大塚製薬）
- ・ 治療抵抗性高血圧患者を含む、2剤以上の治療薬を使用しているコントロール不良のアジア人高血圧患者を対象として baxdrostat の有効性及び安全性を評価する二重盲検、ランダム化、プラセボ対照、多施設共同試験（BaxAsia）

3. 2023年度サポート臨床研究

NHO ネットワーク共同臨床研究

- ・ 加熱式たばこの心血管バイオマーカーに対する影響

VI

看 護 学 校

1. 看護師養成の質の維持・向上

- 1) 看護師国家試験全員合格（2年連続100%）
- 2) 基礎看護技術習得への支援
- 3) 継続した学習支援および成績低迷者への支援強化

2. 健全な学校運営の実施

- 1) 教育教材費の適正な運用(適正な教材教具の購入および管理)
- 2) コスト意識をもった経費削減、時間管理
- 3) 卒業生の機構病院就職割合(80%以上)の継続看護師養成所補助金の確保
- 4) 卒業生の栃木県内就職割合(90%以上)の継続
- 5) 学校評価の適切な実施
 - ・自己点検・自己評価の実施(2回/年)、学校関係者評価および学校間評価の実施(1回/年)

3. 積極的な業務改善

- 1) 業務の効率化、業務改善への取組強化
- 2) 勤務時間管理の徹底(時間外勤務の削減)
- 3) ワークライフバランスの推進(計画的な年休取得)
- 4) 働きやすい職場環境づくり(教員間の連携)

4. 地域に貢献する教育活動の実践

- 1) 公開講座の実施
- 2) 進学ガイダンスの実施
- 3) 宮っ子チャレンジ、看護学校体験等の受入れ
- 4) 看護師を目指す学生への情報提供

5. 教育・研修の充実

- 1) 教員の質の維持と教育力の充実
 - (1) 研究授業の実施および他校開催への参加
 - (2) 教員育成のためのインターンシップの受入れ強化
- 2) TANAD(看護教員能力開発プログラム)に沿った能力の獲得強化
- 3) 学校カリキュラム評価の実施および活用(講師への迅速な返却)

6. 教員研究の推進

- 1) 教員研究助成金の適正運用
- 2) 研究成果の発表(1題発表/年)
- 3) 学会および研修会(セミナー含む)への参加と伝達講習の実施

2. 2023年度 卒業時のカリキュラムに関する満足度

4段階尺度 平均値

	項 目	評価値
1	教育方針は明確に示されている	3.1
2	基礎分野の教育内容に満足している	3.0
3	専門基礎分野の教育内容に満足している	3.0
4	専門分野の教育内容に満足している	3.0
5	実習の教育内容に満足している	2.9
6	わかりやすい授業が多い	2.7
7	専門的な知識が身につく	3.2
8	専門的な技術が身につく	3.2
9	シラバスと実際の授業に内容は概ね一致している	3.0
10	学習するための教材及び図書は十分である	3.1
11	個別指導、進路相談など学生をサポートする体制が整っている	3.1
12	健康管理体制に満足している	2.9
13	課外活動に満足している	2.8
14	カリキュラムに対して評価する機会が与えられている	3.2
15	学校職員は学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である	2.9
16	全体的にみて、本校で学んだことに満足している	3.1
	総 合 平 均	3.0



II. 学生に関すること

1. 現員・寄宿舎入居・通学状況

2023年4月7日

	計	1年生	2年生	3年生
定員	120	40	40	40
在籍者数	118	35	41	41
現員	117	34	41	42
入寮生数	12	3	0	9
通学生数	106	32	41	33

2. 卒業生・就職進学状況 「自施設」の()内は、就職者の内の自施設への就職者の割合

卒業年度 (回生)	卒業 者数	看護職 就職合計	自施設 (割合%)	機構内 他施設	その他 病院	看護師 以外 就職	進学	未就職
2019年度 (71回生)	32	29	20 (69.0)	9	0	0	2	1
2020年度 (72回生)	35	32	24 (75.0)	8	0	0	3	0
2021年度 (73回生)	37	33	24 (72.7)	7	2	0	3	1
2022年度 (74回生)	42	40	32 (80.0)	1	7	0	2	0
2023年度 (75回生)	41	37	29 (78.3)	5	3	0	3	1

3. 応募・入学状況

※一般入学の競争率は、一般入試受験者数 ÷ (学年定員-推薦合格者数) で算出。

入学 年度 (回生)	一般入試						推薦入試			入学者	
	応募 者	受験 者	合格 者	入学 者	補欠 者	倍率	応募 者	受験 者	入学 者	総計	充足 率
2019年度 (73)	64	63	45	24	21	2.6	16	16	16	40	100
2020年度 (74)	59	59	34	18	16	4.2	26	26	26	44	110
2021年度 (75)	76	74	21	15	13	6.7	33	33	29	44	110
2022年度 (76)	92	85	31	25	21	3.5	16	16	16	42	105
2023年度 (77)	60	58	30	18	12	2.4	16	16	16	34	85.0

4. 地域別入学者数 ()内は男子学生再掲

年度・回生 入学者数		2019年度 73回生	2020年度 74回生	2021年度 75回生	2022年度 76回生	2023年度 77回生	
入学者合計		40 (4)	44 (1)	44 (4)	42 (5)	34 (3)	
栃木県		33 (4)	38 (1)	41 (4)	35 (4)	31 (3)	
県外計		7	6	3	7 (1)	3	
内 訳	関東	群馬県				2 (1)	
		茨城県	1				1
		埼玉県					
		千葉県					
		東京都					
	北海道・東北	福島県		1	1	1	
		山形県			1	2	
		宮城県	5	3	1	2	1
		岩手県					
		秋田県					
		青森県		2			
		北海道	1				
	兵庫						1

5. 看護師国家試験合格率推移

国家試験回数	卒業年度	卒業回生	受験者数	合格者数	不合格者数	合格率	全国3年課程 新卒合格率	機構 全国 3年 課程	全国 全体の 合格率 (既卒含)
第108回	H30	70	30	30	0	100	94.7	98.1	89.3
第109回	2019	71	32	31	1	96.9	94.7	98.2	89.2
第110回	2020	72	35	35	0	100	95.4	99.0	90.4
第111回	2021	73	37	36	1	97.3	96.5	98.9	91.3
第112回	2022	74	42	42	0	100	95.5	98.1	90.8
第113回	2,023	75	41	40	1	97.5	94.2	96.5	87.8

Ⅲ. 授業料等の推移

(円)

入学年度(会計年度)	入学金	授業料	教育教材費
2019年度～	180,000	400,000	30,000

VII

業 績

内科

【英文論文】

1. Junpei Komagamine, Nao Tanaka, Yasuhiro Kano. Shoulder Pain in a Postoperative Lung Cancer Patient. Am J Med. Oct12:S0002-9343(23):00612-5, 2023年10月

【和文論文】

1. 林田翔, 吉竹直人, 内藤裕史, 内藤恵理, 小池健郎, 上原慶太, 西川眞史 急速に増大し ESD を行った巨大胃過形成性ポリープの一例 Progress of Digestive Endoscopy. 102(1):65-67, 2023年6月

【著書・総説】

1. 瀬堂川拓, 矢吹拓. 1 かぜ症候群・急性上気道炎 病態生理と症例から学ぶ薬物療法・治療ガイド 実地医家必須の54疾患V呼吸器疾患 Medical Practice. 40:192-195, 2023年4月
2. 笠原悠佑, 矢吹拓. 特集硬すぎず、ゆるすぎないやさしい便秘・下痢サポート術便秘編(2) これってただの便秘ですか?~受診勧奨する?しない? 薬局. 74(6):1082-1085, 2023年5月
3. 矢吹拓, 山本祐, 青島周一. Common disease の処方箋ファイル-臨床経過から学ぶ 20 症例 「扉」 medicina. 60(6):802-803, 2023年5月
4. 矢吹拓, 青島周一. Common disease の処方箋ファイル-臨床経過から学ぶ 20 症例 CASE 1 高血圧-2型糖尿病の既往がある62歳男性. medicina. 60(6):804-809, 2023年5月
5. 矢吹拓, 青島周一. Common disease の処方箋ファイル-臨床経過から学ぶ 20 症例 CASE 14 高尿酸血症-生来健康な41歳男性. medicina. 60(6):888-892, 2023年5月
6. 矢吹拓. 多職種で取り組むポリファーマシー 臨牀と研究. 100(5):627-630, 2023年5月
7. 矢吹拓. 訪問薬剤管理指導と服薬管理(ポリファーマシーを含む) [私の治療] 週刊日本医事新報. (5171):42, 2023年6月
8. 加藤徹, 野出孝一. 性差医療の最新知識-長寿社会で増す重要性-Ⅲ.長寿社会における性差医療各論「糖尿病」 日本臨牀. 81(7):1013-1016, 2023年7月
9. 矢吹拓. 特集 とことん深めるライフストーリー 職業編 症状から仕事を妄想しよう 納豆を食べた後に…… 治療. 105(9):1116-1118, 2023年9月
10. 矢吹拓. 特集 ミミッカー症例からいかに学ぶか 各論: 思い出のミミッカー症例 真っ黒な壁のその奥に…… medicina. 60(10):1604, 2023年9月
11. 矢吹拓. 【患者さんの質問にどう答えますか?-言葉の意味を読み解きハートに響く返答集】 診療編 予防・治療 (Question 53) お薬が多すぎるので減らしたいです. どうすればよいですか? medicina. 60(11):1914-1915, 2023年10月

- 12.矢吹拓. 【患者さんの質問にどう答えますか?-言葉の意味を読み解きハートに響く返答集】医療制度編 (Question 66)「学会のため休診」とありましたが,学会って何をしているところですか? medicina. 60(11):1952-1953, 2023年10月
- 13.矢吹拓. 【患者さんの質問にどう答えますか?-言葉の意味を読み解きハートに響く返答集】医療制度編(Question 67)専門医って何ですか?認定医と専門医では何が違うのですか? medicina. 60(11):1954-1955, 2023年10月
- 14.矢吹拓. 【患者さんの質問にどう答えますか?-言葉の意味を読み解きハートに響く返答集】医療制度編 (Question 68)医師の間では,どのような意見が正しいとみなされるのですか? 60(11):1956-1957, 2023年10月
- 15.加藤徹, 野出孝一. 特集もう迷わない!循環器薬物処方 ~若手医師へ贈る熟練医の処方の考え方 Ⅲ. 実臨床で迷うことがある病態での薬物治療の実際 3妊娠時に重症高血圧が認められた患者での周産期の降圧療法~実際にどのように行っているか?Heart View. 27(12):131-134, 2023年11月
- 16.矢吹拓. 症例から学ぶ栄養素欠乏 南山堂, 2023年11月
- 17.加藤徹. 重篤副作用疾患別対応マニュアル 重症高血圧 厚生労働省「重篤副作用疾患別対応マニュアル」(厚労省 重篤副作用総合対策検討会) 1-27, 2023年12月
- 18.矢吹拓. 【総合内科医としてのインプレッシブ・ケース集-総合内科医はいるのか?】[Chapter 2]私のインプレッシブ・ケース (Case 3)先生に伝えなくてはいけないことがあるんです(解説) 内科. 133(1):21-24, 2024年1月
- 19.矢吹拓. 特集-“体験型”臨床クイズで習得する!-フィジカル診断エクセレンス-④脳神経疾患-「孫が胃腸炎なんです」総合診療. 34(1):34-36, 2024年1月
- 20.伊豆倉遙. 【一般内科外来, ひとりでできますか?よく出会う慢性疾患への評価・処方・指導と, 診察時間を最大限に活かすコツ】(第4章)外来診療の質がグッとよくなる Tips 患者さんを引き継ぐときのTips レジデントノート. 25(17):3245-3248, 2024年1月
- 21.官澤洋平, 大浦誠, 齋藤秀輝, 矢吹拓, 青島周一. SGLT2 阻害薬を通して薬と処方を考える 特集 実際どうなの? SGLT2 阻害薬 特別座談会(報告) 治療. 106(3):322-333, 2024年3月

【学会発表(講演・シンポジウム含む)】

国際学会

1. Singh K, Sliwa K, Nikhare K, Raspail L, Akter S, Talukder SH, Kato T, El Guerche-Séblain C, Shaikh N, Perel P, Prabhakaran D. Vaccination status and differences in clinical outcomes and long COVID symptoms among patients hospitalized with COVID-19:the WHF Covid-19 Long-term Study.9th ESWI Influenza Conference(口演)Valencia, 2023年9月17日-20日
2. Moritake Iguchi, Hiromichi Wada, Tsuyoshi Shinozaki, Masahiro Suzuki, Yoichi Ajiro,

Morihiro Matsuda, Akihiro Koike, Tomomi Koizumi, Masatoshi Shimizu, Yujiro Ono, Takashi Takenaka, Satoru Sakagami, Yukiko Morita, Kazuteru Fujimoto, Kazuya Yonezawa, Kazuro Yoshida, Akiyo Ninomiya, Toshihiro Nakamura, Junichi Funada, Yutaka Kajikawa, Yoishifumi Oishi, Toru Kato, Kazuhiko Kotani, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, Koji Hasegawa. Serial Measurement of Vascular Endothelial Growth Factor-D in Heart Failure: The PREHOSP-CHF Study. American Heart Association's Scientific Sessions 2023(ポスター)Philadelphia, 2023年11月11日-13日

国内学会①総会

1. 平岩卓. Streptococcus agalactiaeによる特発性細菌性胸膜炎の1例. 第97回日本感染症学会総会・学術講演会(ポスター)横浜市, 2023年4月30日
2. 伊豆倉遙, 田中奈央, 矢吹拓. 総合診療医による地域包括ケア病棟の立ち上げ. 第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(ポスター)豊田市, 2023年5月13日-14日
3. 山本栞里, 山口高史, 伊豆倉遙, 田中奈央, 小澤芳, 矢吹拓. Fox 徴候を契機に診断した腹直筋・腹斜筋血腫の一例. 第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(ポスター)豊田市, 2023年5月13日-14日
4. 和田嵩平, 大塚亮平, 吉田伸, 伊豆倉遙. 指導医たちのポートフォリオ発表会. 第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(シンポジウム)豊田市, 2023年5月14日
5. 矢吹拓. シンポジウム慢性疾患×行動経済学～ナッジを実装したケアを考える～第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(講演)豊田市, 2023年5月14日
6. 和田啓道, 篠崎毅, 鈴木雅裕, 網代洋一, 阪上学, 松田守弘, 船田淳一, 竹中孝, 米澤一也, 松原広己, 中村俊博, 藤本和輝, 小野裕二郎, 加藤徹, 二宮暁代, 中山匠, 前田香, 阿部充, 赤尾昌治, 長谷川浩二. 胸痛または呼吸困難を有するハイリスク日本人患者における閉塞性冠動脈疾患のリスク評価: The ANOX and EXCEED-J Studies. 第8回日本心血管協会(JCVA)学術集会(ポスター)京都市, 2023年6月10日
7. 和田啓道, 小谷和彦, 鈴木雅裕, 松田守弘, 網代洋一, 篠崎毅, 阪上学, 米澤一也, 船田淳一, 竹中孝, 中村俊博, 藤本和輝, 松原広己, 加藤徹, 中山匠, 前田優香, 井口守丈, 阿部充, 赤尾昌治, 長谷川浩二. 健常日本人の男女別・年齢別 GDF-15 基準上限値を用いたハイリスク日本人患者の死亡リスク評価. 第8回日本心血管協会(JCVA)学術集会(ポスター)京都市, 2023年6月10日
8. 中山匠, 篠崎毅, 鈴木雅裕, 網代洋一, 阪上学, 松田守弘, 船田淳一, 竹中孝, 米澤一也, 松原広己, 中村俊博, 藤本和輝, 小野裕二郎, 加藤徹, 二宮暁代, 前田優香, 阿部充, 赤尾昌治, 長谷川浩二, 和田啓道. ハイリスク日本人患者における HDL コレステロールと死亡リスクの関連の性差: The ANOX and EXCEED-J 5 Years Follow-up Studies. 第8回日本心血管協会(JCVA)学術集会(ポスター)京都市, 2023年6月10日
9. 矢吹拓, 鈴木真紀, 小林堯広. ケースで考える臨床現場のコミュニケーション. ACP (米国内科学会)日本支部年次総会・講演会2023(講演)オンライン, 2023年6月24日

- 10.矢吹拓. 医療現場から見た COVID-19 パンデミック. After/With コロナを考える～哲学・医学・法学の学際シンポジウム～(講演)宇都宮市, 2023年9月9日
- 11.Hiromichi Wada, Masahiro Suzuki, Morihiro Matsuda, Yoichi Ajiro, Tsuyoshi Shinozaki, Satoru Sakagami, Kazuya Yonezawa, Masatoshi Shimizu, Junichi Funada, Takashi Takenaka, Yukiko Morita, Toshihiro Nakamura, Kazuteru Fujimoto, Hiromi Matsubara, Toru Kato, Takumi Nakayama, Yuka Maeda, Kazuhiko Kotani, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, Koji Hasegawa. Impact of CKD on VEGF-D and Cardiovascular Mortality in Patients with Suspected or Known Coronary Artery Disease: The ANOX Study. 第88回日本循環器学会学術集会(口演)神戸市, 2024年3月8日-10日
- 12.Hiromichi Wada, Masahiro Suzuki, Morihiro Matsuda, Yoichi Ajiro, Tsuyoshi Shinozaki, Satoru Sakagami, Kazuya Yonezawa, Masatoshi Shimizu, Junichi Funada, Takashi Takenaka, Yukiko Morita, Toshihiro Nakamura, Kazuteru Fujimoto, Hiromi Matsubara, Toru Kato, Takashi Unoki, Daisuke Takagi, Kazuhiko Kotani, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, Koji Hasegawa. Impact of Diabetes on VEGF-D and Cardiovascular Mortality in Patients with Suspected or Known Coronary Artery Disease: The ANOX Study. 第88回日本循環器学会学術集会(ポスター)神戸市, 2024年3月8日-10日
- 13.鈴木雅裕, 小谷和彦, 松田守弘, 網代洋一, 篠崎毅, 阪上学, 米澤一也, 清水雅俊, 船田淳一, 竹中孝, 森田有紀子, 中村俊博, 藤本和輝, 松原広己, 加藤徹, 鶴木崇, 高木大輔, 阿部充, 赤尾昌治, 長谷川浩二, 和田啓道. Associations of Serum Amyloid A-low-densitylipoprotein Complex with All-cause and Causespecific Mortality in High-risk Patients: The ANOX Study. 第88回日本循環器学会学術集会(ポスター)神戸市, 2024年3月8日-10日

国内学会-②地方会

1. 林田翔, 小池健郎, 内藤裕史, 内藤恵理, 吉竹直人, 上原慶太, 鈴木慶一, 西川眞史, 河合陽. 集学的治療により救命し得た肝細胞癌十二指腸直接浸潤の一例. 第45回栃木県肝疾患談話会(口演)宇都宮市, 2023年7月22日
2. 内藤恵理, 吉竹直人, 林田翔, 内藤裕史, 小池健郎, 上原慶太. 大腸症例提示. 栃木 JETS 学術講演会 第10回消化管疾患検討会(口演)宇都宮市, 2023年8月26日
3. 内藤裕史, 吉竹直人, 林田翔, 内藤恵理, 小池健郎, 上原慶太, 鈴木慶一, 西川眞史. 胃穿孔と共に多臓器浸潤、脾膿瘍を合併した膵管内乳頭粘液性腺癌(IPMC)の1例. 第74回栃木県消化器内視鏡研究会(口演)宇都宮市, 2024年3月9日

【研究会・セミナーなど】

1. 矢吹拓. 内科/総合診療科症例検討セミナー. NHO 栃木医療センター地域医療研修センター宇都宮市医師会合同医療セミナー(口演)宇都宮市, 2024年2月15日

【研修会・講師・社会啓蒙活動・その他】

1. 伊豆倉遙. 当院の多職種チームで取り組んだ地域包括ケア病棟の立ち上げ. 地域医療連携講演会(口演)宇都宮市, 2023年7月6日

【座長・リーダー】

1. 大道卓也, 谷村夏姫, 西村涼, 山口高史. 指導医たちのポートフォリオ発表会. 第 14 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(コメンテーター)豊田市, 2023 年 5 月 14 日
2. 加藤徹. 特別講演座長. 宇都宮医師会学術講演会(座長)宇都宮市, 2023 年 6 月 15 日
3. 矢吹拓. 地域医療連携講演会座長. 地域医療連携講演(座長)宇都宮市, 2023 年 7 月 6 日
4. 足立太一. ポスター発表 座長 第22回日本マネジメント学会栃木支部学術集会(座長)宇都宮市, 2023 年 10 月 14 日

【司会】

1. 加藤徹. NHO 栃木医療センター地域医療研修センター宇都宮市医師会合同医療セミナー(司会)宇都宮市, 2024 年 2 月 15 日

小児科

【英文論文】

1. Naruhiko Ishiwada, Masayoshi Shinjoh, Yoshiki Kusama, Hirokazu Arakawa, Tomohiro Ohishi, Akihiko Saitoh, Akira Suzuki, Hiroyuki Tsutsumi, Junichiro Nishi, Tadashi Hoshino, Toshihiro Mitsuda, Isao Miyairi, Noriko Iwamoto-Kinoshita, Hisato Kobayashi, Kouichiro Satoh, Akihiko Shimizu, Kenichi Takeshita, Takaaki Tanaka, Daisuke Tamura, Osamu Tokunaga, Kentaro Tomita, Koo Nagasawa, Takanori Funaki, Muhehiro Furuichi, Ippei Miyata, Mizuki Yaginuma, Yoshio Yamaguchi, Shota Yamamoto, Suzuko Uehara, Tomomichi Kurosaki, Kenji Okada, Kazunobu Ouchi. Guidelines for the Management of Respiratory Infectious Diseases in Children in Japan 2022 Practice Guideline. *Pediatr Infect Dis J* 2023 Oct 1;42(10):e369-e376, 2023 年 10 月
2. Masayoshi Shinjoh, Munehiro Furuichi, Shinya Tsuzuki, Asef Iqbal, Naoya Fukushima, Sachiko Soen, Hiroyuki Fukushima, Ken Kobayashi, Go Yamada, Atsushi Narabayashi, Kenichiro Tsunematsu, Naonori Maeda, Motoko Shimoyamada, Makoto Yoshida, Yuu Kuramochi, Akimichi Shibata, Yoshio Yamaguchi, Mizuki Yaginuma, Takao Takahashi, Masahiro Ishikane, Norio Sugaya; Keio Pediatric Influenza Research Group. Effectiveness of inactivated influenza and COVID-19 vaccines in hospitalized children in 2022/23 season in Japan - The first season of co-circulation of influenza and COVID-19 *Vaccine* 2023 Jul 25;41(33):4777-4781, 2023 年 7 月

【著書・総説】

1. 山口禎夫. 一般社団法人日本小児感染症学会. 日常診療に役立つ 小児感染症マニュアル 2023 06 肺炎球菌. 東京医学社, 2023 年 12 月

【学会発表 (講演・シンポジウム含む)】

国内学会 総会

1. 新庄正宜, 古市宗弘, 郁春アセフ, 山田剛, 八木沼瑞紀, 小林健, 倉持由, 前田直則, 常松健一郎, 山口禎夫, 高橋孝雄, 菅谷憲夫. 小児へのインフルエンザワクチン接種による発症防止効果、2022-2023 年シーズン COVID-19 の流行と重なった初めてのシーズン 第 55 回日本小児感染症学会・学術集会(口演)名古屋市, 2023 年 11 月 26 日

【研修会・講師・社会啓蒙活動・その他】

1. 山口禎夫. 知って得する感染症の知識<新型コロナ、インフルエンザ、ノロウイルスを中心に> ~5 類移行前後で、何が変わりどう対峙していけばよいのか~ 大田原地区医師会学術講演会(講演)大田原市, 2023 年 9 月 12 日
2. 山口禎夫. 安全性を重視した少量段階的解除による食物アレルギー児の治療について~スキンケアの多様性も含めて~ アトピー性皮膚炎治療における位置づけを考える(講演)オンライン, 2023 年 9 月 14 日
3. 山口禎夫. COVID-19 の最新情報について 2023 年度第 2 回感染防止対策加算相互カンファレンス(講演)オンライン, 2023 年 9 月 20 日
4. 山口禎夫. COVID-19 のファミリーケア・今後の展望について ~早期診断・早期治療の重要性~COVID-19 治療を語る会(講演)オンライン, 2023 年 9 月 21 日
5. 山口禎夫. キノロン系薬についての質疑応答, 2023 年度第 3 回感染防止対策加算相互カンファレンス(講演)オンライン, 2023 年 11 月 15 日

【座長】

1. 山口禎夫. 特別講演座長. COVID-19 セミナー in 宇都宮(座長)オンライン, 2023 年 6 月 8 日
2. 山口禎夫. 一般演題(口演) 薬剤耐性菌検出法座長. 第 55 回 日本臨床微生物学会総会・学術集会(座長)横浜市, 2024 年 2 月 9 日-11 日
3. 山口禎夫. 特別講演座長. 感染症セミナー in 宇都~COVID-19/インフルエンザ診療を考える(座長)オンライン, 2024 年 3 月 1 日

【院内研修】

1. 山口禎夫. 新興・再興感染症への対応~5 類移行前後で、何が変わりどう対峙していけばよいのか~ 2023 年度第 2 回感染対策研修会(講演), 2023 年 12 月 14 日
2. 山口禎夫. MRSA とその治療薬バンコマイシンの新しい血中濃度調整方法について 2023 年度第 2 回感染対策研修会(講演), 2023 年 12 月 1 日

外科

【英文論文】

1. Yusuke Yoshikawa, Keiichi Suzuki, Takeo Hashimoto, Kenshi Omagari, Taketo Sasaki,

Yusuke Tomita, Akihiko Tamura. Clinical complete response maintained for more than 5 years after aggressive chemoradiotherapy for advanced rectal cancer with necrotizing fasciitis: a case report J Surg Case Rep 2023 Jun 15;2023(6): rjad292, 2023年6月

2. Keiichi Suzuki, Hirofumi Naito, Eri Naito, Taketo Sasaki, Yusuke Yoshikawa, Kenshi Omagari, Naoto Yoshitake, Takero Koike, Takeo Hashimoto, Akihiko Tamura Evaluation of the Validity of Endoscopic Transpapillary Gallbladder Drainage for Acute Cholecystitis Based on the Tokyo Guidelines 2018 J Clin Gastroenterol 2023 May 24, 2023年5月

【和文論文】

1. 富田祐輔, 吉川祐輔, 鈴木慶一, 橋本健夫, 尾曲健司, 田村明彦. 腹腔鏡下手術に蛍光尿管カテーテルが有用であったS状結腸憩室穿通の1例. 日本臨床外科学会. 84(5):779-783, 2023年5月

【学会発表】

国内学会-①総会

1. 吉川三緒, 小林英之, 田村明彦. 骨・軟骨化生を伴う化生癌の1例. 第31回日本乳癌学会学術総会(ポスター)横浜市, 2023年6月30日
2. Keiichi Suzuki. Two resected cases of pancreatic lymphoepithelial cyst. 第35回日本肝胆膵外科学会学術集会(ポスター)東京都, 2023年7月1日
3. 富田祐輔, 鈴木慶一, 佐々木健人, 吉川祐輔, 尾曲健司, 橋本健夫, 田村明彦. 胃浸潤した黄色肉芽腫性腫瘍の2症例. 第78回日本消化器外科学会総会(ミニオーラル)函館市, 2023年7月12日
4. 吉川祐輔, 鈴木慶一, 橋本健夫, 尾曲健司, 佐々木健人, 富田祐輔, 岡林剛史, 北川雄光, 田村明彦. 局所進行大腸癌(cT4 大腸癌)における術前診断の正誤が手術アウトカムに与える影響に関する検討. 第78回日本消化器外科学会総会(ミニオーラル)函館市, 2023年7月13日
5. 鈴木慶一, 富田祐輔, 佐々木健人, 吉川祐輔, 尾曲健司, 橋本健夫, 田村明彦. 総胆管結石に対する外科的治療の介入. 第59回日本胆道学会学術集会(ポスター)札幌市, 2023年9月15日
6. 岡田純一, 鈴木慶一, 門野政義, 尾曲健司, 橋本健夫, 田村明彦. 脾腫瘍に対しての手術で確定診断し得た、脾サルコイドーシスの一例. 第85回日本臨床外科学会総会(ポスター)岡山市, 2023年11月16日
7. 岡田純一, 門野政義, 鈴木慶一, 尾曲健司, 橋本健夫, 田村明彦. 術前化学療法にアレルギーが出現し、やむなく腹腔鏡下膈会陰式直腸切断術を施行した直腸巨大GISTの一例. 第36回日本内視鏡外科学会総会(ミニオーラル)横浜市, 2023年12月9日
8. 尾曲健司, 岡田純一, 門野政義, 橋本健夫, 鈴木慶一, 田村明彦. 免疫抑制状態にない高齢者のサイトメガロウイルス腸炎の一例. 第36回日本外科感染症学会総会学術集会.(口演)北九州市,

2023年12月16日

9. 尾曲健司, 岡田純一, 門野政義, 橋本健夫, 鈴木慶一, 田村明彦. 術前に診断した早期の胃 MINEN の1例. 第96回日本胃癌学会総会(口演)京都市, 2024年3月1日
10. 岡田純一, 門野政義, 鈴木慶一, 尾曲健司, 橋本健夫, 田村明彦. 当院における胆嚢捻転症の治療経験. 第60回日本腹部救急医学会総会(口演)北九州市, 2024年3月21日

国内学会-②地方会

1. 岡田純一, 鈴木慶一, 門野政義, 尾曲健司, 橋本健夫, 田村明彦. 術前診断に苦慮した限局性結節性過形成の一症例. 第142回栃木県臨床外科集談会(口演)オンライン, 2023年6月24日
2. 岡田純一, 門野政義, 橋本健夫, 鈴木慶一, 田村明彦. 大量粘液のために術前の胆管炎管理に難渋した胆管内乳頭状腫瘍の一切除例. 第143回栃木県臨床外科集談会(口演)オンライン, 2024年3月1日

整形外科

【学会発表(講演・シンポジウム含む)】

国内学会(総会)

1. 立山宏一, 大矢昭仁, 立之芳裕, 藤江厚廣, 金治有彦, 二木康夫, 松本守雄, 中村雅也. 人工股関節全置換術患者の骨粗鬆症有病率と骨密度が術後システム沈下に与える影響. 第96回日本整形外科学会学術総会(ポスター)横浜市, 2023年5月11日-14日
2. 立山宏一. 骨折リエゾンサービス導入による大腿骨近位部骨折後の骨粗鬆症治療導入率の変化. 第50回日本股関節学会学術集会(口演)福岡市, 2023年10月28日

【研究会】

1. 立山宏一. 骨折合術術後10日目に動脈塞栓術を要した大腿骨頸部骨折の1例. 第4回大腿骨近位部骨折術後を考える会 in 栃木(口演)オンライン, 2024年3月8日

【座長】

1. 内田勲. 特別講演座長. 第4回大腿骨近位部骨折術後を考える会 in 栃木(座長)オンライン, 2024年3月8日
2. 吉田宏樹. 症例検討会座長. 第74回栃木上肢の外科研究会(座長)壬生町, 2024年3月21日

脳神経外科

【学会発表(講演・シンポジウム含む)】

国内学会(総会)

1. 増田典弘, 塙郁美, 山口ふき江, 田野實しのぶ, 高橋規子, 金沢えみ子, 石原雅行, 足立太一, 安田貢. 栃木県内2病院合同の蘇生コース開催と院内職員に対する救急蘇生教育~その教育効果とコ

コロナ禍における蘇生教育の問題点 第77回国立病院総合医学会(シンポジウム)広島市, 2023年10月21日

2. 中屋雅人, 田村亮太, 北村洋平, 植田良, 戸田正博. 下垂体腺腫摘出における鼻腔・副鼻腔を意識した術前簡易シミュレーションの確立および摘出関連因子の解析. 第30回日本神経内視鏡学会(口演)名古屋市, 2023年11月16日
3. 佐々木光, 北村洋平, 中屋雅人, 中江俊介, 大場茂生, 西山悠也, 戸田正博, 廣瀬雄一. 乏突起膠腫に対する術前化学療法を応用した段階的切除戦略. 第41回日本脳腫瘍学会(口演)新潟市, 2023年12月4日
4. 中屋雅人, 植田良, 田村亮太, 北村洋平, 戸田正博. テモゾロミド投与が奏功した下垂体癌の1例: 下垂体癌の治療マネジメント再考. 第34回日本間脳下垂体腫瘍学会(シンポジウム)名古屋市, 2024年2月16日

【研究会】

1. 榎本卓哉. 慢性硬膜下血腫に対する開頭手術の検討. 第27回KNC 脳疾患研究会(口演)東京都, 2023年11月18日
2. 中屋雅人, 植田良, 戸田正博. 症候性鞍部くも膜嚢胞に対する経鼻・経鞍結節内視鏡手術の有用性. 第11回手技にこだわる脳神経外科ビデオカンファランス(口演)東京都, 2024年1月27日
3. 榎本卓哉. 慢性硬膜下血腫に対する開頭手術の検討. Neuro Surgery Forum(口演)宇都宮市, 2024年2月10日
4. 中屋雅人. 特定症例に対するクラソセントンの適正使用について. ピヴラッツ講演会(口演)宇都宮市, 2024年3月14日

【座長】

1. 石原雅行. 一般演題座長 Neuro Surgery Forum(座長)宇都宮市, 2024年2月10日

小児外科

【英文論文】

1. Megumi Kobayashi, Makoto Suzuki, Yukiko Toya, Atsushi Matsumoto, Akira Sasaki. Oral synechia with complete obstruction of the oral cavity and laryngopharynx *Pediatr Int* 2023 Jan-Dec;65(1):e15555, 2023年4月
2. Megumi Kobayashi, Misako Hirai, Makoto Suzuki, Akira Sasaki. Tracheostomy for the pediatric patient with fibrodysplasia ossificans progressiva: a case report. *Surg Case Rep* 2024 Mar 15;10(1):61, 2024年1月

【和文論文】

1. 小林めぐみ, 矢内俊裕, 田金恵, 小野寺千夏, 石川健, 鈴木信, 佐々木章. 新生児期に急性腎後性腎不全に陥った先天性中部尿管狭窄症を伴う機能的単腎の 1 例. 日本小児外科学会雑誌. 59(2):212-216, 2023 年 4 月
2. 角掛和音, 鳥谷由貴子, 小林めぐみ, 松本敦, 赤坂真奈美. 腸重積の診断と術後人工肛門関連合併症の管理が困難であった超低出生体重の女児例. 岩手医学雑誌 75(1):35-41, 2023 年 4 月
3. 中村繁, 森田祐司, 酒井欣男, 小林めぐみ. 内視鏡下注入療法 of 長期成績 -systematic-multisite hydrodistension implantation technique (SMHIT) の 10 年 -Japanese Journal of Endourology and Robotics. 36(1):32-39, 2023 年 5 月
4. 小林めぐみ, 矢内俊裕, 田金恵, 小野寺千夏, 古川ひろみ, 石川健, 鈴木信, 佐々木章. 膀胱憩室切除および膀胱皮膚瘻造設が有用であった Menkes 病の 1 例. 日本小児泌尿器科学会雑誌. 32(1):96-100, 2023 年 6 月
5. 宮城久之, 田中潔, 島秀樹, 鈴木完, 中目和彦, 好沢克, 坂井幸子, 臼井秀仁, 小林めぐみ, 米倉竹夫. 「2022 年度 新型コロナウイルス感染症による小児外科診療への影響アンケート調査」報告. 日本小児外科学会雑誌. 59(7):1119-1126, 2023 年 12 月

【学会発表（講演・シンポジウム含む）】

国内学会-①総会

1. 小林めぐみ, 小山亮太, 鈴木信, 佐々木章. 学童期に根治術を行った Extensive Aganglionosis の 1 例 A Case of Extensive Aganglionosis with Radical Surgery in School Age. 第 60 回日本小児外科学会学術集会(ポスター)大阪市, 2023 年 6 月 2 日
2. 小山亮太, 田金恵, 小林めぐみ, 鈴木信, 佐々木章. 下腹壁原発ユーイング様肉腫の一幼児例 An Infantile Case of Primary Ewing-like Sarcoma of the Lower Abdominal Wall. 第 60 回日本小児外科学会学術集会(ポスター)大阪市, 2023 年 6 月 2 日
3. 鈴木信, 田金恵, 小山亮太, 小林めぐみ, 佐々木章. 完全重複腎盂尿管を有する膀胱尿管逆流症に対する気膀胱下膀胱尿管新吻合術. 第 60 回日本小児外科学会学術集会(ビデオセッション)大阪市, 2023 年 6 月 2 日
4. 菅原啓司, 西見早映子, 田金星都, 小野寺千夏, 塩畑健, 古川ひろみ, 和田泰格, 石川健, 赤坂真奈美, 小林めぐみ, 矢内俊裕. 早期の膀胱鏡検査が必要であったと考えられた閉塞性異所開口尿管を伴う低形成異形成腎の女児例. 第 58 回日本小児腎臓病学会学術集会(口演)大阪市, 2023 年 7 月 1 日
5. 土屋繁国, 松本敦, 高清水奈央, 鳥谷由貴子, 外館玄一郎, 赤坂真奈美, 寺田幸, 川村花恵, 羽場巖, 岩動ちず子, 小山理恵, 馬場長, 小林めぐみ, 平井みさ子. 重度の呼吸障害を伴った先天性上下顎癒合症. 第 59 回日本周産期・新生児医学会総会学術集会(口演)名古屋市, 2023 年 7 月 9 日

国内学会-②地方会

1. 小林めぐみ, 渡邊峻, 城崎浩司, 中村繁, 金光将史, 石井とも, 山口禎夫. 腹部超音波検査を行い早期診断、治療に至った症例. 第 161 回日本小児科学会栃木県地方会(口演)壬生町, 2024 年 3 月 3 日

2. 小林めぐみ, 渡邊峻, 城崎浩司, 中村繁, 金光将史, 石井とも, 山口禎夫. 急性腹症における超音波検査の有用性について. 栃木県小児科カンファレンス(口演) オンライン, 2024年3月15日

【研修会】

1. 小林めぐみ. 乳児健診に必要な泌尿器科診療. 乳児健診委託医療機関研修会(講演) 宇都宮市, 2024年2月14日

耳鼻咽喉科

【英文論文】

1. Satoe Takahashi, Takashi Kojima, Koichiro Wasano, Kazuaki Homma. Functional Studies of Deafness-Associated Pendrin and Prestin Variants. Int J Mol Sc 2024 Feb 27;25(5):2759, 2024年2月

【学会発表（講演・シンポジウム含む）】

国内学会(総会)

1. 小島敬史, 和佐野浩一郎. 急性内耳障害に遅発性顔面神経麻痺を併発し、術後性脳炎を認めた緊張部型真珠腫の1例. 第33回日本耳科学会総会・学術講演会(口演) 高崎市, 2023年11月2日
2. 辺土名貢, 西山崇経, 小島敬史, 細谷誠, 島貫茉莉江, 若林毅, 大石直樹, 小澤宏之. アブミ骨固着症手術症例に関する検討. 第124回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会(口演) 福岡市, 2023年5月18日

精神科

【英文論文】

1. Michitaka Funayama, Toshihiro Taira, Yoshinori Saeki, On Kato, Shiro Suda, Norio Yasui-Furukori, Sachiko Anamizu, Koichi Sato, Hideta Muroi, Naoko Satake, Hiraki Koishikawa, Shigeki Sato, Katsuji Nishimura. Enhancing functionality of psychiatric department in general hospital without psychiatric ward: Role of full-time psychiatrist Asian Journal of Psychiatry Epub 2023 Aug19:89:103751, 2023年8月
2. Tomohiro Omori, Michitaka Funayama, Sachiko Anamizu, Mei Ishikawa, Richi Niida, Hajime Tabuchi. A Selective Hand Posture Apraxia in an Individual With Posterior Cortical Atrophy and Probable Corticobasal Syndrome Cogn Behav Neurol2023 Jun1;36(2):118-127, 2023年6月

【著書・総説】

1. 池田学, 穴水幸子. 第三章 症候学 各論(4) 遂行機能障害. 症候学から見極める認知症. 111-115, 2024年1月

【学会発表（講演・シンポジウム含む）】

国内学会(総会)

1. 大藤千春, 大森智裕, 小林絵里子, 穴水幸子, 角田巨. 図形を逆転して描く、同時失認が疑われる一例. 第47回日本高次脳機能障害学会学術総会(口演) 仙台市, 2023年10月28日
2. 大森智裕, 大藤千春, 小林絵里子, 穴水幸子, 角田巨. 同時失認の細部有意な視覚処理様式は、刺激対象の要因の影響を受けるか? 第47回日本高次脳機能障害学会学術総会(口演) 仙台市, 2023年10月28日
3. 山本小緒里, 小西海香, 田中春奈, 江口洋子, 佐竹祐人, 池上正斗, 葛西有代, 菊地尚久, 三村悠, 穴水幸子. 2010年以降の本邦の社会的出来事に関する「遠隔記憶検査」更新版の開発-時間勾配の検討-第47回日本高次脳機能障害学会学術総会(口演) 仙台市, 2023年10月28日

【研修会・講師・社会啓蒙活動・その他】

1. 穴水幸子. 6. 注意・遂行機能の障害. 日本高次脳機能障害学会 2023年夏期教育研修講座(講師) 大阪市, 2023年8月27日
2. 山中隆成, 山中えま, 大塚尚, 穴水幸子. 現代日本画家によるインスタレーション. the UT ART Project 東京大学総合図書館.(主催) 東京都, 2023年12月6日-8日

【座長】

1. 穴水幸子. (特別講演) 不眠症治療の基礎知識. 不眠症マネジメントセミナー〜処方箋依存をつくらないための対策〜(座長) 宇都宮市, 2023年9月7日
2. 穴水幸子. ポスター: 変性性認知症. 第47回日本高次脳機能障害学会学術総会(口演) 仙台市, 2023年10月28日
3. 穴水幸子. シンポジウム13 認知症家族介護者の過度な感情表出(高EE)に対する感情支援介入について考える. 第42回日本認知症学会学術集会(座長) 奈良市, 2023年11月24日
4. 穴水幸子. (特別講演) 精神科病院における認知症診療. 認知症と不眠症を考える会(座長) 宇都宮市, 2024年3月19日

皮膚科

【和文論文】

1. 小松崎ゆき, 高橋英至, 嶋岡弥生. ニコチン酸による水疱型薬疹の1例. 皮膚科の臨床 65(7):1113-1116, 2023年6月

【座長】

1. 高橋英至. JAK 阻害薬と地域連携. 地域連携を考える会(ディスカッサント)オンライン, 2023年5月17日
2. 高橋英至. Lily Psoriasis Web Seminar 講演. Lily Psoriasis Web Seminar (座長) 宇都宮市, 2023年6月21日

歯科口腔外科

【英文論文】

1. Kentaro Nishi, Manabu Yamada, Takeshi Karube, Shunsuke Ochiai, Seiji Asoda, Kenichiro Suga. Laryngeal abscess formation secondary to utilization of nasogastric tube in oral cancer patient: A case report Int J Case Rep Images 2023 Ederium Journals;14(2):63-68, 2023年9月

【和文論文】

1. 中山詩織, 磐田翔, 安井佑太, 荒木大輔, 山田学, 須賀賢一郎. 上顎歯科治療に継発した広範な皮下気腫および縦隔気腫の2例. 栃木県歯科医学会誌 75:29-33, 2023年4月

【著書・総説】

1. 岩淵博史, 小林隆太郎, 石垣佳希, 今井健一. エビデンスに基づく歯科診療における 医療関連感染対策実践マニュアル 3歯科診療で用いられる消毒薬 1 消毒薬の基礎 16-23, 2023年6月
2. 岩淵博史, 今井裕, 栗田浩, 一般社団法人日本有病者歯科医療学会. 歯科医療安全管理マニュアル V. 感染管理 3. 標準予防策(スタンダードプリコーション) 5. 血液・体液曝露(針刺し, 切創, 粘膜曝露) 6. 予防接種・抗体価. 72-74, 77-80, 2023年12月
3. 岩淵博史, 一般社団法人日本感染症学会・公益社団法人日本化学療法学会, JAID/JSC 感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会. JAID/JSC 感染症治療ガイド 2023 XV. 菌性感染症、口腔カンジダ症、抜歯後 SSI 予防 A. 菌性感染症 A-2. 菌性上顎洞炎. 363, 2023年11月
4. 岩淵博史, 金子明寛. 戻ってきた、何で? ” 疑問点解消” 歯科逆引き医薬品集, 2023年9月

【学会発表(講演・シンポジウム含む)】

国内学会-①総会

1. Kayoko Ito, Hiroshi Iwabuchi, Seiji Nakamura, Haruka Tohara, Shuji Toya, Kazuhiko Yamamoto, Toshihiro Yamauchi, Shigeru Watanabe. Japanese New classification for xerostomia. 12th IAGG Asia/Oceania Regional Congress2023(口演)横浜市, 2023年6月12日-14日
2. 中山詩織, 下濱啓, 細野大, 磐田翔, 安井佑太, 山田学, 須賀賢一郎. 猫ひっかき病が疑われた頸部リンパ節炎の1例. 第33回日本口腔内科学会, 第32回日本口腔感染症学会, 第36回日本口腔診断学会, 第43回日本歯科薬物療法学会(口演)宇都宮市, 2023年9月22日
3. 岩淵博史. シンポジウム3 歯科における適応外薬への対応「歯科における適応医薬品の現状と課題」第33回日本口腔内科学会, 第32回日本口腔感染症学会, 第36回日本口腔診断学会, 第43回日本歯科薬物療法学会(シンポジウムコーディネーター, シンポジスト)宇都宮市, 2023年9月22日
4. 岩淵博史. 歯科衛生士シンポジウム 歯科衛生士が行う医療安全管理、院内感染対策、医薬品

安全管理、医療機器安全管理「歯科診療所の医薬安全管理における歯科衛生士の役割」第 33 回日本口腔内科学会、第 32 回日本口腔感染症学会、第 36 回日本口腔診断学会、第 43 回日本歯科薬物療法学会(シンポジスト)宇都宮市, 2023 年 9 月 24 日

5. 岩渕博史. 口腔乾燥症の新分類と診断・治療法 唾液分泌促進薬の使い方. 第 68 回日本口腔外科学会総会・学術大会(ミニレクチャー)大阪市, 2023 年 11 月 8 日
6. 岩渕博史. 抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン 2025 年度版改定作業について. 第 33 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会(教育講演)新潟市, 2024 年 3 月 9 日

国内学会-②地方会

1. 下濱啓, 細野大, 中山詩織, 安井佑太, 山田学, 須賀賢一郎. 歯性感染症から波及した咀嚼筋隙膿瘍の 2 症例. 第 76 回栃木県歯科医学会(口演)宇都宮市, 2023 年 11 月 3 日
2. 細野大. 薬剤関連顎骨壊死(MRONJ)の診かた、治し方. 第 270 回歯科口腔外科症例検討会(口演)宇都宮市, 2024 年 3 月 21 日
3. 中山詩織. 直接経口抗凝固薬(DOAC)服用患者の止血管理. 第 270 回歯科口腔外科症例検討会(口演)宇都宮市, 2024 年 3 月 21 日
4. 山田学. 当科における口腔がん治療の実際. 第 270 回歯科口腔外科症例検討会(口演)宇都宮市, 2024 年 3 月 21 日
5. 安井佑太. 顎骨中心性扁平上皮癌と当科での TruMatch system の使用経験について. 第 270 回歯科口腔外科症例検討会(口演)宇都宮市, 2024 年 3 月 21 日

【座長・コーディネーター】

1. 岩渕博史. 「小児の口腔ケア」第 20 回日本口腔ケア学会・学術大会第 3 回国際口腔ケア学会総会・学術大会(コーディネーター)東京都, 2023 年 4 月 21 日
2. 須賀賢一郎. 一般口演「口唇裂二次手術」座長. 第 47 回日本口蓋裂学会総会・学術集会(座長)東京都, 2023 年 5 月 26 日
3. 岩渕博史. 第 33 回日本口腔内科学会、第 32 回日本口腔感染症学会、第 36 回日本口腔診断学会、第 43 回日本歯科薬物療法学会(大会長)宇都宮市, 2023 年 9 月 22 日-24 日
4. 岩渕博史. 教育講演 1 AYA 世代におけるがん・生殖医療. 第 33 回日本口腔内科学会、第 32 回日本口腔感染症学会、第 36 回日本口腔診断学会、第 43 回日本歯科薬物療法学会(座長)宇都宮市, 2023 年 9 月 22 日
5. 岩渕博史. ランチョンセミナー1「デンタペンを用いた近位伝達麻酔法」第 33 回日本口腔内科学会、第 32 回日本口腔感染症学会、第 36 回日本口腔診断学会、第 43 回日本歯科薬物療法学会(座長)宇都宮市, 2023 年 9 月 22 日
6. 岩渕博史. 一般口演 粘膜疾患 2. 第 68 回日本口腔外科学会総会・学術大会(座長)大阪市,

2023年11月10日

7. 岩淵博史 一般セッション 周期口腔管理 第33回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会(座長)新潟市, 2024年3月9日

栄養管理室

【学会発表(講演・シンポジウム含む)】

国内学会(地方会)

1. 岩崎亮, 百瀬楓華, 須田聖夏, 清水亮吾, 土屋尚子, 上原慶太. 地域医療連携システム「C@RNA」を用いた栄養指導の現状と今後の課題 第22回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会(ポスター)宇都宮市, 2023年10月14日

【研修会】

1. 岩崎亮, 百瀬楓華, 須田聖夏, 清水亮吾, 土屋尚子. 給食の業務委託について. 関東信越国立病院管理栄養士協議会栃木地区研修会(口演)宇都宮市, 2024年1月19日
2. 須田聖夏, 百瀬楓華, 清水亮吾, 土屋尚子, 岩崎亮. 食物アレルギー対応の見直しについて. 関東信越国立病院管理栄養士協議会栃木地区研修会(口演)宇都宮市, 2024年1月19日
3. 百瀬楓華, 須田聖夏, 清水亮吾, 土屋尚子, 岩崎亮. FLS チームにおける管理栄養士の対応と今後の課題. 関東信越国立病院管理栄養士協議会栃木地区研修会(口演)宇都宮市, 2024年1月19日

【院内研修】

1. 清水亮吾. 褥瘡と栄養. 褥瘡対策新人看護師研修(院内研修), 2023年11月23日
2. 岩崎亮. 当院の嚥下食について. 摂食嚥下・口腔ケアチームリンクナース会(院内研修), 2023年12月27日
3. 清水亮吾. 褥瘡と栄養. 褥瘡対策チームワンポイントレッスン(院内研修), 2024年1月26日

放射線科

【英文論文】

1. Masashi Endo, Yukiko Fukuda, Kohei Okada, Kazunari Ogawa, Michiko Nakamura, Satoru Takahashi, Eri Murakami, Chiaki Shibayama, Masahiro Kawahara, Keiko Akahane, Ryutarō Onaga, Takafumi Nagatomo, Takeharu Kanazawa, Hiroshi Nishino, Harushi Mori, Katsuyuki Shirai. Clinical Outcomes of Radiotherapy for Stage 1 Glottic Carcinoma: Comparing Accelerated Hyperfractionation and Once-daily Fractionation. *In Vivo*. 2023 SepOct;37(5):2320-2326, 2023年9月
2. Yuko Otake, Atsushi Ugajin, Hironori Takahashi, Yuya Tanaka, Hiroyuki Fujii, Mitsuru

Matsuki, Harushi Mori. Prediction of antenatal bleeding and preterm deliveries using placental magnetic resonance imaging in patients with placenta previa. Jpn J Radiol 2024 Jun;42(6):630-638.Epub 2024 Feb 19, 2024年2月

【学会発表（講演・シンポジウム含む）】

国内学会(地方会)

1. 小林幸太, 鈴木敬, 江連美波, 村上恵理, 藤田克也, 都丸好孝. 新規配属技師が画像誘導放射線治療のタスク・シフトを担うための経験と精度. 第22回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会(ポスター)宇都宮市, 2023年10月14日
2. 齊藤公平, 藤田克也, 宇賀神敦, 河合陽. 当院におけるCT装置別患者被ばく線量の推移と診断参考レベル DRLs2020 との比較. 第22回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会(ポスター)宇都宮市, 2023年10月14日

【研修会・講師・社会啓蒙活動・その他】

1. 村上恵理. 今日から実践したくなる健康評価法～アップしよう!自分の評価力～第21回健康企画・評価研修会住民の心身トータルの健康を目指した事業の企画法(講師)宇都宮市, 2023年8月4日
2. 村上恵理. お医者さんといっしょに、親子で考える「生・老・病・死」—自分らしく生きるために. とちぎこども未来創造大学講座(講師)宇都宮市, 2023年8月23日

【司会】

1. 村上恵理. After With コロナを考える～哲学・医学・法学の学際シンポジウム～(総合司会)宇都宮市・オンライン, 2023年9月9日

【院内研修】

1. 上垣俊祐. 2023年度第1回医療安全管理研修会(院内研修), 2023年6月14日

リハビリテーション科

【学会発表（講演・シンポジウム含む）】

国内学会-①総会

1. 山越妃華. 橋梗塞失調性構音障害を呈した症例に対し呼吸調整訓練を中心に介入した1例. 第77回国立病院総合医学会(ポスター)広島市, 2023年10月21日

国内学会-②地方会

1. 稲川浩充, 高橋友香, 石崎弘登, 八崎拓朗, 浜野美月, 齊藤博人, 菅原寛. 第22回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会(ポスター)宇都宮市, 2023年10月14日

臨床検査科

【学会発表（講演・シンポジウム含む）】

国内学会-①総会

1. 高橋理紗, 大橋有里, 阿部好文. 皮膚保護剤が尿沈渣に与える影響. 第72回日本医学検査学会(口

演)高崎市, 2023年5月20日

国内学会-②地方会

1. 李恩恵, 人見香奈, 松岡愛美, 阿部弥生, 佐藤優美, 小川裕子, 宮澤寿幸, 瀬戸茂誉, 小島敬史. 当院における補聴器適合検査の有用性と今後の課題. 第51回国臨協関信支部学会(口演)オンライン, 2023年9月2日
2. 佐藤優美, 人見香奈, 松岡愛美, 阿部弥生, 李恩恵, 小川裕子, 宮澤寿幸, 瀬戸茂誉, 伊豆倉遥. 頸部回旋時の頸動脈超音波検査により Bow hunter 症候群が疑われた1例. 第51回国臨協関信支部学会(口演)オンライン, 2023年9月2日

【院内研修】

1. 小川佳亮. 耐性菌対策と抗菌薬適正使用について~細菌検査からわかること~2023年度第2回感染対策研修会(講演), 2023年12月14日

薬剤部

【著書・総説】

1. 荻野万人. 理想の薬剤師像. 栃木県病院薬剤師会誌. 133:8-9, 2024年1月

【学会発表(講演・シンポジウム含む)】

国内学会(総会)

1. 加藤慎也, 高橋匠, 岡野和成, 荻野万人. 地域包括ケア病棟での薬剤師のかかわりと今後の展望. 第77回国立病院総合医学会(ポスター)広島市, 2023年10月21日

【研修会・講師・社会啓蒙活動・その他】

1. 塩崎友治. 栃木医療センターにおける医療安全の取り組みについて. 国立病院機構関東信越グループ薬剤師会(講演)オンライン, 2023年9月6日
2. 杉本達也. PBPM とトレーシングレポートの状況報告. 2023年度第1回薬薬連携会(講演)オンライン, 2023年11月27日
3. 高橋弥希. 乳がん内服薬レジメン-副作用管理-. 2023年度第1回薬薬連携会(講演)オンライン, 2023年11月27日

【院内研修】

1. 塩崎友治. インスリンについて. 2023年度第1回安全管理研修会(講演)院内研修, 2023年6月14日
2. 高橋匠. 抗菌薬使用の指標とその動向~JSIPHEによるデータからみえること~2023年度第1回感染対策研修会(講演)院内研修, 2023年7月18日
3. 杉本達也. ネオシールド(閉鎖式器具)を用いた抗がん剤調製手技について(講演)院内研修, 2023年7月19日

4. 宮木美穂, 加藤信也. ポリファーマシー研修報告. 薬剤部勉強会(講演)院内研修, 2023年9月28日
5. 浅見由衣. 短腸症候群患者の栄養介入に難渋した一例. 薬剤部勉強会(講演)院内研修, 2023年11月16日
6. 塩崎友治. ハイリスク薬・血管外漏出に注意する薬剤・薬剤に関するインシデント事例について. 静脈注射研修(講演)院内研修, 2023年11月17日
7. 越田佐良紗. 多職種で取り組む褥瘡対策. 褥瘡対策新人看護師研修(講演)院内研修, 2023年11月17日
8. 塩崎友治. 持参薬運用マニュアルの改訂について. 薬剤部勉強会(講演)院内研修, 2023年12月21日
9. 高橋弥希. 緩和ケアチームに参加して. 薬剤部勉強会(講演)院内研修, 2023年12月21日
10. 高橋匠. バンコマイシンTDMソフトウェアについて. 薬剤部勉強会(講演)院内研修, 2024年1月18日
11. 松岡美央. ASTで学んだこと. 薬剤部勉強会(講演)院内研修, 2024年1月18日
12. 越田佐良紗. パンテージ固定と薬剤滞留性について. 褥瘡チーム内検討会(講演)院内研修, 2024年2月12日
13. 越田佐良紗. お薬の飲ませ方、もう一度考えてみませんか?～簡易懸濁のメリット・注意点を踏まえて～2階病棟勉強会(講演)院内研修, 2024年3月22日

看護部

【報告】

1. 丸山沙緒里. 地域包括ケアと感染対策栃木医療センターの地域で取り組む感染対策⑩～宇都宮医療圏(宇都宮市)で取り組む合同カンファレンスの体制作り～丸石感染対策 NEWS4:14-16, 2023年9月

【学会発表(講演・シンポジウム含む)】

国内学会-①総会

1. 藤田美樹, 鈴木美帆. 新型コロナウイルス患者受け入れ病棟看護師のストレスと対処法. 第77回国立病院総合医学会(ポスター)広島市, 2023年10月21日
2. 小野瀬仁美. 地域包括ケア病棟開設・運営についての取り組み-病棟看護師長の立場から-第77回国立病院総合医学会(ポスター)広島市, 2023年10月20日

3. 上梶奈央子, 渡辺恵美子. 病棟看護師長に求められる病床管理-コロナ禍におけるベッドコントロールを経験して-第 77 回国立病院総合医学会(ポスター)広島市, 2023 年 10 月 20 日
4. 村上真知子, 菅野妃穂子, 佐藤享子. 身体拘束低減に向けた取り組み-当院における行動心理症状に対するケアマニュアルの有用性の検討-第 77 回国立病院総合医学会(ポスター)広島市, 2023 年 10 月 20 日

国内学会-②地方会

1. 野地志穂, 内田勲, 深澤英明, 山本昭子, 山岸正幸, 岩崎充, 百瀬楓華, 川村勇太, 宮木美穂. 骨折リエゾンサービスチームの活動と地域共生社会に向けた今後の課題. 第 22 回日本医療マネジメント栃木支部学術集会(ポスター)宇都宮市, 2023 年 10 月 14 日
2. 丸山沙緒里, 小島貴子, 菅家友規, 富井洋介, 菊池優子, 齋藤恵子, 多田理恵, 大川美樹, 村上広美, 山口禎夫, 畠山直樹, 石原雅行. 感染対策向上加算における地域医療連携~宇都宮医療圏の合同カンファレンス、訓練~第 22 回日本医療マネジメント栃木支部学術集会(ポスター)宇都宮市, 2023 年 10 月 14 日
3. 野澤千浦, 佐々木一行, 上梶奈央子. 病棟看護師に求められる退院支援の役割~退院支援プレカンファレンスを通して~第 22 回日本医療マネジメント栃木支部学術集会(ポスター)宇都宮市, 2023 年 10 月 14 日

【院内研修】

1. 丸山沙緒里. 標準予防策について. 2023 年度第 1 回感染対策研修会(講演)オンライン, 2023 年 7 月 18 日

事務部

【学会発表(講演・シンポジウム含む)】

国内学会-①総会

1. 大塚加奈子, 矢吹拓, 畠山直樹. 診療記録の質監査によって医療事故調査制度を实践した取り組み事例. 第 77 回国立病院総合医学会(ポスター)広島市, 2023 年 10 月 20 日

国内学会-②地方会

1. 大塚加奈子, 畠山直樹, 矢吹拓. 死亡診断書に記載された「老衰」という病名に対するの適正記載研究~臨床医と診療情報管理士の認識違い Vol.1~第 22 回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会(ポスター)宇都宮市, 2023 年 10 月 14 日

臨床研究部

【英文論文】

1. Masayoshi Shinjoh, Munehiro Furuichi, Shinya Tsuzuki, Asef Iqbal, Naoya Fukushima, Sachiko Soen, Hiroyuki Fukushima, Ken Kobayashi, Go Yamada, Atsushi Narabayashi, Kenichiro Tsunematsu, Naonori Maeda, Motoko Shimoyamada, Makoto Yoshida, Yuu

Kuramochi, Akimichi Shibata, Yoshio Yamaguchi, Mizuki Yaginuma, Takao Takahashi, Masahiro Ishikane, Norio Sugaya: Keio Pediatric Influenza Research Group. Effectiveness of inactivated influenza and COVID-19 vaccines in hospitalized children in 2022/23 season in Japan - The first season of co-circulation of influenza and COVID-19 Vaccine2023 Jul 25;41(33):4777-4781, 2023年7月

2. Jun Muto, Yutaka Mine, Yuya Nishiyama, Kazuhiro Murayama, Motoharu Hayakawa, Mitsuhiro Hasegawa, John K Y Lee, Yuichi Hirose. Intraoperative Real-Time Near-Infrared Image-Guided Endoscopic Endonasal Surgery for Pituitary Tumors World Neurosurg. 2023 Jul;175:e218-e229, 2023年7月
3. Kentaro Nishi, Manabu Yamada, Takeshi Karube, Shunsuke Ochiai, Seiji Asoda, Kenichiro Suga. Laryngeal abscess formation secondary to utilization of nasogastric tube in oral cancer patient: A case report Int J Case Rep Images 2023 Ederium Journals;14(2):63-68, 2023年9月
4. Naruhiko Ishiwada, Masayoshi Shinjoh, Yoshiki Kusama, Hirokazu Arakawa, Tomohiro Ohishi, Akihiko Saitoh, Akira Suzuki, Hiroyuki Tsutsumi, Junichiro Nishi, Tadashi Hoshino, Toshihiro Mitsuda, Isao Miyairi, Noriko Iwamoto-Kinoshita, Hisato Kobayashi, Kouichiro Satoh, Akihiko Shimizu, Kenichi Takeshita, Takaaki Tanaka, Daisuke Tamura, Osamu Tokunaga, Kentaro Tomita, Koo Nagasawa, Takanori Funaki, Muhehiro Furuichi, Ippei Miyata, Mizuki Yaginuma, Yoshio Yamaguchi, Shota Yamamoto, Suzuko Uehara, Tomomichi Kurosaki, Kenji Okada, Kazunobu Ouchi. Guidelines for the Management of Respiratory Infectious Diseases in Children in Japan 2022 Practice Guideline. Pediatr Infect Dis J 2023 Oct 1;42(10)e369-e376, 2023年10月
5. Junpei Komagamine, Nao Tanaka, Yasuhiro Kano. Shoulder Pain in a Postoperative Lung Cancer Patient. Am J Med. Oct12:S0002-9343(23):00612-5, 2023年10月
6. Satsuki Yoshihara, Junpei Komagamine. Clothing artefacts appearing as multiple lung pseudonodules BMJ Case Rep 2023 Dec 11;16(12):e257820, 2023年12月
7. Junpei Komagamine, Satsuki Yoshihara. Purpura due to deep venousthrombosis Acute Med Surg2023 Dec 25;10(1):e916, 2023年12月
8. Junpei Komagamine. Prevalence of urgent hospitalizations caused by adverse drug reactions: a cross-sectional study. Sci Rep2024 Mar13;14(1):6058, 2024年3月

【和文論文】

1. 武藤淳, 峯裕. インドシアニングリーン(ICG)を用いた術中脳脊髄腫瘍のリアルタイム蛍光診断の確立. 臨床薬理の進歩 44:67-78, 2023年6月

【著書・総説】

1. 峯裕, 武藤淳. 第2特集外視鏡再入 VITOM/ORBEYE/KINEVO の特徴と症例外視鏡の概説と特徴 (3) 脳神経外科速報 33(4):482-489, 2023年6月

2. 武藤淳, 峯裕, 西山悠也, 早川基治, 村山和宏, 廣瀬雄一. 第 33 回日本間脳下垂体腫瘍学会 Proceeding 下垂体腺腫に対するインドシアニングリーンを用いた術中蛍光造影. 日本内分泌学会雑誌 99:46-47, 2023 年 7 月

【学会発表（講演・シンポジウム含む）】

国際学会

1. Singh K, Sliwa K, Nikhare K, Raspail L, Akter S, Talukder SH, Kato T, El Guerche-Séblain C, Shaikh N, Perel P, Prabhakaran D. Vaccination status and differences in clinical outcomes and long COVID symptoms among patients hospitalized with COVID-19:the WHF Covid-19 Long-term Study. 9th ESWI Influenza Conference(口演) Valencia, 2023 年 9 月 17 日-20 日
2. Moritake Iguchi, Hiromichi Wada, Tsuyoshi Shinozaki, Masahiro Suzuki, Yoichi Ajiro, Morihito Matsuda, Akihiro Koike, Tomomi Koizumi, Masatoshi Shimizu, Yujiro Ono, Takashi Takenaka, Satoru Sakagami, Yukiko Morita, Kazuteru Fujimoto, Kazuya Yonezawa, Kazuro Yoshida, Akiyo Ninomiya, Toshihiro Nakamura, Junichi Funada, Yutaka Kajikawa, Yoishifumi Oishi, Toru Kato, Kazuhiko Kotani, Mitsuru Abe, Masaharu Akao, Koji Hasegawa. Serial Measurement of Vascular Endothelial Growth Factor-D in Heart Failure: The PREHOSP-CHF Study. American Heart Association's Scientific Sessions 2023(ポスター)Philadelphia, 2023 年 11 月 11 日-13 日

国内学会-①総会

1. 峯裕, 中川祐, 林拓郎, 各務宏, 石原雅行, 稲葉真. 3D simulation と navigation は頭蓋底手術の合併症を減らす. 第 32 回脳神経外科手術と機器学会(口演)富山市, 2023 年 4 月 21 日
2. 峯裕, 武藤淳, 中川祐, 林拓郎, 各務宏, 稲葉真. 脳血管障害に対する 3D 外視鏡手術の現状と課題. 第 32 回脳神経外科手術と機器学会(シンポジウム)富山市, 2023 年 4 月 22 日
3. 峯裕, 中川祐, 各務宏, 石原雅行, 稲葉真, 林拓郎. 3D simulation と navigation は paraclinoid 動脈瘤直達術の精度向上と合併症低減に寄与する. 第 35 回頭蓋底外科学会(シンポジウム)東京都, 2023 年 7 月 6 日
4. 峯裕, 武藤淳, 中川祐, 各務宏, 稲葉真, 林拓郎. 3D 外視鏡と内視鏡のコンビネーションによる低侵襲頭蓋底手術. 第 35 回頭蓋底外科学会(ポスター)東京都, 2023 年 7 月 7 日
5. 豊田尚潔. 当院における虫垂腫瘍 15 例の臨床病理学的検討. 第 99 回大腸癌研究会学術集会(ポスター)尼崎市, 2023 年 7 月 6 日-7 日
6. 中山詩織, 下濱啓, 細野大, 磐田翔, 安井佑太, 山田学, 須賀賢一郎. 猫ひっかき病が疑われた頸部リンパ節炎の 1 例. 第 33 回日本口腔内科学会, 第 32 回日本口腔感染症学会, 第 36 回日本口腔診断学会, 第 43 回日本歯科薬物療法学会(口演)宇都宮市, 2023 年 9 月 22 日
7. 石田孝文, 沢井奈津子, 窪田展久, 岩淵博史, 安部貴大. 義歯床用裏層材の上顎洞内長期迷入により上顎洞炎を発症した 1 例. 第 33 回日本口腔内科学会, 第 32 回日本口腔感染症学会, 第 36 回

日本口腔診断学会,第43回日本歯科薬物療法学会(口演)宇都宮市,2023年9月22日

8. 吉田明史, 小林夏樹, 山田学, 岩淵絵美, 岩淵博史. 唾液分泌促進薬の長期投与が大唾液腺の分泌能機能に与える影響に関する唾液腺シンチグラフィによる評価. 第43回日本歯科薬物療法学会,第36回日本口腔診断学会,第33回日本口腔内科学会,第32回日本口腔感染症学会合同学術大会(口演)宇都宮市,2023年9月22日
9. 小林夏樹, 吉田明史, 山田学, 岩淵絵美, 岩淵博史. 長期経過観察中に抗 SS-B/La 抗体が陽性化した1次性シェーグレン症候群の2例. 第43回日本歯科薬物療法学会,第36回日本口腔診断学会,第33回日本口腔内科学会,第32回日本口腔感染症学会合同学術大会(口演)宇都宮市,2023年9月22日
- 10.小關理恵子, 石田孝文, 鈴木健司. NSAIDs 単剤投与が奏功したびまん性硬化性下顎骨骨髓炎の1例. 第43回日本歯科薬物療法学会,第36回日本口腔診断学会,第33回日本口腔内科学会,第32回日本口腔感染症学会合同学術大会(口演)宇都宮市,2023年9月23日
- 11.峯裕, 武藤淳, 中川祐, 各務宏, 稲葉真. 脳腫瘍手術における3D外視鏡による鏡視下手術の利点. 第28回日本脳腫瘍の外科学会(口演)長崎市,2023年9月29日
- 12.峯裕, 中川祐, 林拓郎, 各務宏, 石原雅行, 稲葉真. 3D simulation と navigation は頭蓋底手術の合併症を減らす. 第28回日本脳腫瘍の外科学会(シンポジウム)長崎市,2023年9月30日
- 13.村山侑子, 辰己晋平, 斎藤健太, 牧山稔. 薬剤師による外来インスリン導入指導の実施に向けて. 第77回国立病院総合医学会(ポスター)広島市,2023年10月20日
- 14.田村駿, 辰己晋平, 斎藤健太, 牧山稔. バイコマイシン血中濃度の院内測定導入に向けて. 第77回国立病院総合医学会(ポスター)広島市,2023年10月20日
- 15.峯裕, 武藤淳, 中川祐, 林拓郎, 各務宏, 稲葉真. 脳血管障害に対する3D外視鏡による複合的手術. 日本脳神経外科学会第82回学術総会(口演)横浜市,2023年10月26日
- 16.豊田尚潔. 術前診断に苦慮した直腸子宮内膜症癌化の1例. 第78回日本大腸肛門病学会学術集会(ポスター)熊本市,2023年11月10日
- 17.石田孝文, 田中香衣, 金森慶亮, 小關理恵子, 鈴木健司, 安部貴大, 小林優. 口底に生じた孤立性線維性腫瘍の1例. 第68回日本口腔外科学会総会・学術大会(ポスター)大阪府,2023年11月10日
- 18.小關理恵子, 鈴木健司, 金森慶亮, 石田孝文, 田中香衣, 小林優. Le fort1 型骨切り術における術後安定性の三次元的評価. 第68回日本口腔外科学会総会・学術大会(ポスター)大阪府,2023年11月12日
- 19.峯裕, 武藤淳, 中川祐, 各務宏, 稲葉真. 脳血管障害に対する内視鏡支援下3D外視鏡手術. 第30回日本神経内視鏡学会(ポスター)名古屋市,2023年11月16日
- 20.峯裕, 武藤淳, 中川祐, 各務宏, 石原雅行, 稲葉真, 林拓郎. 内視鏡血腫除去術の基本と成績向上を

目指した応用テクニック. 第30回日本神経内視鏡学会(ポスター)名古屋市, 2023年11月17日

- 21.武藤淳, 峯裕, 早川基治, 村山和宏, 廣瀬雄一. 脳脊髄腫瘍手術における Delayed window ICG technique を用いた蛍光ガイド下手術の有用性. 第19回日本脳神経外科光線力学学会(シンポジウム)東京都, 2023年11月25日
- 22.新庄正宜, 古市宗弘, 郁春アセフ, 山田剛, 八木沼瑞紀, 小林健, 倉持由, 前田直則, 常松健一郎, 山口禎夫, 高橋孝雄, 菅谷憲夫. 小児へのインフルエンザワクチン接種による発症防止効果、2022-2023年シーズン COVID-19の流行と重なった初めてのシーズン. 第55回日本小児感染症学会・学術集会(口演)名古屋市, 2023年11月26日
- 23.駒ヶ嶺順平. 薬物有害事象による緊急入院に関する単施設観察研究. 第51回日本救急医学会総会・学術集会(口演)東京都, 2023年11月30日
- 24.豊田尚潔. 当院におけるロボット支援下直腸切除と腹腔鏡下同時肝切除の経験. 第36回日本内視鏡外科学会総会(ミニオーラル)横浜市, 2023年12月19日
- 25.峯裕, 武藤淳, 中川祐, 各務宏, 石原雅行, 稲葉真, 林拓郎. Paraclinoid 動脈瘤の治療選択と3Dsimulation と neuronavigation による直達術戦略. STROKE2024(口演)横浜市, 2024年3月7日
- 26.峯裕, 武藤淳, 中川祐, 林拓郎, 各務宏, 稲葉真. 脳血管障害に対する3D外視鏡による複合的手術. STROKE2024(口演)横浜市, 2024年3月9日

国内学会-②地方会

1. 福本洋晃, 峯裕, 波多野まみ, 利光恵利子, 田伏正尚, 林拓郎. 悪性胸膜中皮腫の脳転移の稀な一例. 第151回一般財団法人日本脳神経外科学会関東支部学術集会(ポスター)東京都, 2023年9月9日

【研究会】

1. 峯裕. 市中病院における外視鏡の活用法 -Visionsense から KINEVO900 まで-第3回外視鏡手術研究会(教育講演)浜松市, 2023年7月30日
2. 峯裕, 岩間隆史, 田伏正尚, 福本洋晃, 林拓郎. 動脈瘤性くも膜下出血症例に対するステント併用コイル栓塞術の経験. 第27回KNC脳疾患研究会(口演)東京都, 2023年11月18日

看護学校

【和文論文】

1. 土方郁美, 森田展彰. ギャンブル障害の家族支援におけるギャマノン利用者の回復過程-TEMを用いた家族による語りの分析-. 日本アルコール・薬物医学会雑誌. 58(1):48-69, 2023年5月

【学会発表(講演・シンポジウム含む)】

国内学会-①総会

1. 土方郁美, 森田展彰. ギャンブル障害当事者の家族が家族支援に参加していることがもたらす当事者への影響. 2023 年度日本アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会(ポスター)岡山市, 2023 年 10 月 14 日
2. 土方郁美, 森田展彰, 田中紀子. ギャンブル障害当事者および家族への支援状況に関する研究—ギャンブル等依存対策基本法前後の比較—2023 年度日本アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会(口演)岡山市, 2023 年 10 月 15 日
3. 高田純子, 手塚宏美, 山崎晃枝. 看護学生の主体的学習に関する研究—学生が自ら学習するための内発的動機付けと授業時間外における学習への取り組みの実態—第 77 回国立病院総合医学会(ポスター)広島市, 2023 年 10 月 15 日
4. 春藤尚子, 熊田仁美. 新卒看護師の職場適応に向けた支援策. 第 17 回国立病院看護研究学会(ポスター)大阪市, 2023 年 12 月 2 日

国内学会-②地方会

1. 土方郁美. 看護基礎教育における改正カリキュラムでの看護学生の学びの内容. 第 22 回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会(ポスター)宇都宮市, 2023 年 10 月 14 日

【座長】

1. 片寄典子. 一般演題ポスター「学校教育 2-6」第 77 回国立病院総合医学会(座長)広島市, 2023 年 10 月 20 日

VIII

退職・異動等職種別 職員推移の状況

退職・異動等職種別職員推移の状況

2023年度

単位：人

職 種	職員数 (2023.4.1)		採 用		転 任		復 帰		休職・育休		転 出		退 職		職員数 (2024.4.1)	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
医師	65	5.66	23	6.16			1		1				14	6.92	74	4.90
医療技術職	薬剤師	15	0.83	1	0.83	2		2			2		2	0.83	16	0.83
	診療放射線技師	16	0.00	1		2					2		1		16	0.00
	臨床検査技師	15	6.49	1				2		1				4	17	2.49
	管理栄養士	5	0.00	1							1		1		4	0.00
	理学療法士	11	0.00	1		3					2		1		12	0.00
	作業療法士	8	0.00	1		1							2		8	0.00
	歯科技工士	0	0.83												0	0.83
	歯科衛生士	3	0.83	1	0.81									0.83	4	0.81
	視能訓練士	1	0.80		0.83			0.8		0.8				0.83	1	0.80
	言語聴覚士	3	0.00							1					2	0.00
	臨床工学技士	3	0.00												3	0.00
看護職	助産師	0	0.00												0	0.00
	看護師	269	19.09	41	2.49	5		9		8	0.83	1	34	4.98	281	15.77
	准看護師	2	0.83											0.83	2	0.00
その他	教員	10	0.00			2		1		1		2	2		8	0.00
	ソーシャルワーカー	5	0.00							1					4	0.00
	事務員	29	0.00	1		5		1		3		4	2		27	0.00
	電話交換手	0	0.00												0	0.00
	自動車運転手	1	0.00												1	0.00
	電気士	0	0.00												0	0.00
	ボイラー技士	0	0.83											0.83	0	0.00
	業務技術員	0	0.00		1.66										0	1.66
	薬剤助手	0	0.00												0	0.00
	臨床検査助手	0	0.00												0	0.00
	看護助手	0	13.28		7.47									7.47	0	13.28
	調理師	2	0.00										1		1	0.00
	調理助手	0	0.00												0	0.00
	教務助手	0	0.77												0	0.77
	事務助手	0	49.65		9.13						1.66			8.3	0	48.82
総 数	463	99.89	72	29.38	20	0	16	0.8	16	3.29	14	0	60	35.82	481	90.96

※就業規則改定に伴い、非常勤職員の常勤換算数が変更となった

年 報
2023年度
2025年3月31日発行

編 集 独立行政法人国立病院機構
栃木医療センター年報編集委員会

発行者 独立行政法人国立病院機構

栃木医療センター

〒320-8580

栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37

TEL 028-622-5241

印 刷 第一印刷株式会社